

武蔵野市「団塊世代」
市民アンケート調査

報告書

平成16年3月

武蔵野市

目 次

1 . 調査の概要	1
1 - 1 調査目的	1
1 - 2 調査方法	2
1 - 3 調査対象	2
1 - 4 調査期間	2
1 - 5 配布数及び回収率	2
1 - 6 アンケートの内容	2
1 - 7 調査機関	2
1 - 8 報告書の留意事項	2
2 . 調査結果の概要	3
3 . 調査結果	7
3 - 1 アンケート回答者について	7
3 - 2 生活に関する考え・意識など	13
3 - 3 地域活動への参加	37
3 - 4 武蔵野市政について	44
3 - 5 市のまちづくりに関する自由意見	62

巻末資料 アンケート調査票

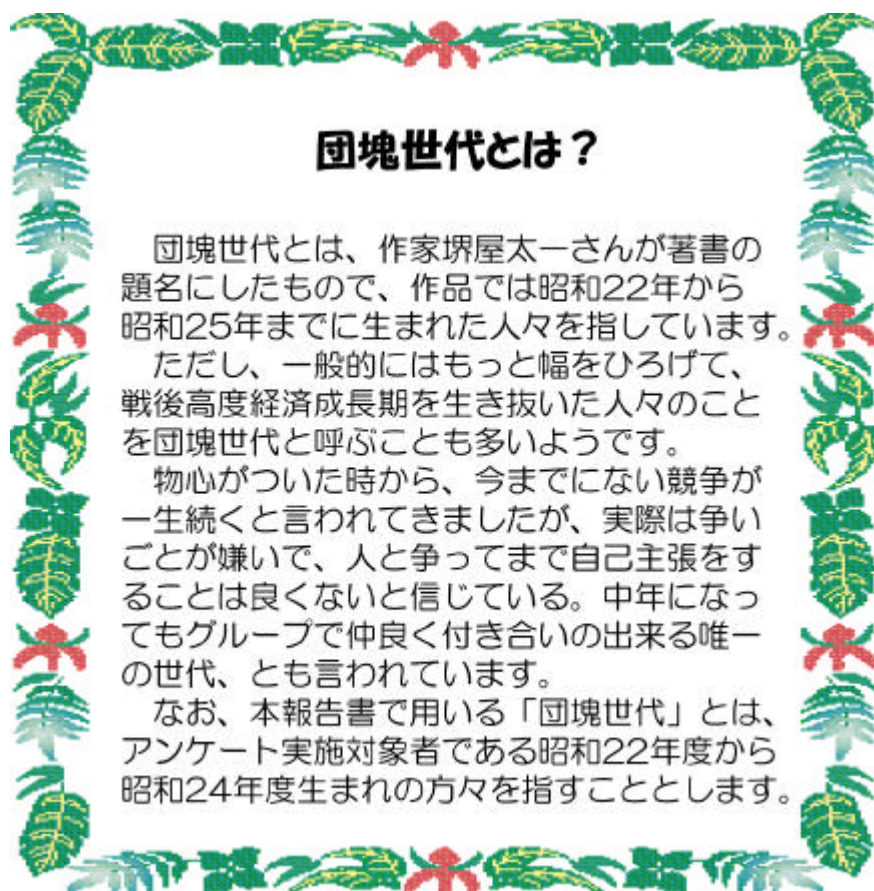
1 . 調査の概要

1 - 1 調査目的

団塊世代の皆さんは、戦後高度成長期に生きるとともに、数の多さと行動力の大きさにより社会を牽引されてきました。時を経て日本社会は今、少子・高齢化の急速な進展などの深刻な社会問題を抱え、次世代の育成支援対策が早急な課題となっています。

今後、安心して暮らせる住みよい社会をつくるため、間もなく「第二の人生」に踏み出そうとされている団塊世代の皆さんが次世代に果たす役割は大きいのではないのでしょうか。

本調査は、団塊世代の皆さんが今の生活をどのように感じ、また地域社会との係り方も含め、将来どのような生き方をされようとしているのかを把握し、武蔵野市第四期基本構想・長期計画策定に活用することを目的に実施したものです。

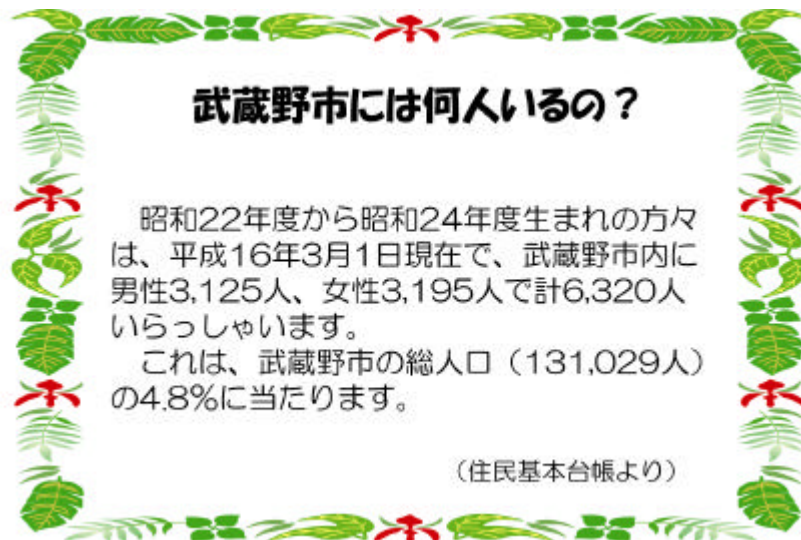


1 - 2 調査方法

アンケート票を対象者に郵送配布、郵送回収

1 - 3 調査対象

昭和 22 (1947) ~ 昭和 24 (1949) 年度生まれの市内在住の方 3,000 人
(無作為抽出)



1 - 4 調査期間

平成 16 年 2 月 13 日 (金) ~ 3 月 8 日 (月)

1 - 5 配布数及び回収率

配布数 3,000 通

回収数 907 通 (うち有効票数 896 通)

回収率 30.2 % (有効回収率 29.9 %)

1 - 6 アンケートの内容

アンケートの設問内容は、巻末資料に示すとおり

1 - 7 調査機関

パシフィックコンサルタンツ株式会社

1 - 8 報告書の留意事項

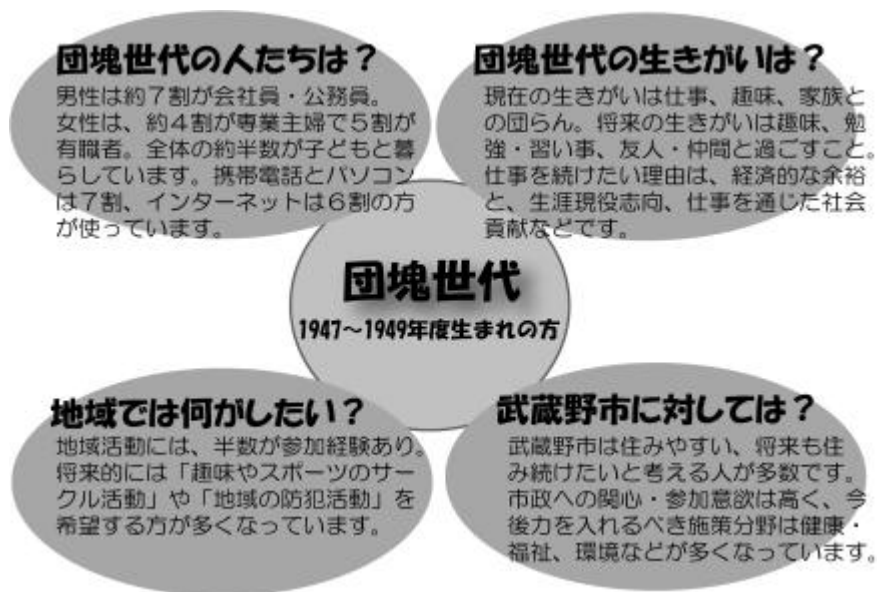
- 集計数表の割合は、小数点第 2 位を四捨五入して算出しました。したがって、回答比率を合計しても、100%にならない場合があります。
- 回答比率(%)はその設問の回答者数を母数として算出しました。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると 100%を超えることがあります。

2 . 調査結果の概要

武蔵野市では、いわゆる「団塊世代」の方の生活に対する意識・将来の志向等を把握し、第四期基本構想・長期計画策定に活かすため、市内在住の昭和 22(1947)年度から昭和 24(1949)年度生まれ 3,000 人の方を対象に「武蔵野市『団塊世代』市民アンケート調査」を行いました。

回収数は 907 票(30.2%)、うち有効回収数は 896 票で、有効回収率は 29.9% でした。

調査結果の概要は、以下に示すとおりです。



団塊世代の人たち

「3 - 1 アンケート回答者について」参照

団塊世代の男性の 7 割が会社員・会社役員または公務員などの給与所得者です。また、女性は 4 割が専業主婦、5 割がアルバイト・会社員・自営業などの仕事を持っている方です。全体で見ると、勤め人が 36.2%で最も多く、次いで専業主婦が 19.1%、自営業・自由業 15.2%となっています。

世帯の構成をみると、子どもとの二世帯同居が最も多く 48.7%となっています。また、夫婦のみ 16.6%と、親との二世帯同居 14.1%がほぼ同じ割合です。このほか 10.3%の方が単身世帯となっています。

市内への居住年数では、59.2%が 20 年以上となっています。これに 10 年以上 20 年未満の 17.4%を加えると 76.6%の方々が武蔵野市に 10 年以上住んでいることとなります。

携帯電話を所有している方は 73.1%と、3/4 の方が所有しています。パソコンの使用状況は、「よく使っている」が 43.5%、「たまに使っている」が 24.0%で、合計 7 割近くの方が利用しています。インターネットは 6 割の方が利用しています。

団塊世代の現在と将来の生きがい

「3 - 2 生活に関する考え・意識など」参照

団塊世代の現在の生きがいは、「職業・仕事」54.1%、「趣味」51.2%、「家族との団らん」47.2%、「友人・仲間と過ごすこと」41.2%となっています（下の図 2-1 参照）

将来の生きがいをみると、「趣味」が最も多く 68.6%、次いで「勉強・習い事」43.4%、「友人・仲間と過ごすこと」40.0%となり、現在 1 位である「職業・仕事」は 4 位(38.8%)へと後退します（図 2-1 参照）。男女・職業を問わず「趣味」を選択した方が多く、また、男女とも現在働いている方が「職業・仕事」を選択している割合が高いことが特徴的です。

仕事を続けたい理由として最も多かったのは、「経済的な余裕が欲しい」でした。男女別では女性が、職業別ではパート・アルバイトの方がより多く選択しています。そのほか、「社会的に現役でいたい」、「仕事を通して社会に貢献したい」などが理由として多くなっています。

「地域活動」、「NPO活動」、「その他のボランティア活動」を合わせてみると、現在生きがいを感じている方は 14.5%ですが、将来生きがいにしたいと思っている方は 49.5%と約 3 倍に増えています。将来の生きがいとして NPO を選んだ方では、「学術・文化・芸術・スポーツ振興」、「環境保全」、「子どもの健全育成や教育」、「保健、医療、福祉」の分野の活動に人気がありました。

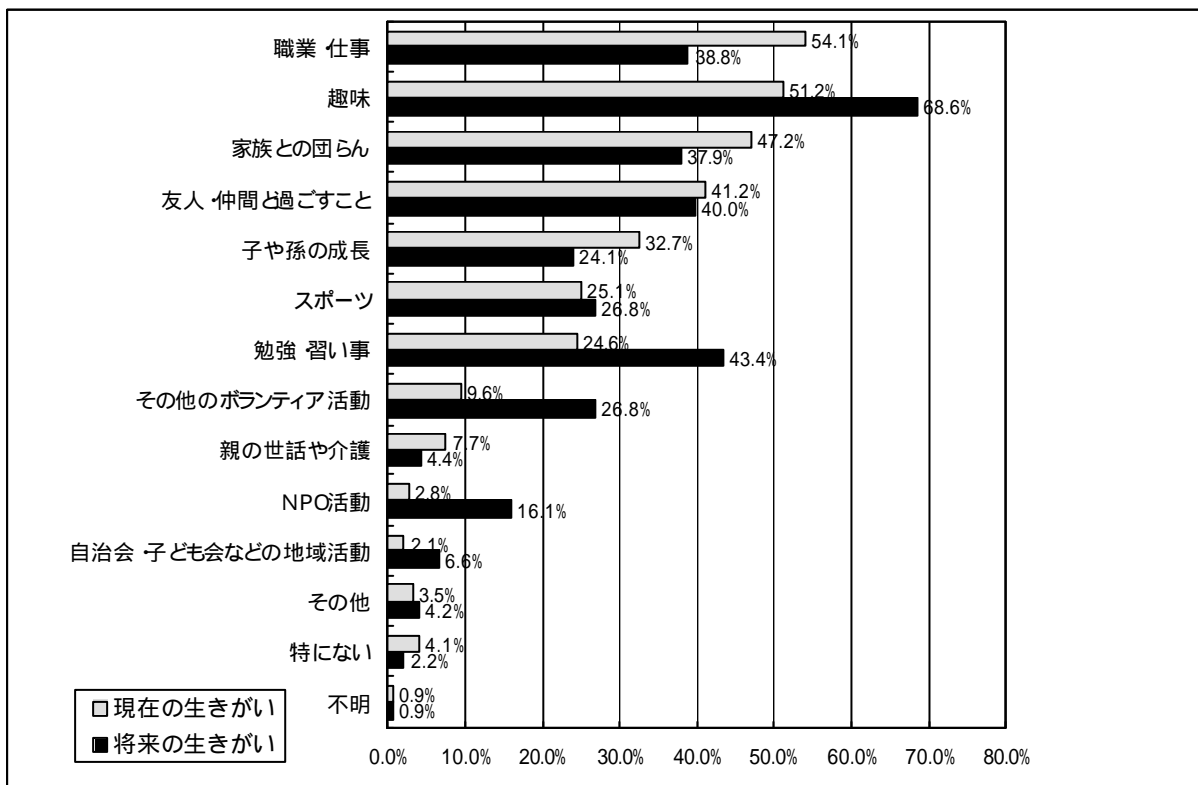


図 2-1 団塊世代の現在の生きがいと将来の生きがいの比較

将来の生きがいとして「勉強・習い事」を選んだ方にその内容を尋ねたところ、「趣味・けいこごと」が最多でした。そのほか、「健康・スポーツ」、「一般教養」、「パソコン・ワープロ・インターネット」、「英会話などの語学」が多くなっています。男女別にみると、男性では「一般教養」、女性では「趣味・けいこごと」が最も多くなっています。

将来、大切にしたいこと 7 項目について、優先度に応じた点数配分（合計 100 点）を尋ねたところ、全体では「自分や家族の健康」が平均 26.1 点で最高点となりました。続いて、「家族との関係」が 20.0 点で、上位 2 項目が家庭に関するものとなっています。3 番目は、「余暇生活・時間的なゆとり」の 14.5 点でした。

地域活動・ボランティア等に対する意識

「3 - 3 地域活動への参加」参照

地域活動への参加経験がある方は 51.7% でした。さらに、参加経験を居住年数別で見た場合、長く住んでいる方ほど「地域の公園や歩道の清掃などの美化活動」への参加率は高く、一方「自治会など地縁に基づく地域活動」は、市内居住年 3 年未満が最も参加率が高い傾向がみられます。その他の活動については、居住年数との明確な関係はみられませんでした。

選択肢の中では、「趣味やスポーツなどを中心としたサークル活動」が、現在（35.0%）・将来（50.8%）ともに数値が高く、反対に、「地域の集会施設などの自主的管理運営」については、現在・将来を問わず消極的な傾向がみられました。「近隣の人々で取り組む防犯活動」については、現在の参加経験は 9.8% ですが、将来は 41.8% の方が「参加したい」と答えています。

特技・知識・技術は、「スポーツ」が 23.0% と最も多く、次いで「パソコン・ワープロ・インターネット」22.7%、「経理・簿記・人事管理・営業・接客」18.0%、「保健・食生活・料理・子育て・保育・教育」15.1% などとなっています。

「お父さんお帰りなさいパーティー」は、2 割の方が知っていました（「内容も含めて知っていた」）、「名前は知っていた」の合計）。このような地域活動への参加を支援する催しへ「参加したい」方は 10.5%、「どちらかと言えば参加したい」方は 22.2% で、参加に対して前向きな方は合わせて 32.7% でした。

武蔵野市政に対する意識

「3 - 4 武蔵野市政について」参照

武蔵野市の市政に関心がある方は、「とても関心がある」の14.8%と「関心がある」の56.5%を合わせて71.3%です。また、市民参加に意欲がある方は、「積極的に参加したい」の6.1%と「関心のあるものには参加したい」の54.7%を合わせて60.8%となっています。

市民の意見提示方法の認知度で最も高かったのは「市長と語る会」52.9%、「市長への手紙」48.9%、「地元説明会」34.3%でした。最も認知度の低い提示方法は、「各種計画策定時の中間とりまとめ報告などにおける意見募集」16.2%でした。

市民の意見提示方法の将来の参加・利用意欲をみると、「市長への手紙」、「担当課への意見提示」、「地元説明会」で3割前後が「参加・利用したい」との意向を示しています。また、「参加・利用したい」よりも「したいとは思わない」との消極的な意向が多くなっているのは「市長と語る会」、「電子会議室」、「各種計画策定時の中間とりまとめ報告などにおける意見募集」、「各種計画の策定委員会や審議会などの委員への市民公募」でした。

武蔵野市の地域特性で満足度（「満足」、「まあ満足」の合計）が最も高かったのは、「緑や水辺の豊かさ」60.8%でした。次いで、「高齢者福祉」48.2%、「市民の健康づくりへの取り組みやすさ」46.3%などとなっています。一方、満足度が最も低かったのは、「自転車のマナー」11.4%でした。

武蔵野市が暮らしやすいと「思う」方は35.4%、「どちらかといえばそう思う」方は45.1%で合わせて80.5%の方が暮らしやすいと感じています。また、武蔵野市へ住み続けたいと「思う」方は54.9%で半数を超えています。

団塊世代として「市が重点的に力を入れるべき」と考える施策分野の配点をみると、「健康・高齢者福祉・障害者福祉」が最も高く、次いで「環境」、「子育て支援・教育・文化」、「まちづくり・住宅」、「市民参加・市政運営」の順となっています。

市が優先的に進めるべき取り組みとして、最も割合が高かったのは、「市が行った施策は、第三者を含めて評価・見直しを行い、改善につなげる」47.8%でした。次いで、「長期的視野に立って、効果的な予算の配分や執行をする」45.0%となっています。

3 . 調査結果

3-1 アンケート回答者について

(1) 性別 (問 23-1)

～ 男性 35.2%、女性 39.5% ～

N=896

アンケート回答者 896 人のうち、男性は 35.2%、女性 39.5%で、女性がやや多い結果となりました。

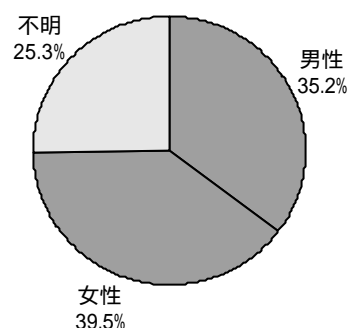


図 3 - 1 アンケート回答者の性別

(2) 住まい (問 23-2)

～ 吉祥寺北町 131、吉祥寺東町 101 など ～

アンケート回収数を回答者の住まい別に見ると、次のとおりです。

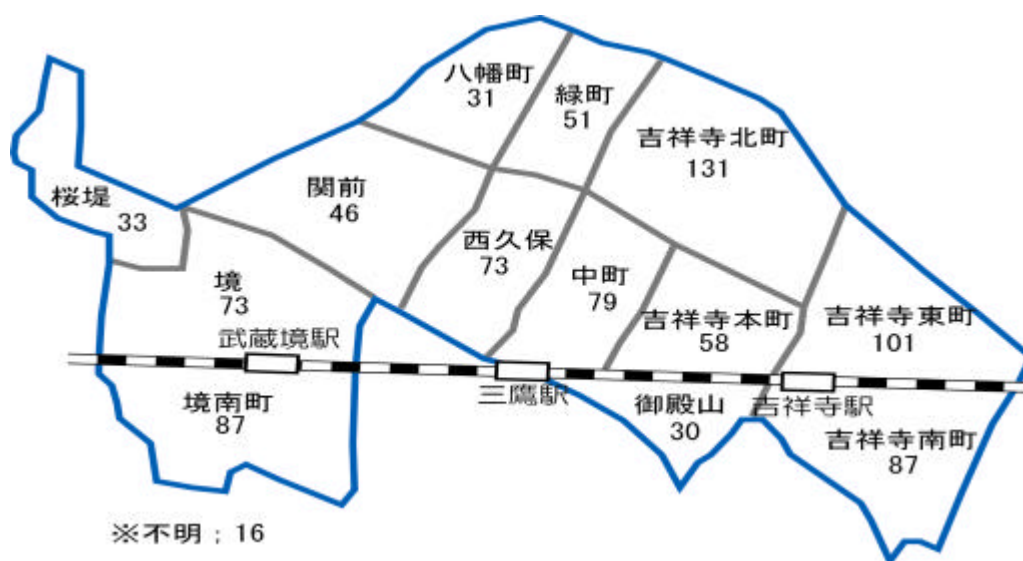


図 3 - 2 住まい (地区) 別割合

(3) 職業 (問 23-3)

～ 男性は圧倒的に会社員、女性は専業主婦と勤め人がほぼ同率～

団塊世代の職業を全体でみると、会社員・公務員が 36.2% で最も多く、次いで専業主婦が 19.1%、自営業・自由業 15.2% となっています。

合計 73.6% の方が働いています。

N=896

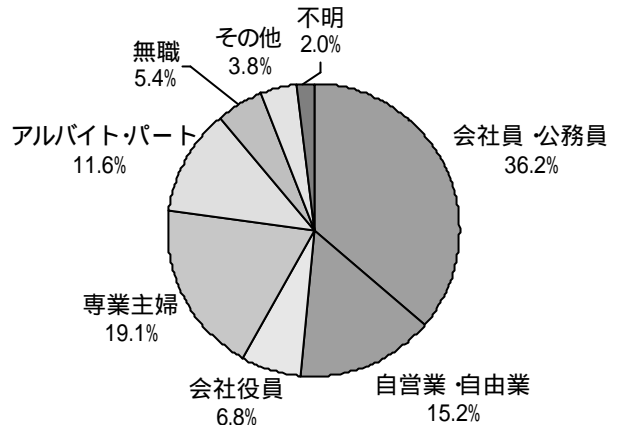


図 3-3 職業別構成比

次に、男女別にみると、男性では会社員・会社役員が 69.8% と圧倒的に多くなっています。一方、女性では専業主婦が 38.4% で最も多く、次いでアルバイト・パート (20.6%)、会社員・会社役員 (19.5%) となっています。

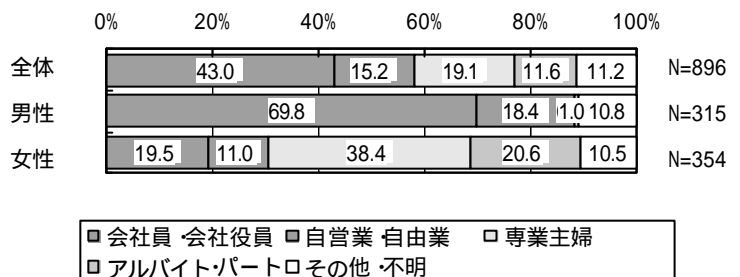


図 3-4 男女別職業比

(4) 世帯の構成 (問 23-4)

～ 約半数が子どもと同居。「夫婦のみ」「親と同居」がほぼ同率～

N=896

世帯の構成をみると、子どもとの二世帯同居が最も多く 48.7% となっています。

また、夫婦のみと親との二世帯同居がそれぞれ 16.6%、14.1% でほぼ同率となっています。

さらに約 10.3% が単身世帯となっています。

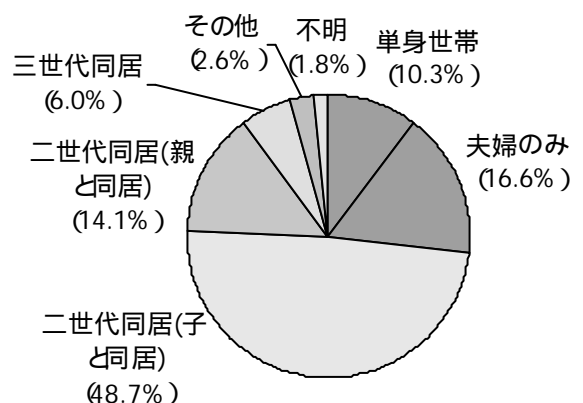


図 3-5 世帯構成の割合

(5) 居住年数(問 23-5)

～ 武蔵野市に10年以上住んでいる方が3 / 4を超える～

N=896

市内への居住年数は、59.2%が「20年以上」となっています。これに「10年以上20年未満」の17.4%を加えると76.6%の方が武蔵野市に10年以上住んでいることとなります。居住年数が10年未満の方は、合わせて21.9%でした。

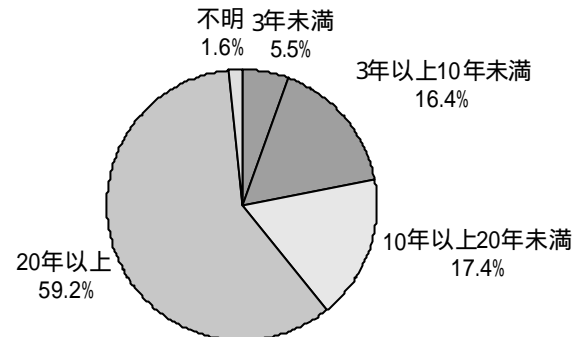


図 3-6 市内居住年数

(6) 市広報紙への関心(問 23-6)

～ 全体の8割以上が目を通しています～

N=896

市広報紙は、「よく読む」方が34.0%、「ざっと読む」方が48.9%、両方を合わせると82.9%の方が広報紙に目を通してることになります。

「まったく読まない」という方は、わずかに2.3%でした。

この結果は、団塊世代の市政への関心度が高いことを示すものと思われます。

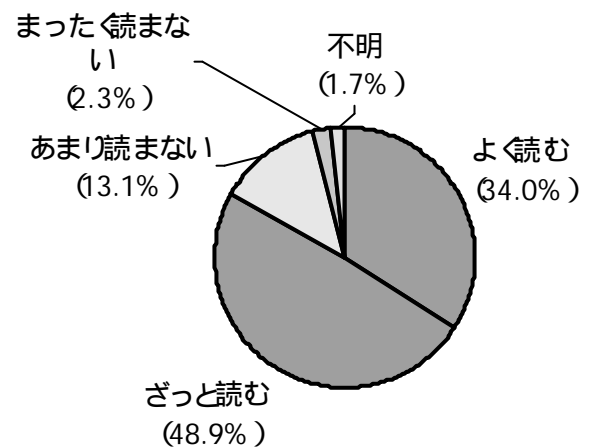


図 3-7 広報紙への関心

(7) 携帯電話の所有状況 (問 23-7)

～携帯電話所有率は73.1%～

N=896

携帯電話を所有している方は73.1%と、約3/4の方が所有しています。

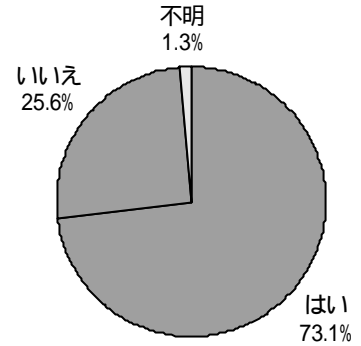


図 3 - 8 携帯電話の所有状況

次に性別・職業別の所有率をみると、男性の「自営業・自由業」が81.0%、「会社員・公務員・会社役員」が80.9%と並んで高くなっていますが、全体的には性別・職業別による所有率の差は大きくありません。

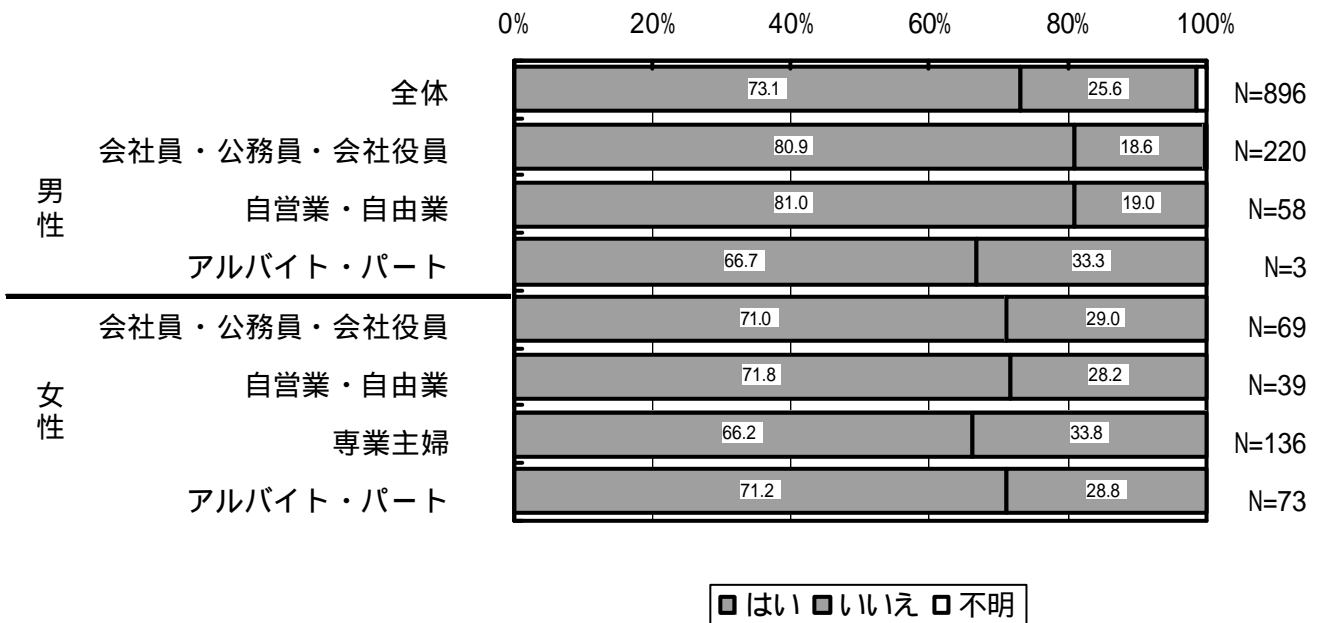


図 3 - 9 男女別・職業別の携帯電話所有状況

(8) パソコンの使用状況 (問 23-8)

～よく使っている方は全体の4割、使ったことがない方は2割～

N=896

パソコンの使用状況は、「よく使っている」が43.5%、「たまに使っている」が24.0%で、合わせて67.5%の方が使っていると回答しています。

一方、「ほとんど使っていない」の13.8%と、「使ったことがない」の17.1%を合わせた30.9%の方が使っていない状況です。

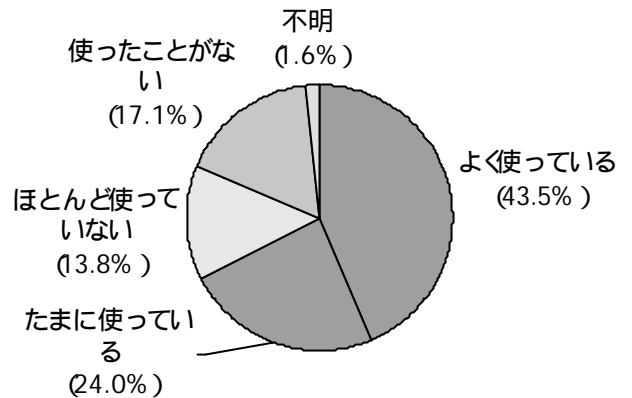


図3-10 パソコン利用状況

性別・職業別にパソコンの利用状況を見ると、男性・女性共に「会社員・公務員・会社役員」が最も多く、次いで「自営業・自由業」となっています（男性の「アルバイト・パート」は回答数が少ないため、分析に含んでいません）。

また、同じ職業でも男性の利用状況がやや高いことがわかります。

専業主婦では、「よく使っている」、「たまに使っている」を合わせても50%強と少なく、約2割の方が「使ったことがない」と答えています。

パソコンの利用状況は、職業に左右される傾向がうかがえます。

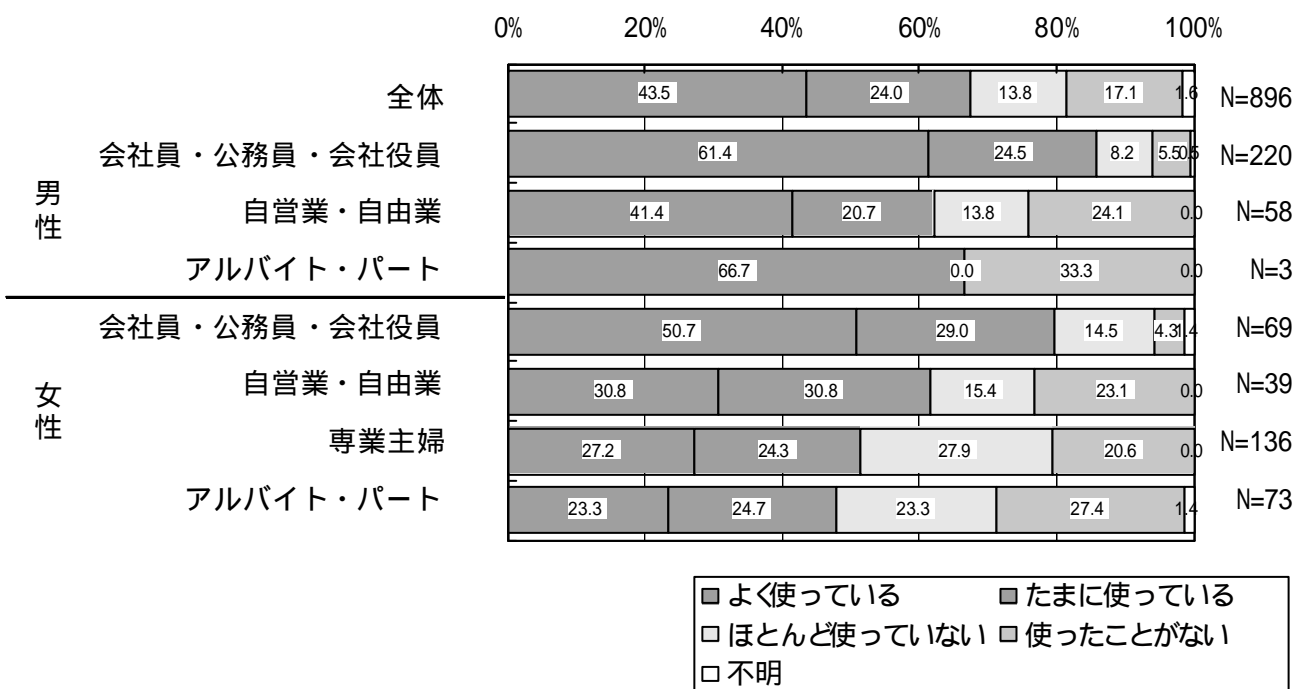


図3-11 男女別・職業別パソコン利用状況

(9) インターネットの利用状況 (問 23-9)

～使っている方が6割と過半数～

N=896

インターネットの利用状況は、「よく使っている」34.9%、「たまに使っている」25.2%を合わせて60.1%の方が使っており、パソコンの使用状況と比較するとやや少なくなっています。

「使ったことがない」との回答が24.0%と、全体の1/4近くの方がインターネットを利用したことがありません。

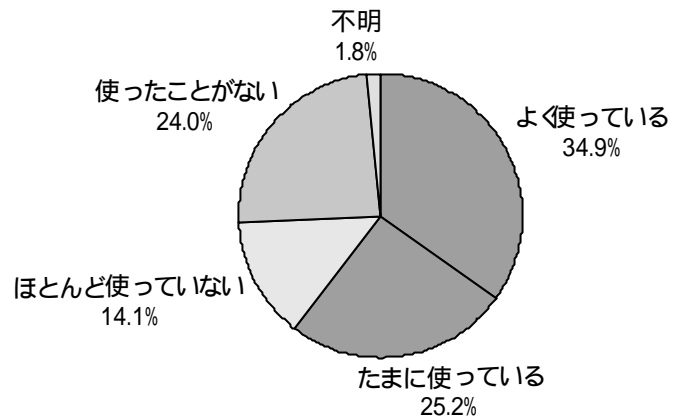


図3-12 インターネット利用状況

インターネットの利用状況を性別・職業別にみると、パソコンの利用状況と同様に男女とも「会社員・公務員・会社役員」の利用が最も多いことがわかります。

ただし、パソコンの利用状況(図3-11)と比較すると、「よく使っている」方の割合が全体的に低いこともわかります。

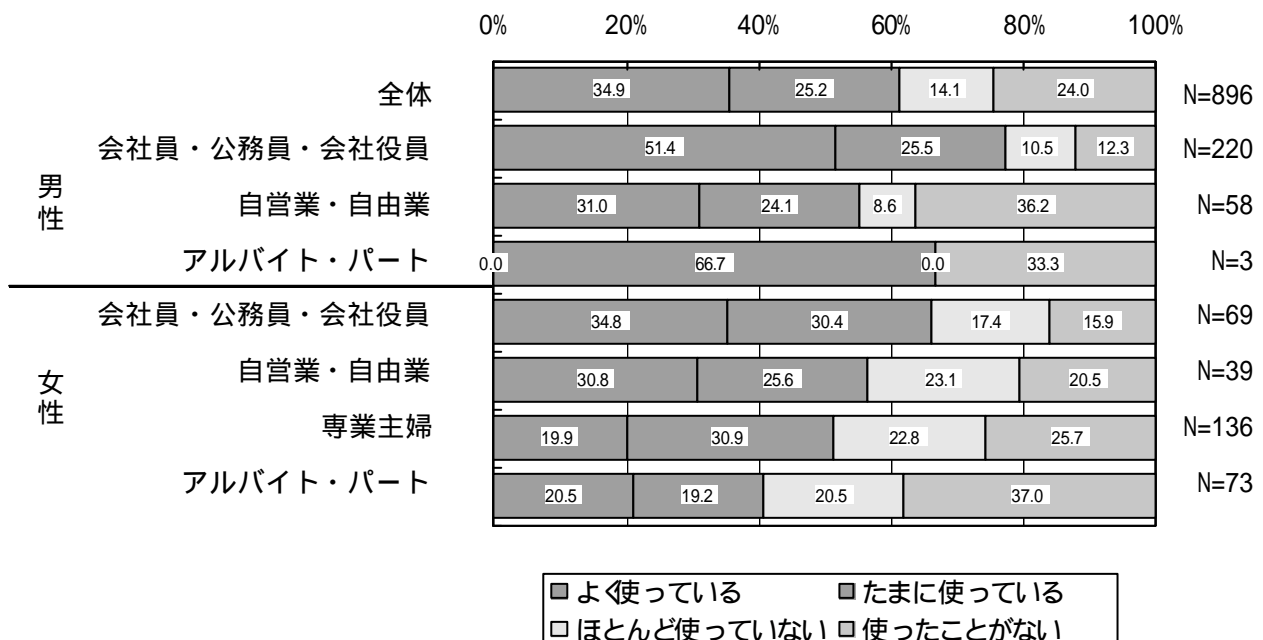


図3-13 男女別・職業別インターネット利用状況

3-2 生活に関する考え・意識など

(1) 現在の生きがい(問1)

～今の生きがいは「仕事」、「趣味」、「家族との団らん」など～

団塊世代の現在の生きがいを全体で見ると、「職業・仕事」54.1%、「趣味」51.2%、「家族との団らん」47.2%、「友人・仲間と過ごすこと」41.2%などとなっています。

「自治会・子ども会などの地域活動」は2.1%、「NPO活動」は2.8%、「その他のボランティア活動」は9.6%でした。

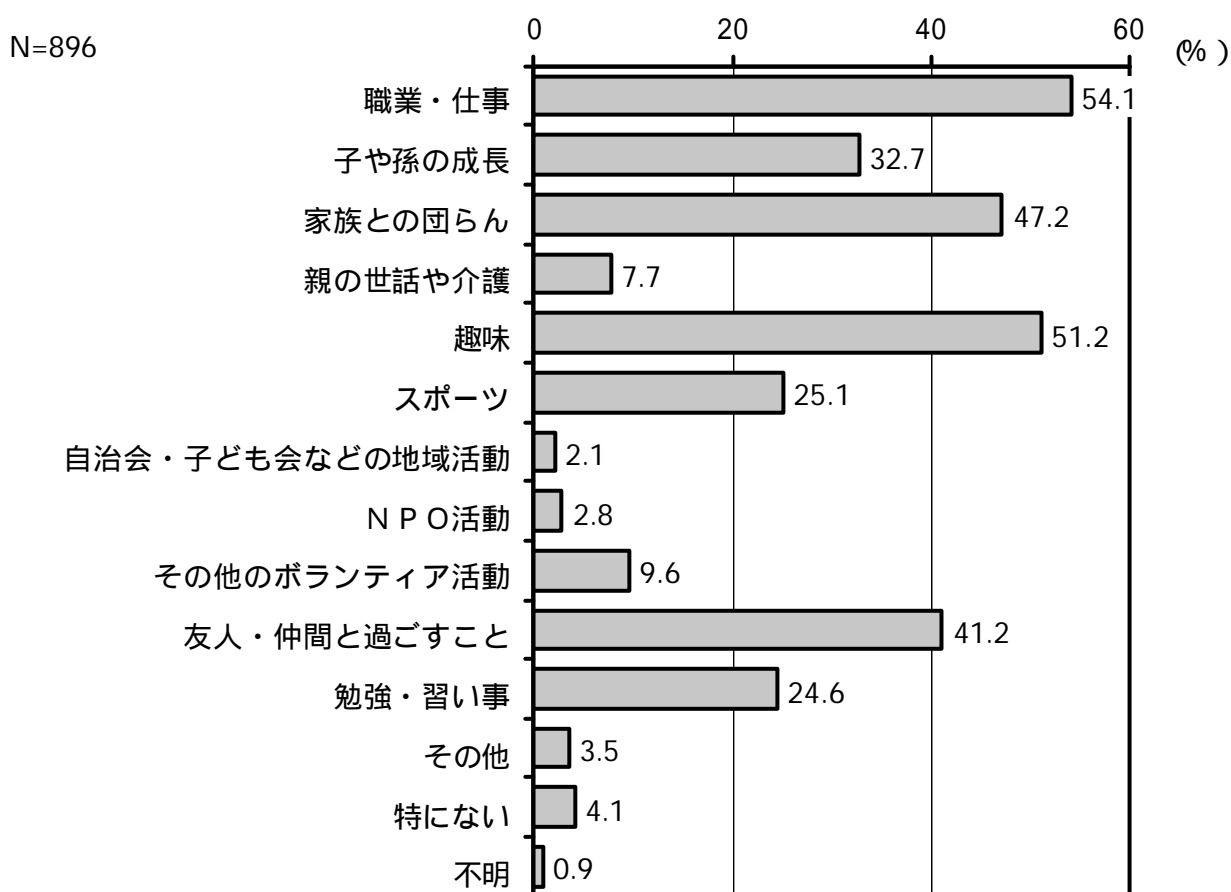


図3-14 現在の生きがい

世帯構成別にみると、「職業・仕事」、「趣味」、「家族との団らん」が多い傾向は変わりませんが、子と同居の世帯では、「家族との団らん」が「職業・仕事」を上回っており、「子や孫の成長」もほかの世帯に比べ高くなっています。

また、「単身世帯・夫婦のみ」、「親と同居・三世帯同居」の世帯では、「趣味」が「家族との団らん」を上回っています。

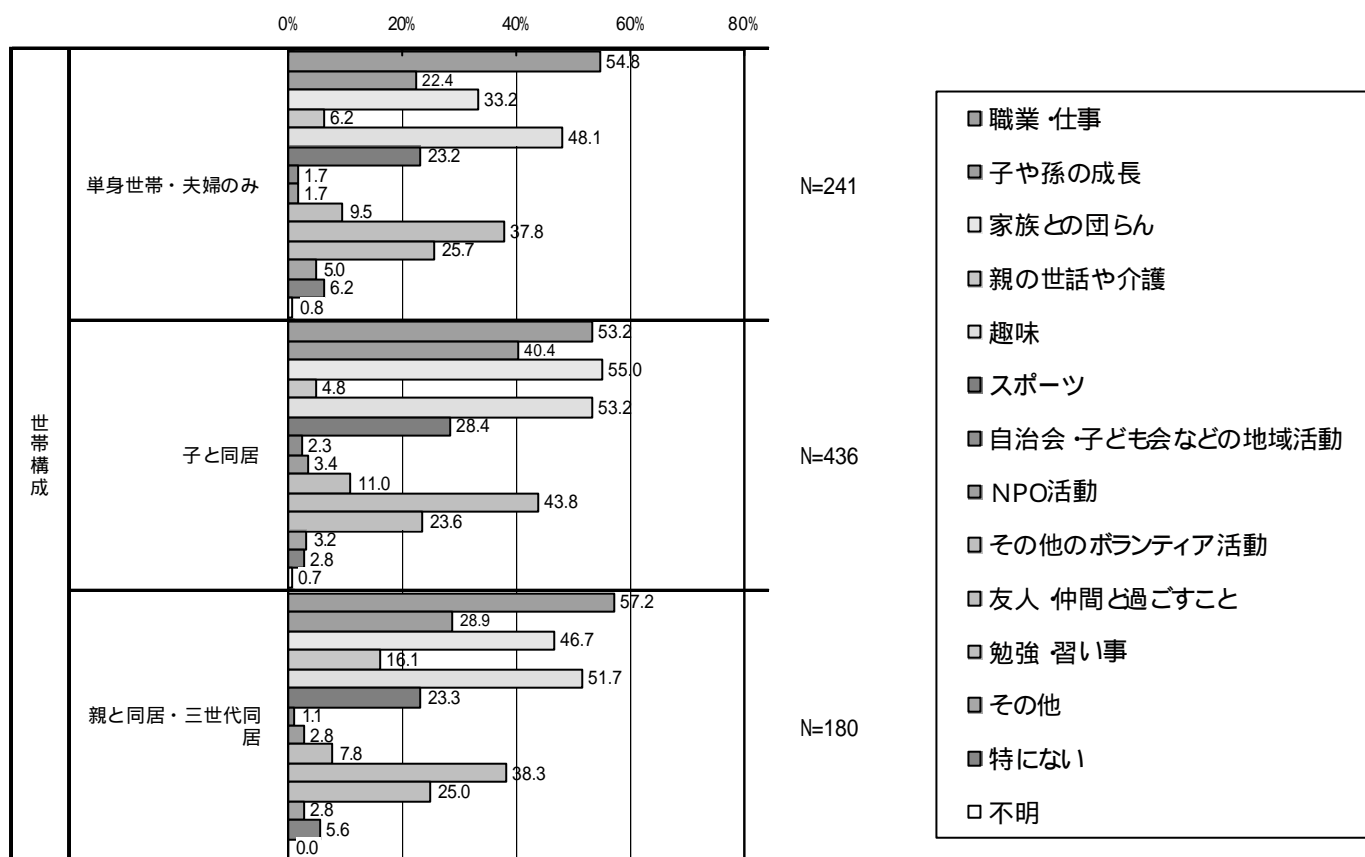


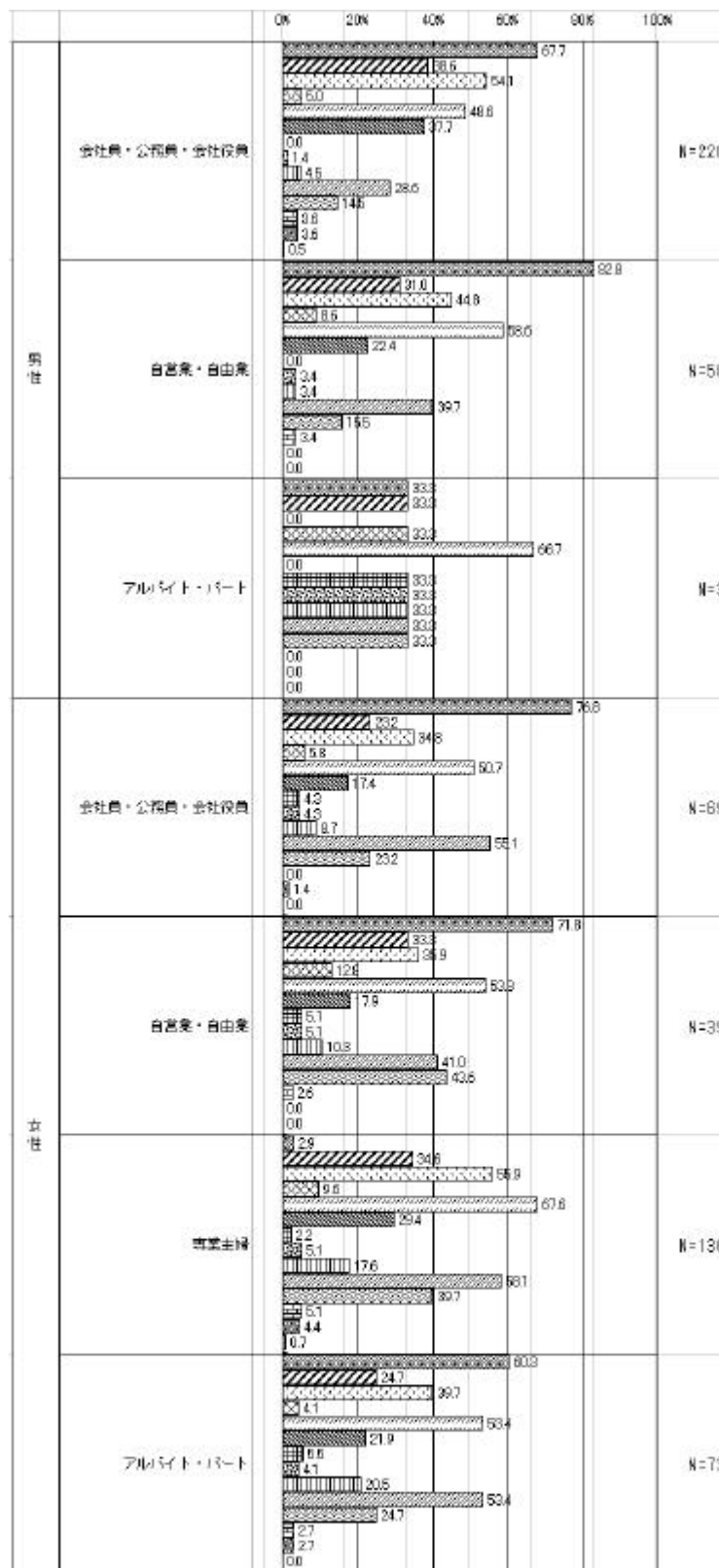
図 3 - 15 世帯構成別の現在の生きがい

男性では回答者数の少なかった「アルバイト・パート」を除き、「職業・仕事」が最も多く、特に自営業・自由業でその割合が高くなっています。

また、2番目・3番目に多い生きがいをみると、「会社員・公務員・会社役員」では「家族との団らん」、「趣味」となっていますが、「自営業・自由業」では「趣味」、「家族との団らん」となっており両者で逆転しています。

女性では、有職者はいずれも「職業・仕事」が最も多く、次いで「趣味」「友人・仲間と過ごすこと」などが多くなっています。

「専業主婦」では「趣味」が最も多く、「家族との団らん」や「友人・仲間と過ごすこと」がほかの職業に比べて多くなっています。



- 職業・仕事
- 家族との団らん
- ▨ 趣味
- ▩ 自治会・子ども会などの地域活動
- ▧ その他のボランティア活動
- ▦ 勉強・習い事
- ▤ 特になし
- ▥ 子や孫の成長
- ▣ 親の世話や介護
- ▢ スポーツ
- NPO活動
- 友人・仲間と過ごすこと
- ▧ その他
- ▦ 不明

図3-16 男女別・職業別現在の生きがい

(2) 将来の生きがい(問2)

～将来の生きがいは「趣味」、でも「自営業・自由業」では仕事～

団塊世代の将来の生きがいをみると、「趣味」が最も多く68.6%、次いで「勉強・習い事」43.4%、「友人・仲間と過ごすこと」40.0%となっています。

「自治会・子ども会などの地域活動」は6.6%、「NPO活動」は16.1%、「その他ボランティア活動」は26.8%でした。

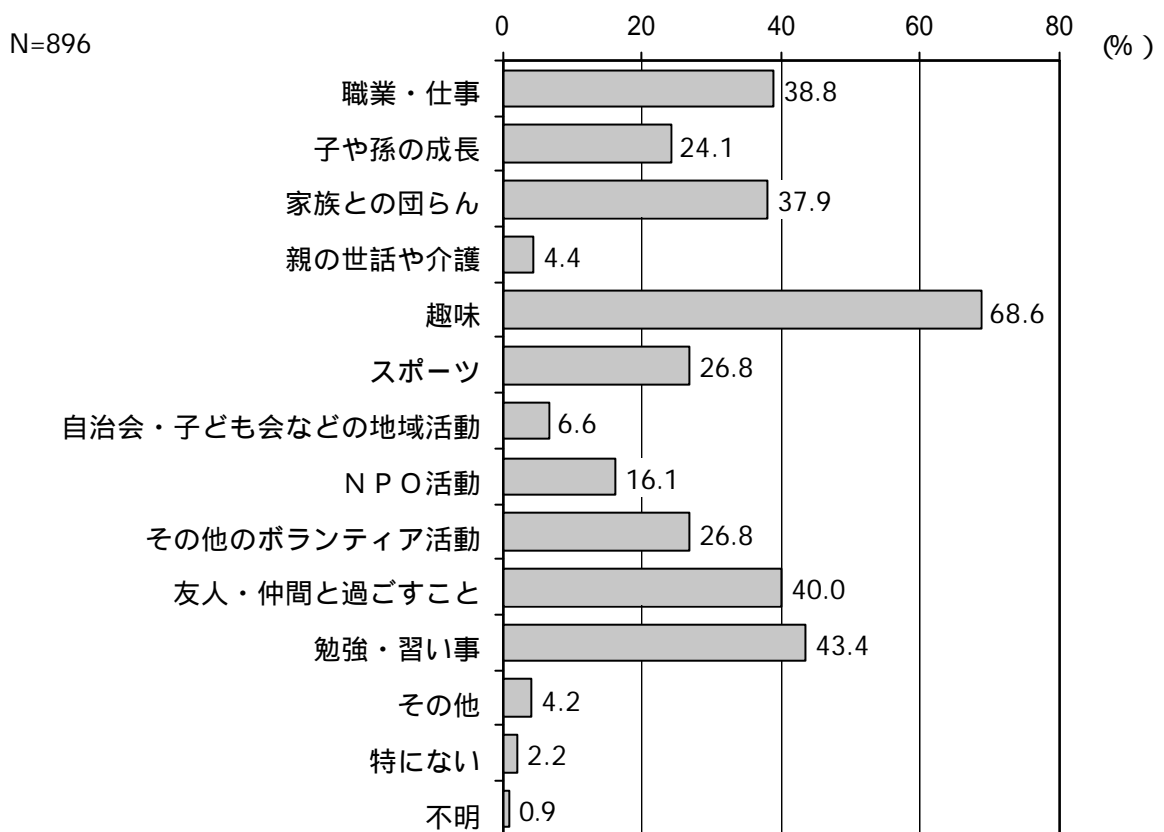


図3-17 将来の生きがい

「将来」とは、ここでは

現在、企業や団体などにお勤めの方で、いずれは定年退職などによる引退（リタイア）を考えている方は「退職後」、
それ以外の方は「おおむね60歳以降」

を想定し、お伺いしています。

現在の生きがいと将来の生きがいを比較すると、現在の生きがいで 1 位（54.1%）である「職業・仕事」は、将来では 4 位（38.8%）へと後退しています。反対に、現在の生きがいで 2 位である「趣味」が 1 位に、7 位である「勉強・習い事」が第 2 位に浮上しています。

「その他のボランティア活動」、「NPO活動」、「自治会・子ども会などの地域活動」も、現在から将来に向かって割合が高くなっており、特に「NPO活動」は現在の 2.8%から将来は 16.1%と大きく上昇しています。

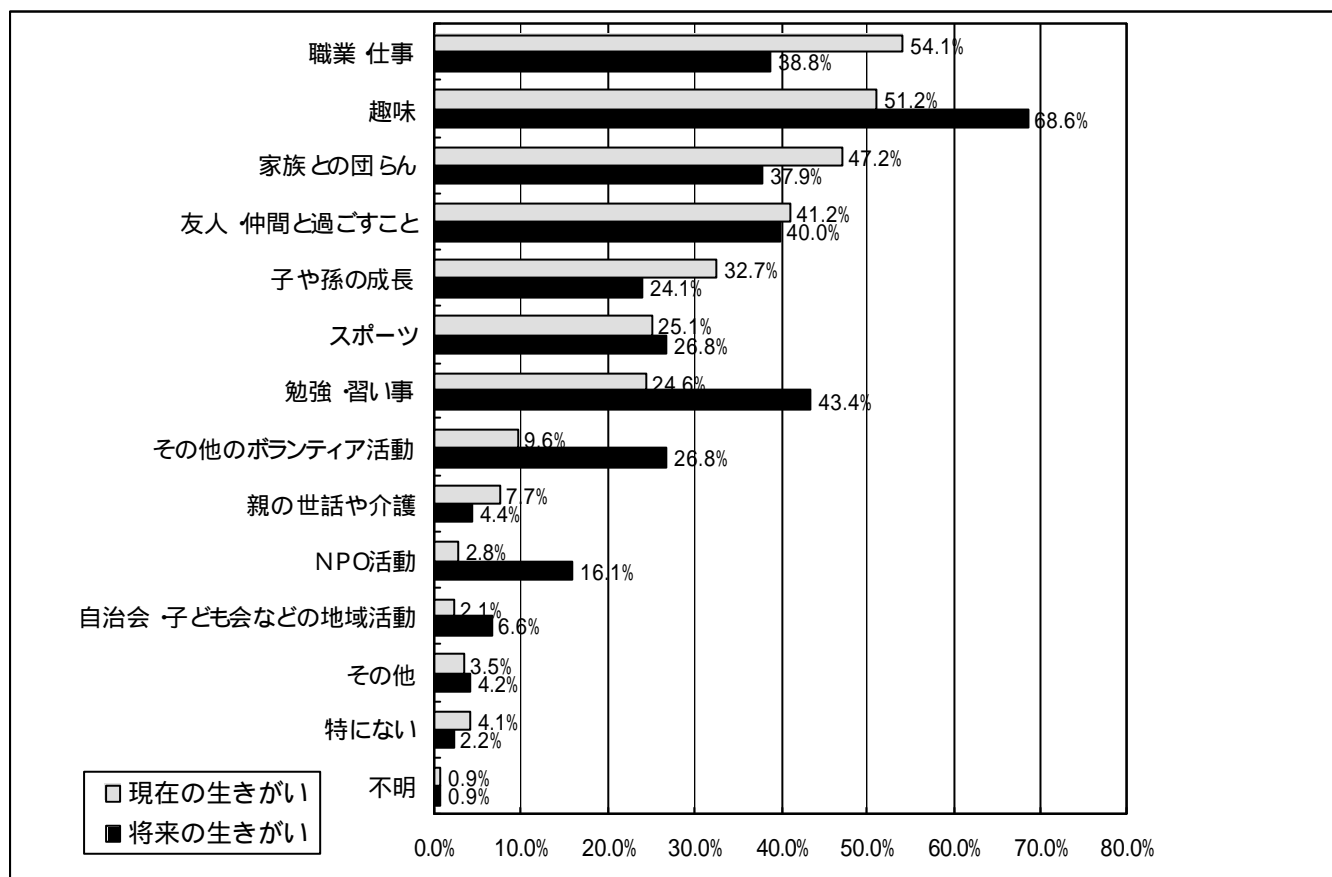
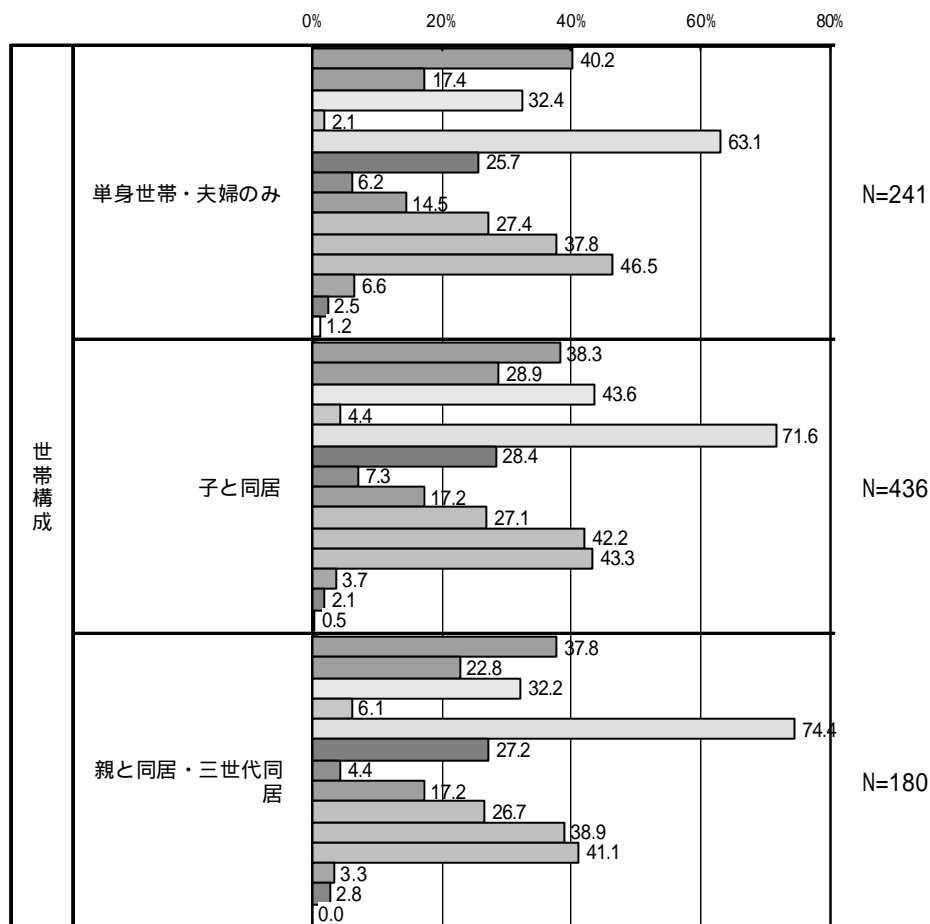


図 3 - 18 現在の生きがいと将来の生きがいの比較

将来の生きがいを世帯構成別にみると、どの世帯構成でも「趣味」が最も多くなっていますが、その割合は、「単身世帯・夫婦のみ」の世帯よりも「子どもと同居」、さらに「親と同居・三世帯同居」の方が高くなっていることがわかります。

そのほか、「勉強・習い事」、「友人・仲間と過ごすこと」、「職業・仕事」では、どの世帯構成でもほとんど同じ割合となっていますが、子と同居の世帯ではほかの世帯に比べ、「子や孫の成長」、「家族との団らん」の割合が高くなっています。



- 職業・仕事
- 子や孫の成長
- 家族との団らん
- 親の世話や介護
- 趣味
- スポーツ
- 自治会・子ども会などの地域活動
- NPO活動
- その他のボランティア活動
- 友人・仲間と過ごすこと
- 勉強・習い事
- その他
- 特にない
- 不明

図3-19 世帯構成別の将来の生きがい

さらに、性別・職業別に将来の生きがいについてみると、男性では会社員・公務員・会社役員で「趣味」の割合が最も高くなっていますが、自営業・自由業及びアルバイト・パートでは「職業・仕事」の割合が最も高くなっています。

女性では、自営業・自由業を除くすべての職業で「趣味」が最も多くなっています。

また、男性に比べると、すべての職業で「勉強・習い事」の割合が高くなっています。

- 職業・仕事
- ▣ 子や孫の成長
- 家族との団らん
- ▤ 親の世話や介護
- ▥ 趣味
- ▦ スポーツ
- ▧ 自治会・子ども会などの地域活動
- ▨ NPO活動
- ▩ その他のボランティア活動
- 友人・仲間と過ごすこと
- 勉強・習い事
- ▬ その他
- ▭ 特にない
- 不明

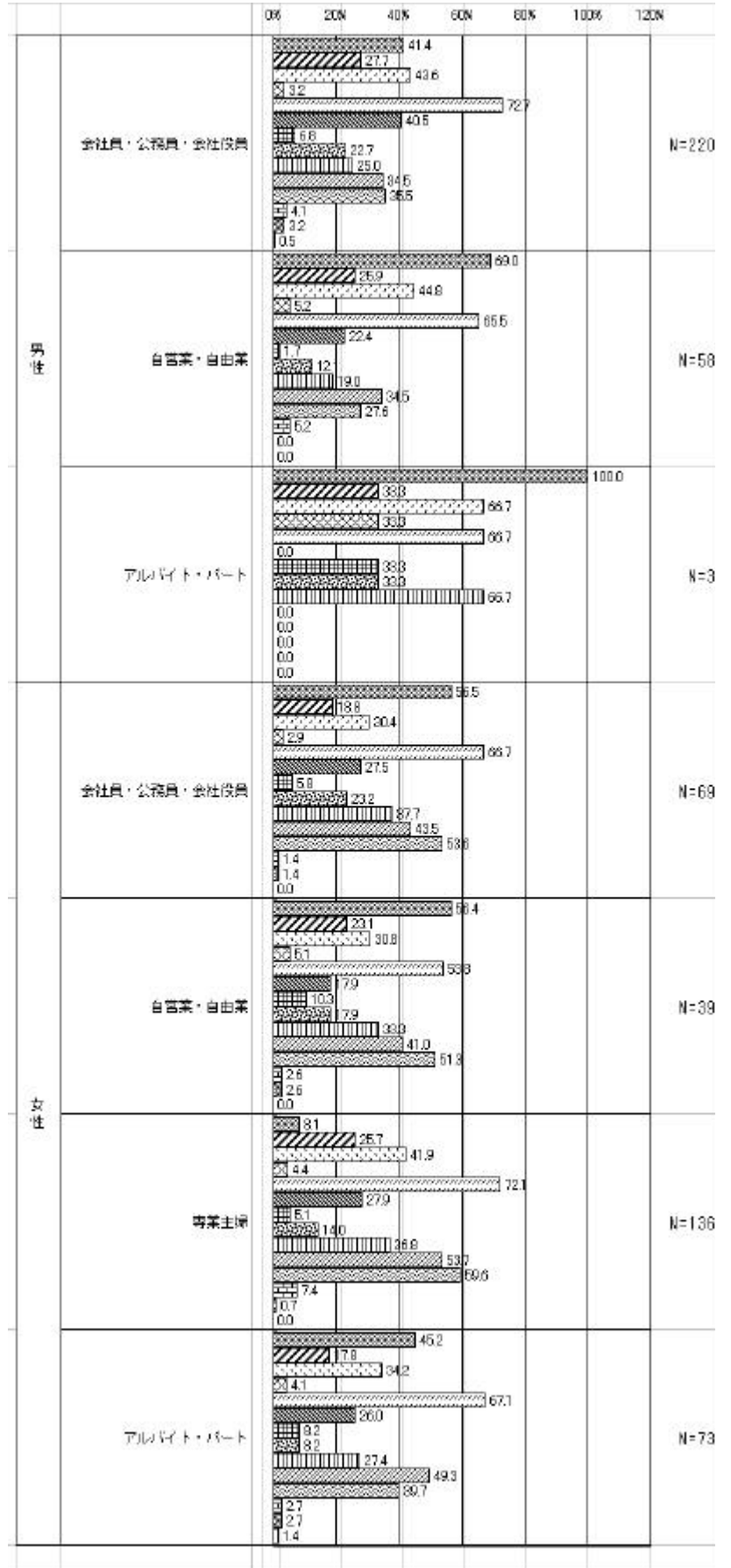


図3-20 男女別・職業別の将来の生きがい

(3) 仕事を続けたい理由 (問 3-1)

～「経済的な余裕が欲しい」～

将来の生きがいを「仕事・職業」と答えた方に、仕事を続けたい理由について伺いました。最も多かった回答は「経済的な余裕が欲しい」50.9%でした。次いで、「社会的に現役でいたい」38.2%、「仕事を通して社会に貢献したい」31.6%などとなっています。

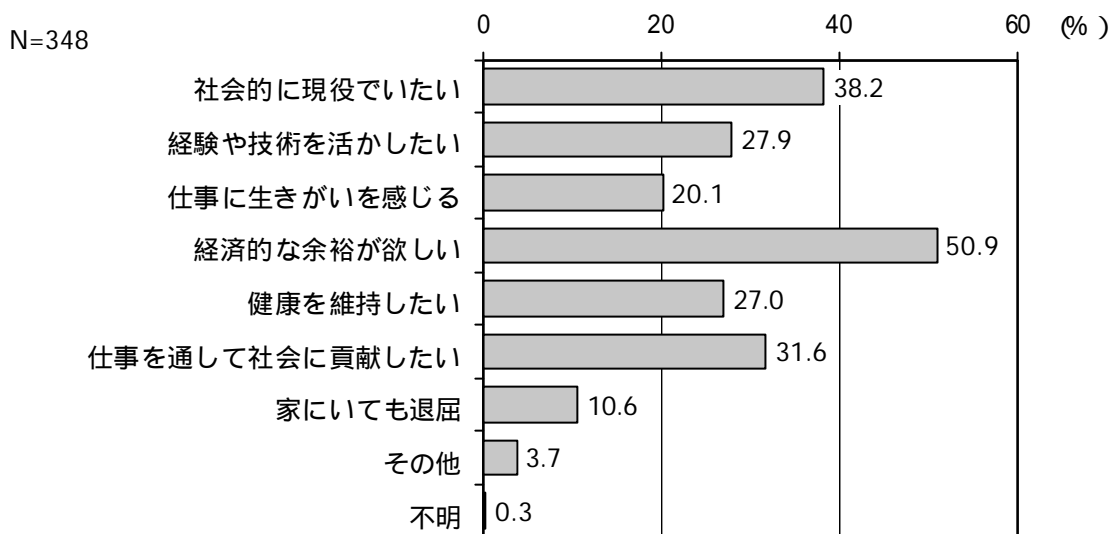


図 3 - 21 仕事を続けたい理由

男女別にみると、男性では「経済的な余裕が欲しい」と「社会的に現役でいたい」の回答がほぼ同率であるのに対し、女性では「経済的な余裕が欲しい」が多い傾向が見られます。

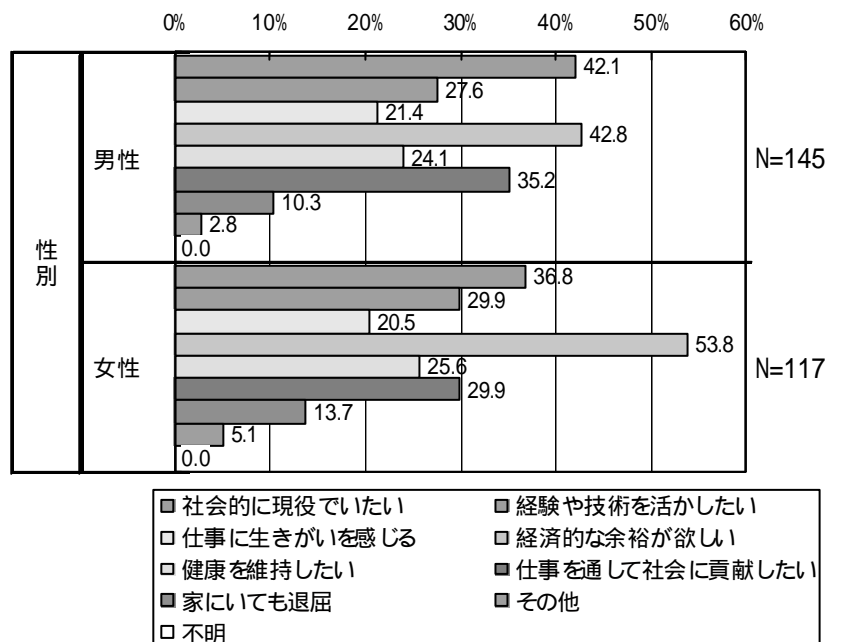


図 3 - 22 男女別の仕事を続けたい理由

現在の職業別に仕事を続けたい理由をみると、会社員・会社役員及びパート・アルバイトでは「経済的な余裕が欲しい」、自営業・自由業では「社会的に現役でいたい」となっています。

なお、専業主婦で将来の生きがいを「職業・仕事」と選択された方が13人いますが、その理由は「仕事を通して社会に貢献したい」53.8%が最多回答でした。また、「経験や技術を活かしたい」がほかの職業よりも多く、専業主婦は経験や技術を活かしていないと感じている現状がうかがえます。

「社会的に現役でいたい」という意識は、仕事を持っている人のいずれも4割程度が持っていました。

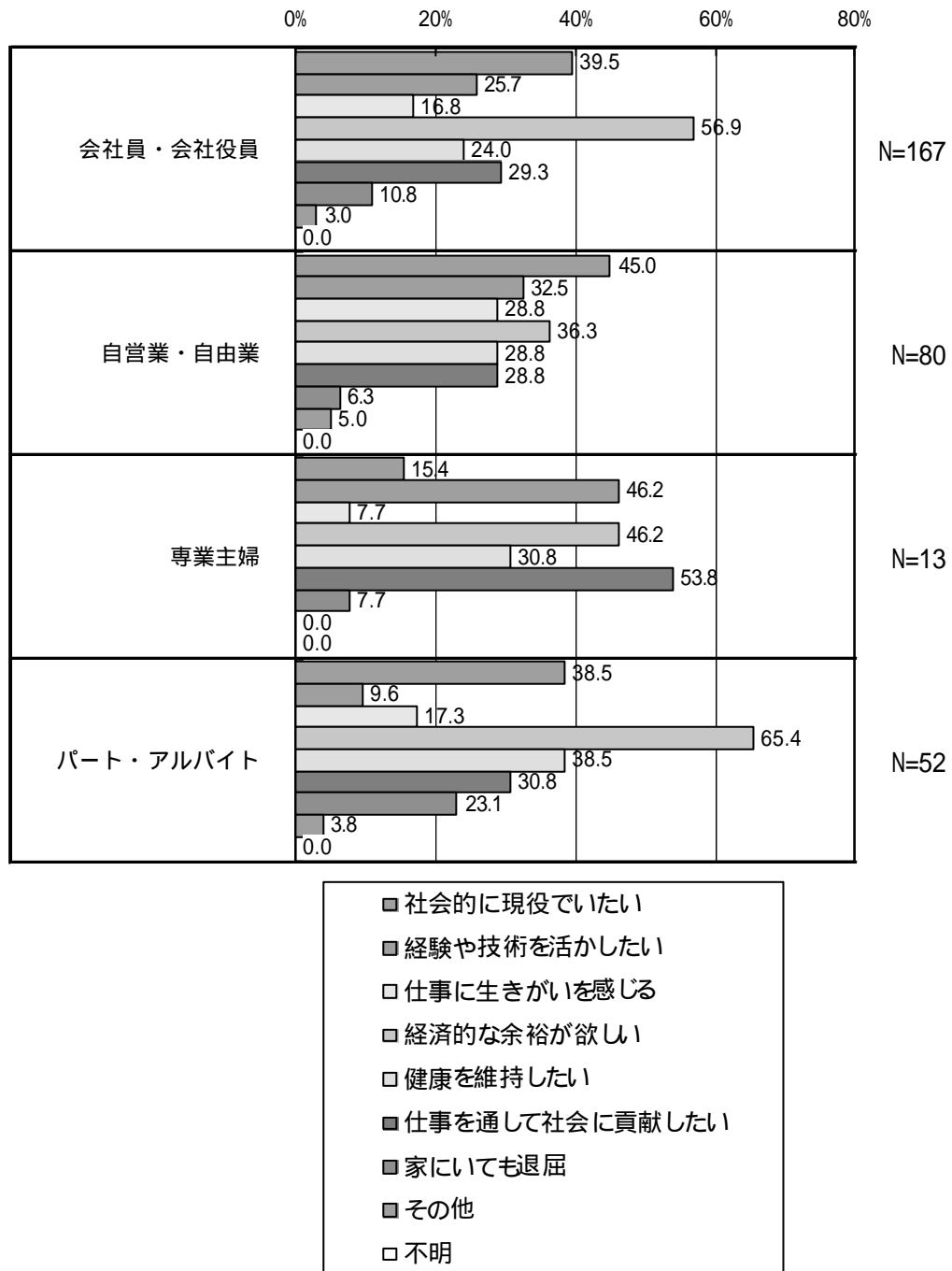


図3-23 仕事を続けたい理由（現在の職業別）

(4) 働きたい時間 (問 3-2)

～男性は「常勤」、女性は「パートタイム」～

N=348

将来の生きがいを「仕事・職業」と答えた方に、働きたい時間について伺ったところ、「常勤」49.4%、「非常勤・パートタイム（短時間勤務）」40.2%にほぼ2分された結果となりました。

男女別にみると、男性では「常勤」が66.2%、女性では「非常勤・パートタイム（短時間勤務）」が57.3%と多く、男女で違いが見られました。

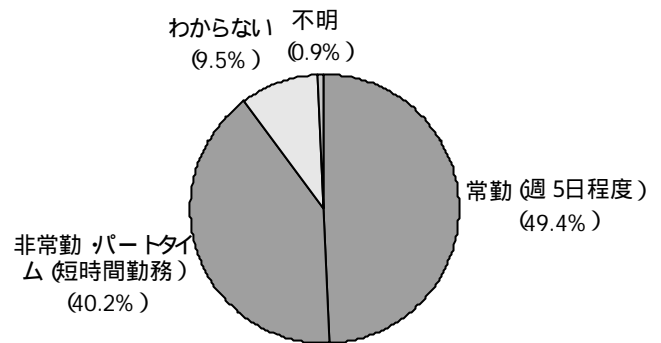


図 3 - 24 働きたい時間

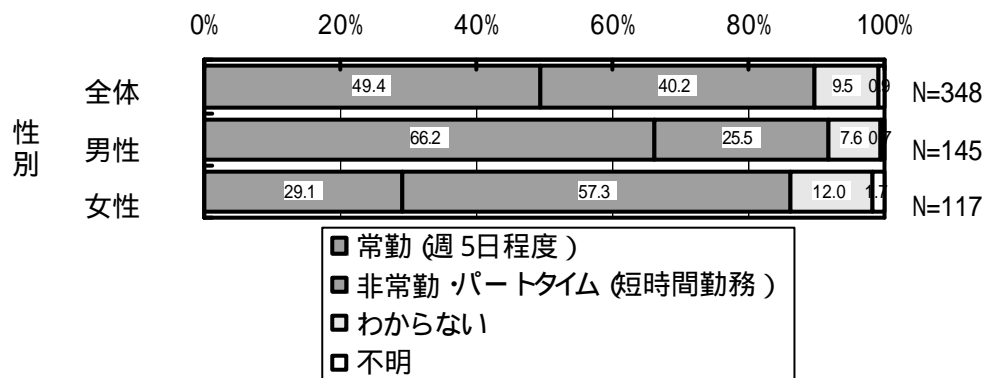


図 3 - 25 働きたい時間 (男女別)

(5) 労働の形態 (問 3-3)

～被雇用形態を希望、「自分で起業」は少数派～

将来の生きがいを「仕事・職業」と答えた方に、労働の形態について伺った結果、「企業や団体などに雇用される」が46.3%、「自営業・自由業を続ける」が34.2%で、「起業する」との回答は7.2%でした。

現在、自営業・自由業を営む方以外では、圧倒的に被雇用者として働く希望が多くなっています。

N=348

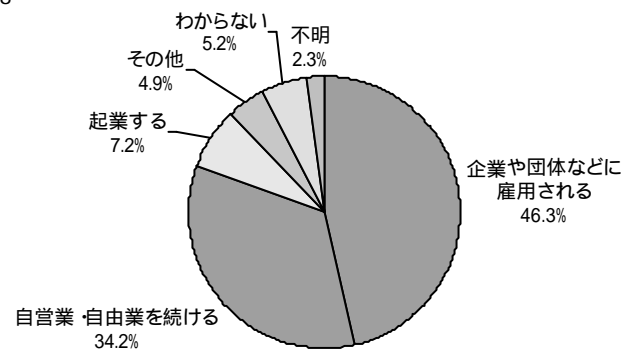
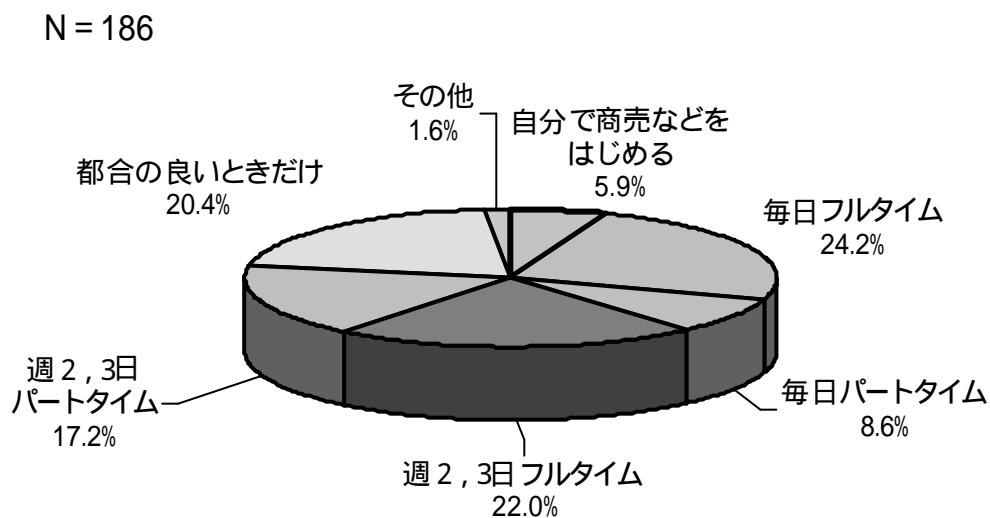


図 3 - 26 労働の形態

【参 考】

都内全域に在住する満 20 歳以上の男女を対象とした、東京都の「労働に関する世論調査（2001 年 2 月調査）」では、現在勤めている方（会社員、パート・アルバイト）に対し「定年退職後どのように働きたいか」と尋ねています。

50 歳代では、「特に働くつもりはない」、「わからない」と答えた人を除くと、回答者数は 186 人でした。そのうち、「自分で商売などを始める」と答えた人は 11 人で全体の 5.9% でした。



資料：東京都「労働に対する世論調査（2001年 2月実施）」
「定年後どのように働きたいか [勤めの人（会社員、パート・アルバイト）のみ回答]より作成

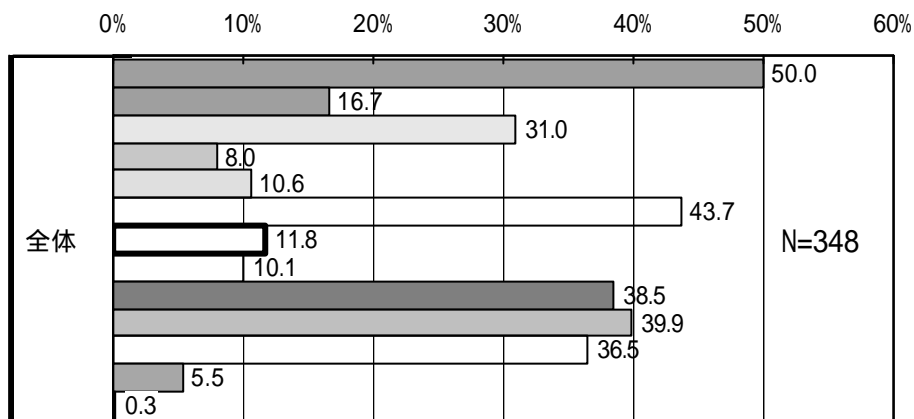
図 3 - 27 「定年後どのように働きたいか」(労働に関する世論調査、50 歳代)

本アンケート調査では、将来の生きがいとして「職業・仕事」を選んだ方（348 人）に、労働の形態を尋ねた結果、「起業する」とした人は 7.2% でした。設問の対象や選択肢が異なるため、一概に上記調査結果との比較は出来ませんが、参考事例として掲載しました。

(6) 中高年が働き続けるために必要なもの(問 3-4)

～ 定年後も働くためには、行政、事業者、本人の取り組みが必要～

中高年が働き続けるために必要なものとして多かったのは、「中高年が活躍できる仕事をつくる」50.0%、「働き続けることを支援する社会保障の仕組みをつくる」43.7%、「過去の肩書きにとらわれないなどの意識改革をする」39.9%、「身近な地域に働ける場をつくる(産業振興など)」38.5%などとなっており、行政、事業者、本人のそれぞれの取り組みが挙げられました。



- | | |
|-----|--|
| 事業者 | <input checked="" type="checkbox"/> 中高年が活躍できる仕事をつくる
<input checked="" type="checkbox"/> 定年を延長する
<input type="checkbox"/> 退職者の再雇用や再就職を支援する
<input type="checkbox"/> ワークシェアリングをする
<input type="checkbox"/> パートタイマー(短時間労働者)の処遇を改善する |
| 行政 | <input checked="" type="checkbox"/> 働き続けることを支援する社会保障の仕組みをつくる
<input checked="" type="checkbox"/> 転職しやすい社会の仕組みをつくる
<input type="checkbox"/> 起業を支援する社会の仕組みをつくる
<input checked="" type="checkbox"/> 身近な地域に働ける場をつくる(産業振興など) |
| 本人 | <input type="checkbox"/> 過去の肩書きにとらわれないなどの意識改革をする
<input type="checkbox"/> 仕事に対応するための技能を習得する
<input checked="" type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 不明 |

図 3-28 働き続けるために必要なもの

現在の職業別にみると、専業主婦ではほかの職業に比べ「仕事に対応するための技能を修得する」や「身近な地域に働ける場をつくる（産業振興など）」が多くなっています。

また、「パート・アルバイト」では、「中高年が活躍できる仕事をつくる」が少なく、「働き続けることを支援する社会保障の仕組みをつくる」が多い傾向にあり、事業者よりも行政への期待が大きいことがうかがえます。

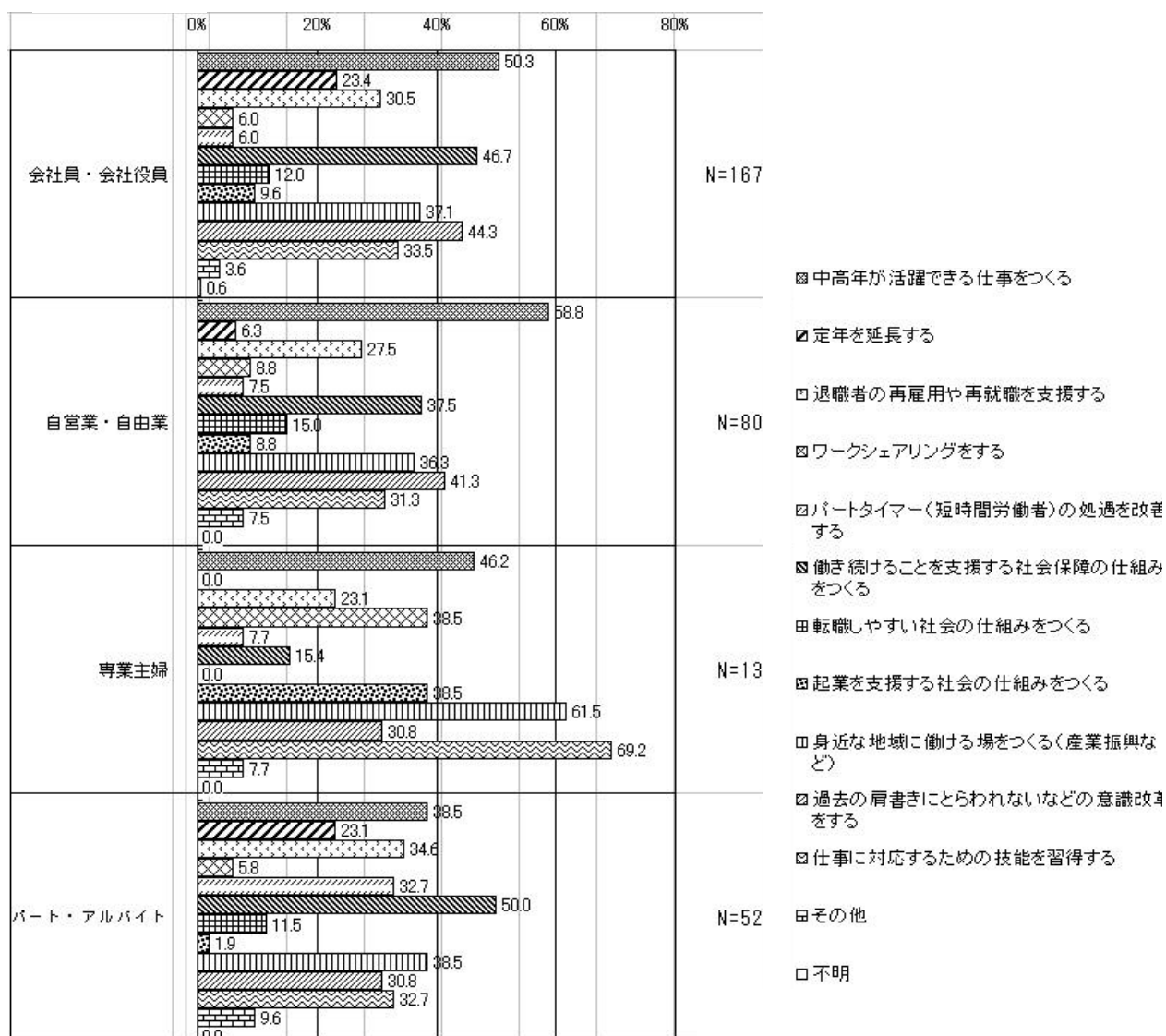


図3-29 働き続けるために必要なもの（現在の職業別）

(7) 希望するNPO活動の内容(問4)

～人気NPOは、文化・スポーツ、環境保全、子どもの健全育成、福祉など～

将来の生きがいとして「NPO活動」と答えた方に、NPO活動の内容について希望を伺ったところ、各分野にまんべんなく希望があることがわかりました。

その中でも希望の多かった活動は、「学術・文化・芸術・スポーツ振興」、「環境保全」、「子どもの健全育成や教育」、「保健、医療、福祉」などとなっています。

一方、「情報化や科学技術」、「産業振興や消費者保護」は希望の少ない傾向がみられました。

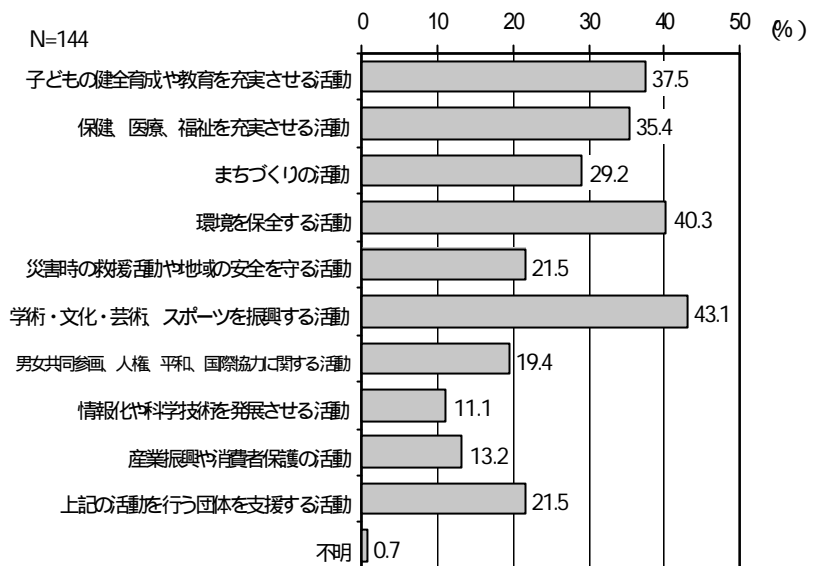


図3-30 NPO活動の内容

次に、男女別にみると、男性では、「学術・文化・芸術・スポーツ振興」が半数を超えて最も多くなっています。

女性では「子どもの健全育成や教育」と「学術・文化・芸術・スポーツ振興」が同率で最多となっています。

また、男性は「まちづくり」、「情報化や科学技術の発展」、「産業振興や消費者保護」などが、女性は「子どもの健全育成や教育」、「保健、医療、福祉」及び「上記活動団体の支援」などが比較的多くなっていました。

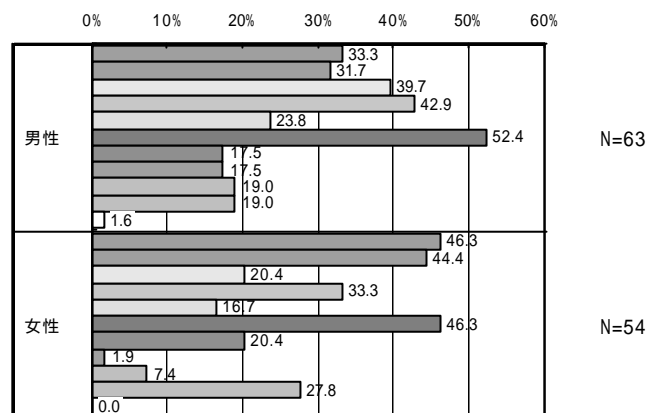


図3-31 男女別NPO活動の内容

(8) 地域活動、NPO、ボランティアで市に期待する支援（問5）

～最も期待するのは「情報の提供」～

将来の生きがいとして「地域活動」、「NPO活動」、「その他のボランティア活動」と答えた方に、活動のために市に期待する支援の内容について伺いました。

最も多かったのは「活動に関する情報を提供する」23.7%でした。そのほか、「活動の経済的助成をする」12.1%、「活動団体同士のネットワーク化、情報交換の場（の提供）」10.7%、「活動の機会を増やす」9.2%などとなっています。

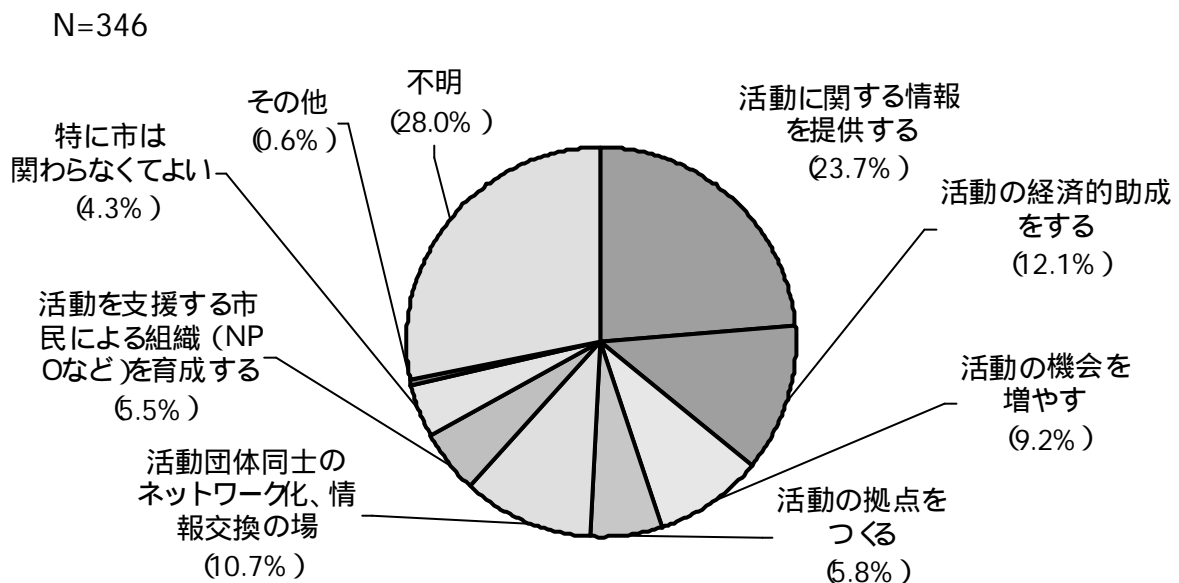


図3-32 地域活動、NPO、ボランティア活動で市に期待する支援

(9) 勉強や習い事の内容 (問6)

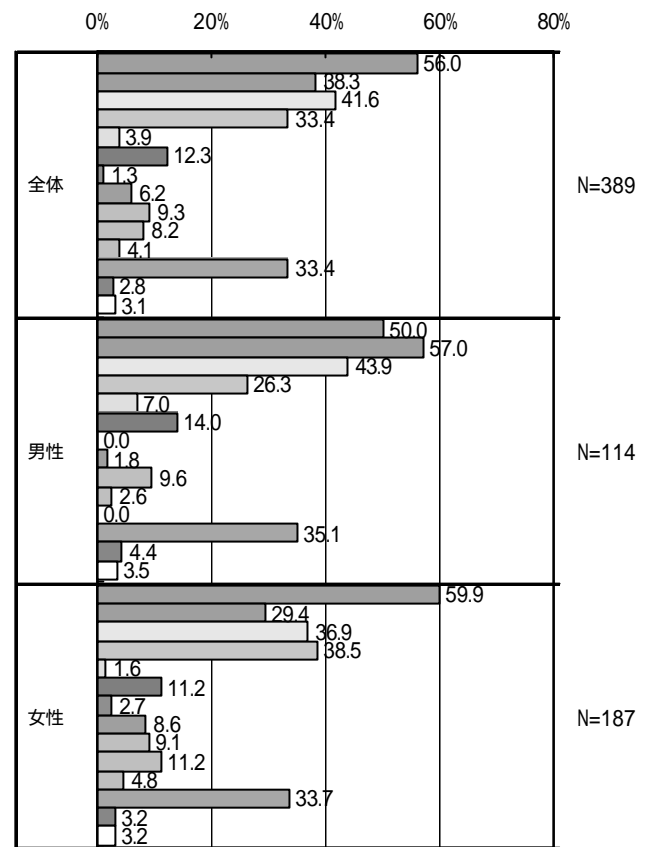
～男性は「一般教養」、女性は「趣味・けいごと」～

将来の生きがいとして「勉強・習い事」と答えた方に、その内容について伺いました。

全体でみると、「趣味・けいごと」が最も多く、56.0%でした。次いで、「健康・スポーツ」、「一般教養」、「パソコン・ワープロ・インターネット」、「英会話などの語学」が多くなっています。

一般的な趣味に加え、国際化・情報化社会への対応能力の向上を意識したものと考えられます。

男女別にみると、男性では「一般教養」、女性では「趣味・けいごと」が最も多くなっています。そのほか、女性では「パソコン・ワープロ・インターネット」の割合が男性よりも高いことも特徴的です。



- 趣味・けいごと(華道・茶道・絵画・書道・音楽・囲碁・将棋など)
- 一般教養(歴史・政治・経済・文学など)
- 健康・スポーツに関するもの
- パソコン・ワープロ・インターネットなど
- 経理・簿記などの仕事に役立つ事務
- 保健・食生活・料理・教育など家庭生活に関するもの
- 人権・男女平等
- 福祉問題
- 環境問題・ごみ問題
- 介護の知識・技術
- 手話・点字
- 英会話などの語学
- その他
- 不明

図3-33 勉強・習い事の内容

(10) 今の生活の満足度（問7）

～今の生活にはまあ満足、

近所づきあい、収入・貯蓄、時間的なゆとりについてはどちらともいえない～

生活の満足度をみると、満足度（「満足」、「まあ満足」の合計）が最も高かったのは、「家族との関係」、次いで「友人関係」、「自分や家族の健康」となっています。

また、満足度が低いのは、「収入・貯蓄」、「近所とのつきあい」、「余暇生活・時間的なゆとり」となっています。このうち、「近所とのつきあい」では「どちらともいえない」の割合が高いのですが、「収入・貯蓄」、「余暇生活・時間的なゆとり」では「不満」、「やや不満」の割合が比較的高くなっています。

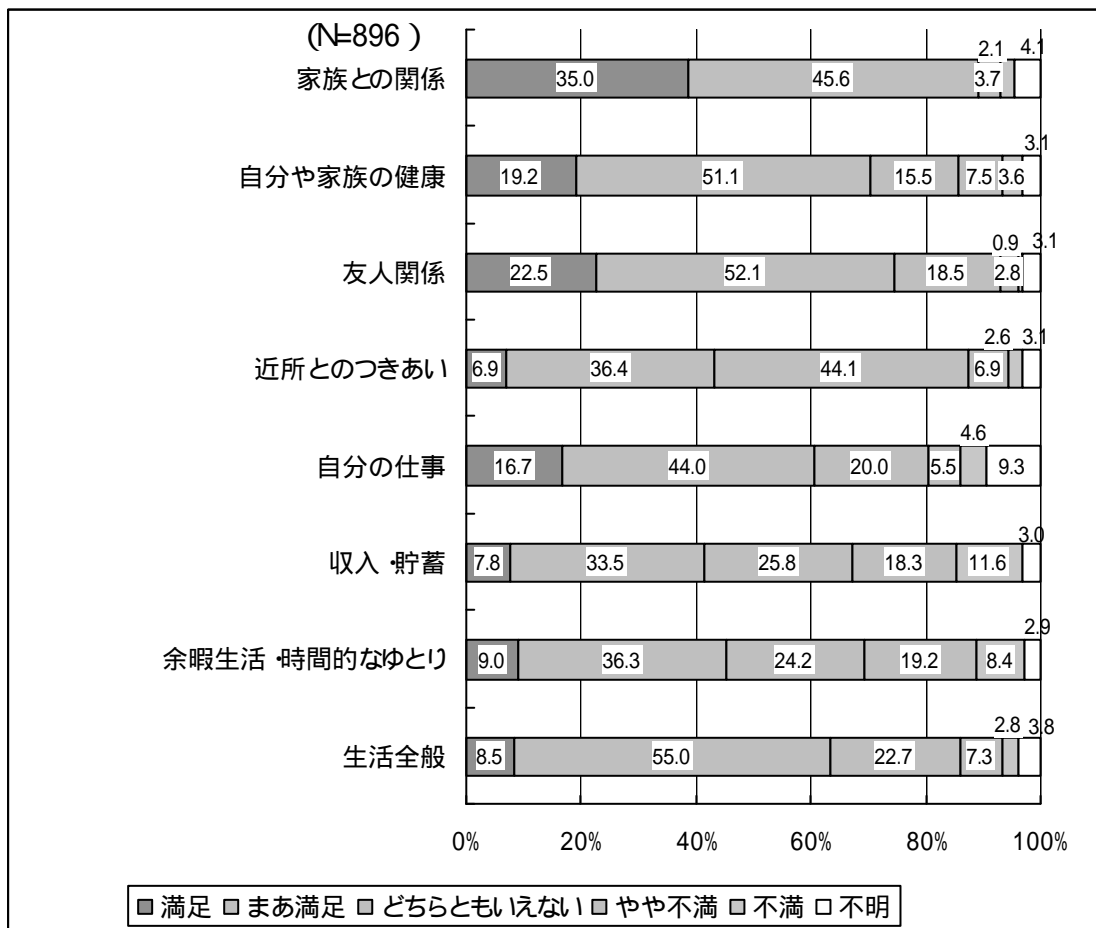


図 3-34 生活の満足度（全体）

生活の満足度について全体、男女別・職業別にみると、以下のとおりです。(ただし、男性の「アルバイト・パート」は回答者数が少ないため、分析の対象に含んでいません。)

1. 家族との関係

全体では35.0%が「満足」、45.6%が「まあ満足」となっています(計80.6%)。女性の「自営業・自由業」で満足度が高く、また、女性の「アルバイト・パート」で満足度がやや低くなっています。

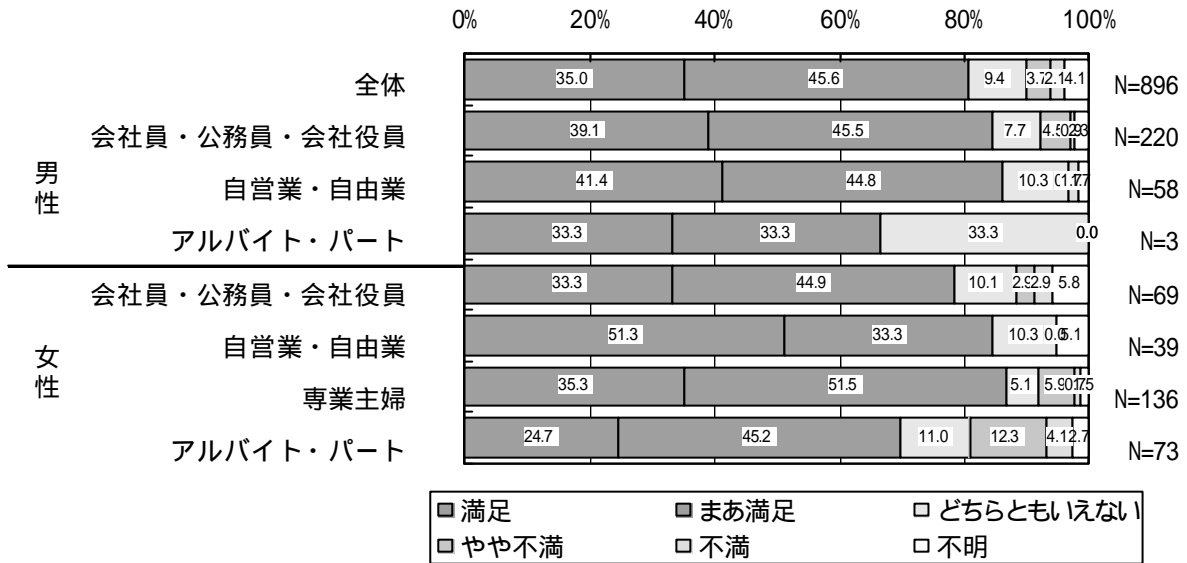


図3-35 家族との関係に対する満足度

2. 自分や家族の健康

全体では19.2%が「満足」、51.1%が「まあ満足」となっています(計70.3%)。男女別・職業別の差異は、あまりみられませんでした。

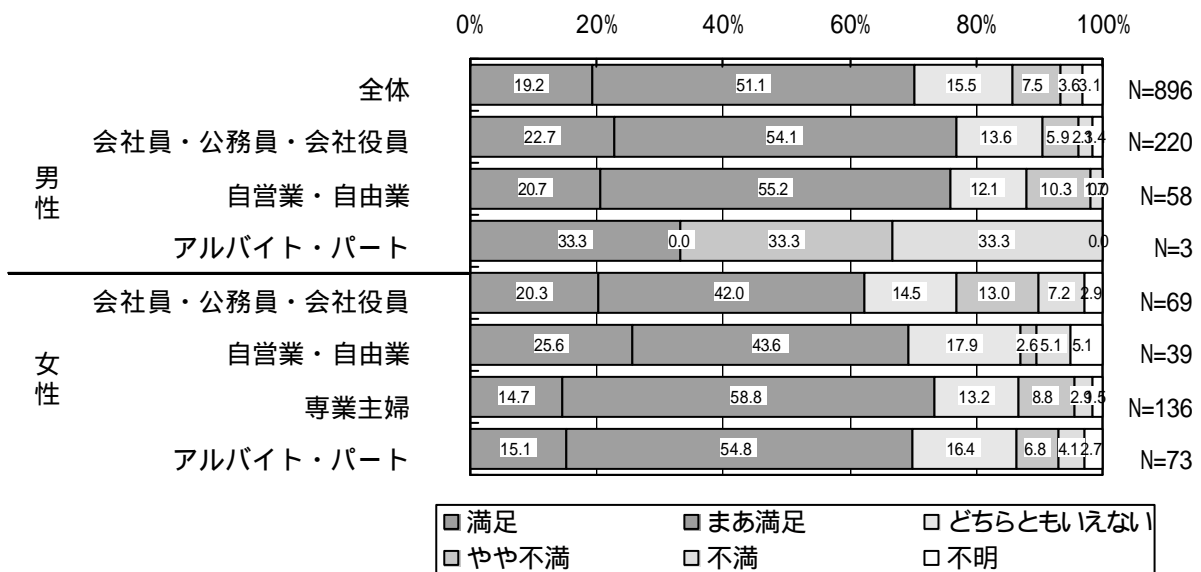


図3-36 自分や家族の健康に対する満足度

3. 友人関係

全体では22.5%が「満足」、52.1%が「まあ満足」となっています(計74.6%)。

男女別にみると、全体的に女性よりも男性の満足度が低くなっています。また、男性の「会社員・公務員・会社役員」の満足度が低く、女性の「会社員・公務員・会社役員」や「自営業・自由業」の満足度が高い傾向が見られます。

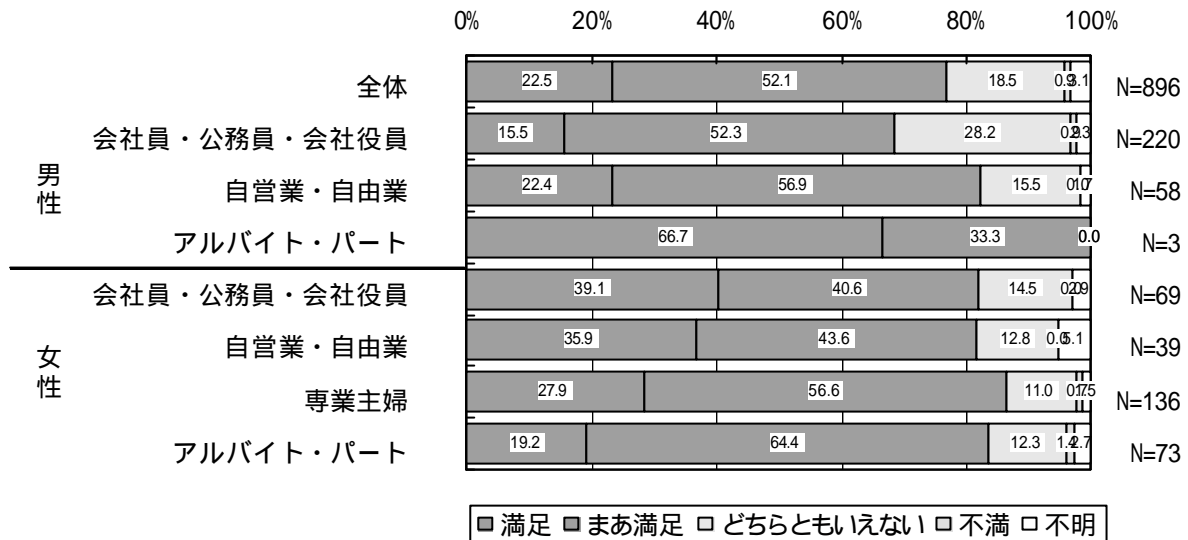


図3-37 友人関係に対する満足度

4. 近所とのつきあい

全体では6.9%が「満足」、36.4%が「まあ満足」です。計43.3%で、ほかの項目に比べ、近所つきあひに対しては、極端に満足度が低いことがわかります。

男性の「会社員・公務員・会社役員」、「自営業・自由業」及び女性の「アルバイト・パート」の「満足」が1割未満と特に低くなっています。

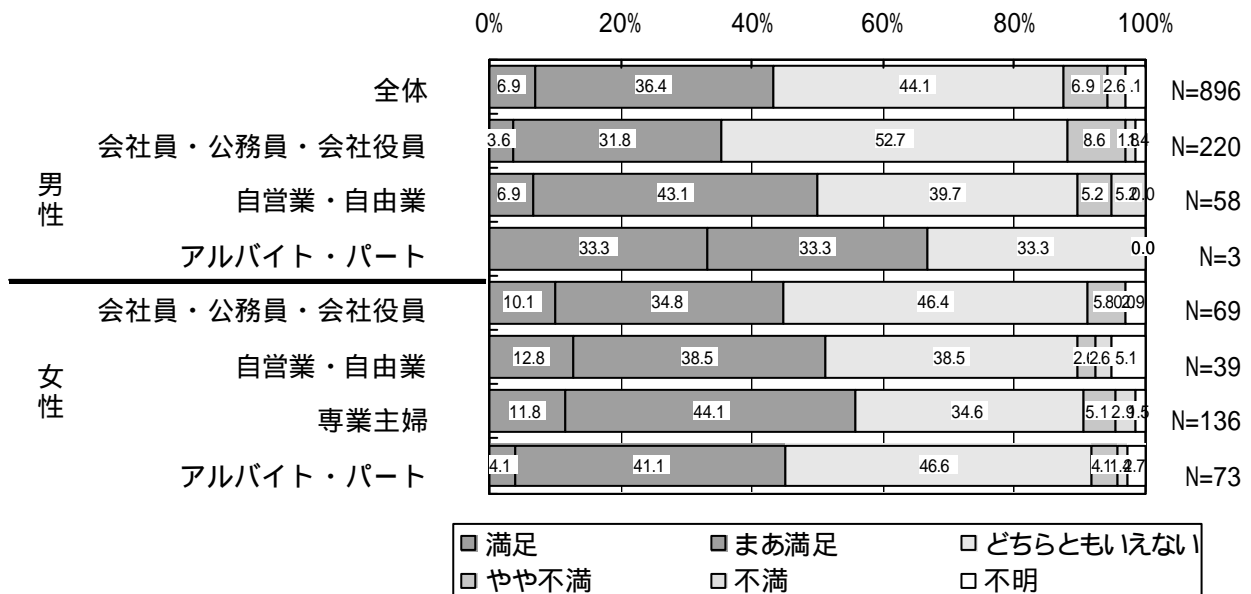


図3-38 近所とのつきあいに対する満足度

5. 自分の仕事

全体では16.7%が「満足」、44.0%が「まあ満足」となっています(計60.7%)。性別・職業別にみて最も満足度が高かったのは、女性の「会社員・公務員・会社役員」でした。

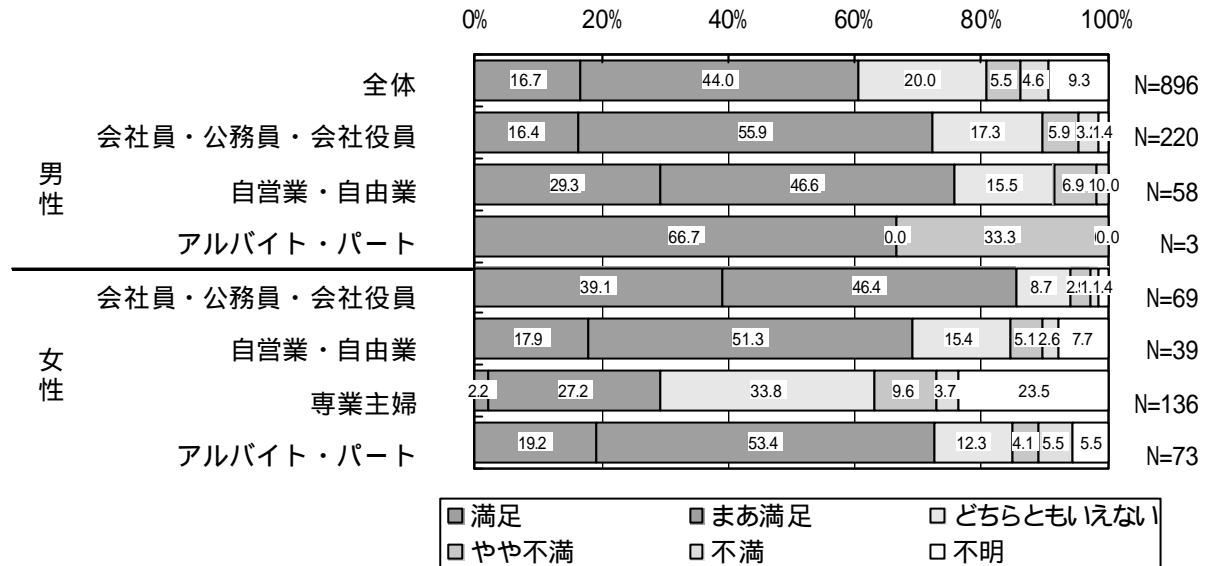


図3-39 自分の仕事に対する満足度

6. 収入・貯蓄

全体では7.8%が「満足」、33.5%が「まあ満足」となっており、両者の合計は41.3%と、ほかの項目に比べ低くなっています。

男女別・職業別に「満足」の割合をみると、女性の「アルバイト・パート」が1.4%と最も低く、以下、男性の「自営業・自由業」3.4%、「専業主婦」6.6%などとなっています。

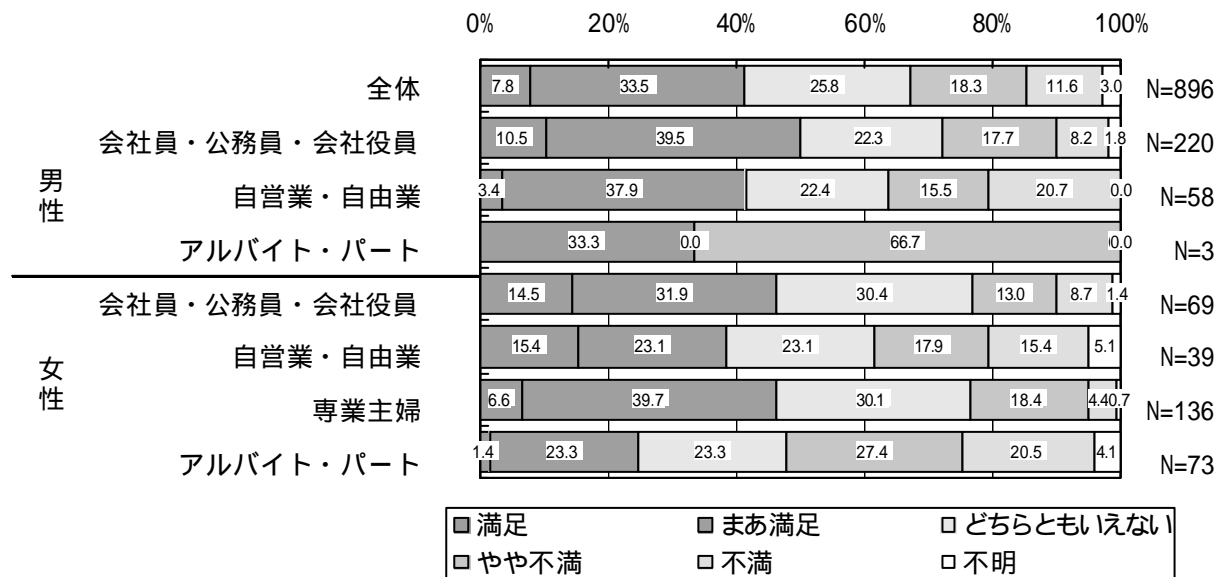


図3-40 収入・貯蓄に対する満足度

7.余暇生活・時間的なゆとり

全体では9.0%が「満足」、36.3%が「まあ満足」で、両者の合計は45.3%となっており、満足度は十分でないと言えます。

全体的に男性よりも女性の満足度が高いようですが、それでも、男性の「アルバイト・パート」(有効回答数3)を除き、「満足」の最高は「専業主婦」の15.4%です。

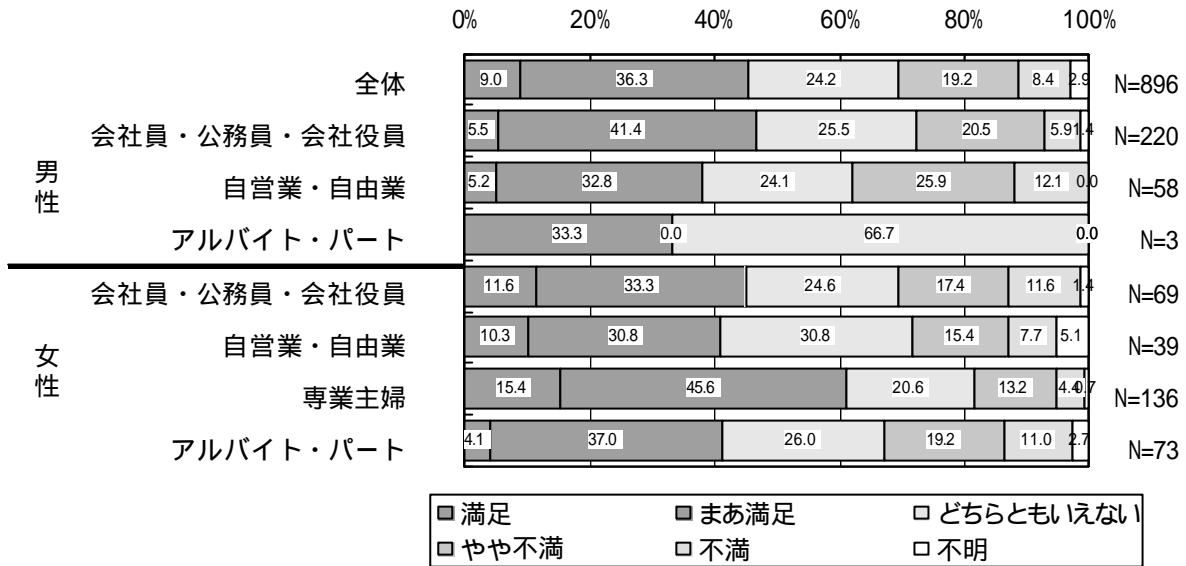


図3-41 余暇生活・時間的なゆとり

生活全般

生活全般についてみると「満足」は8.5%、「まあ満足」は55.0%、両者の合計は63.5%となっています。

男性より女性の方が満足度の高い傾向が見られます。ただし、女性の中でも「アルバイト・パート」の満足度は低くなっています。

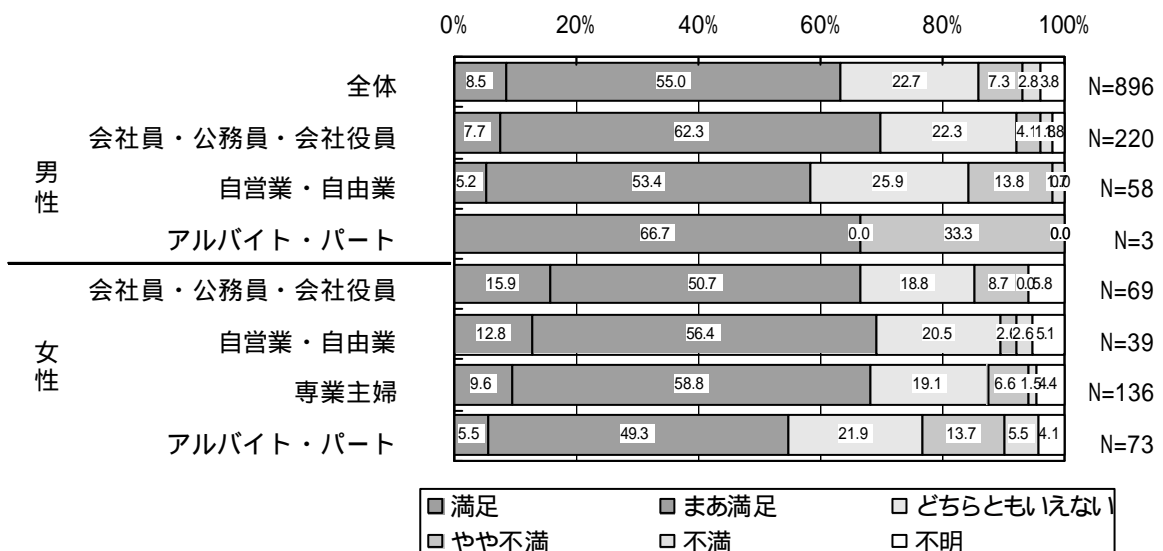


図3-42 生活全般に対する満足度

【参 考】

「生活全般」の満足度と、生活に関する 1～7 の各項目における満足度の因果関係を分析しました。

その結果、下の図に示すように、生活全般の満足度は、「収入・貯蓄」、「余暇生活・時間的なゆとり」の満足度との関係が比較的強いことがわかりました。

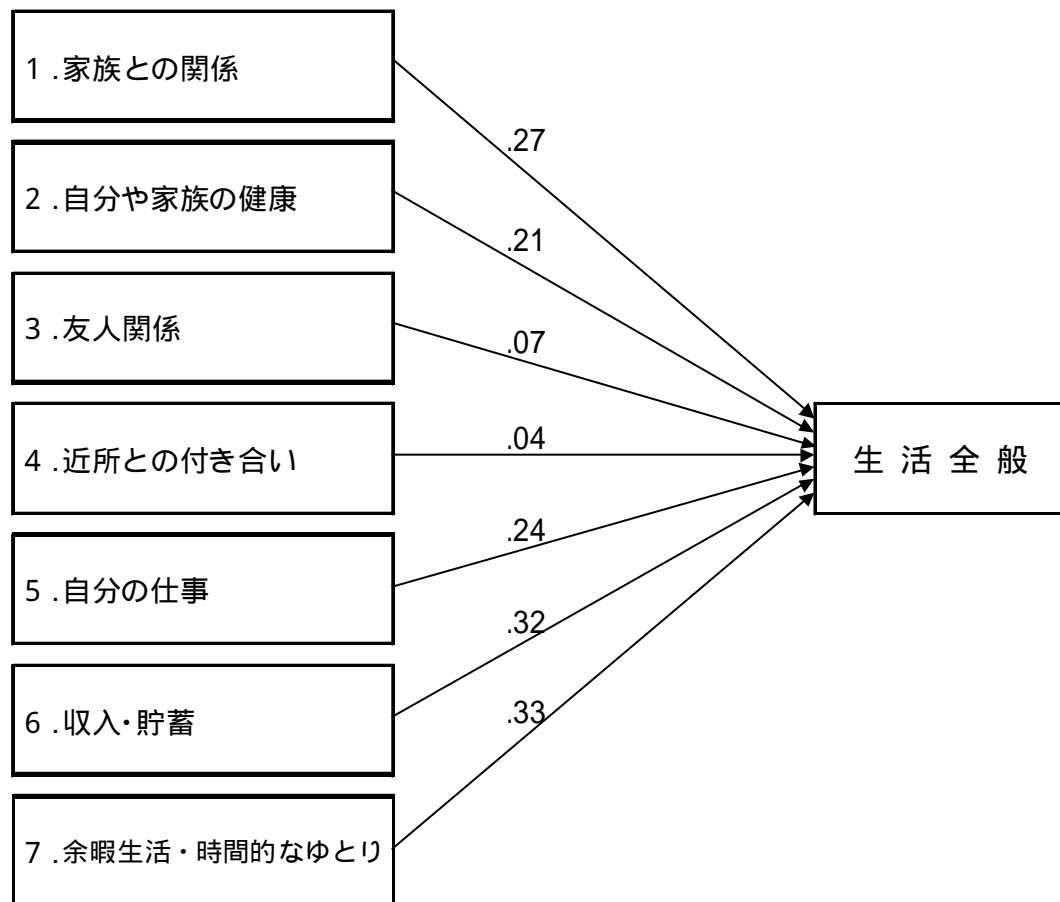


図 3 - 43 各項目ごとの暮らしやすさと生活全般の暮らしやすさの相関

1～7の各項目における満足度を横軸、生活全般における満足度との相関を縦軸にとると、分布図は以下のようになりました。

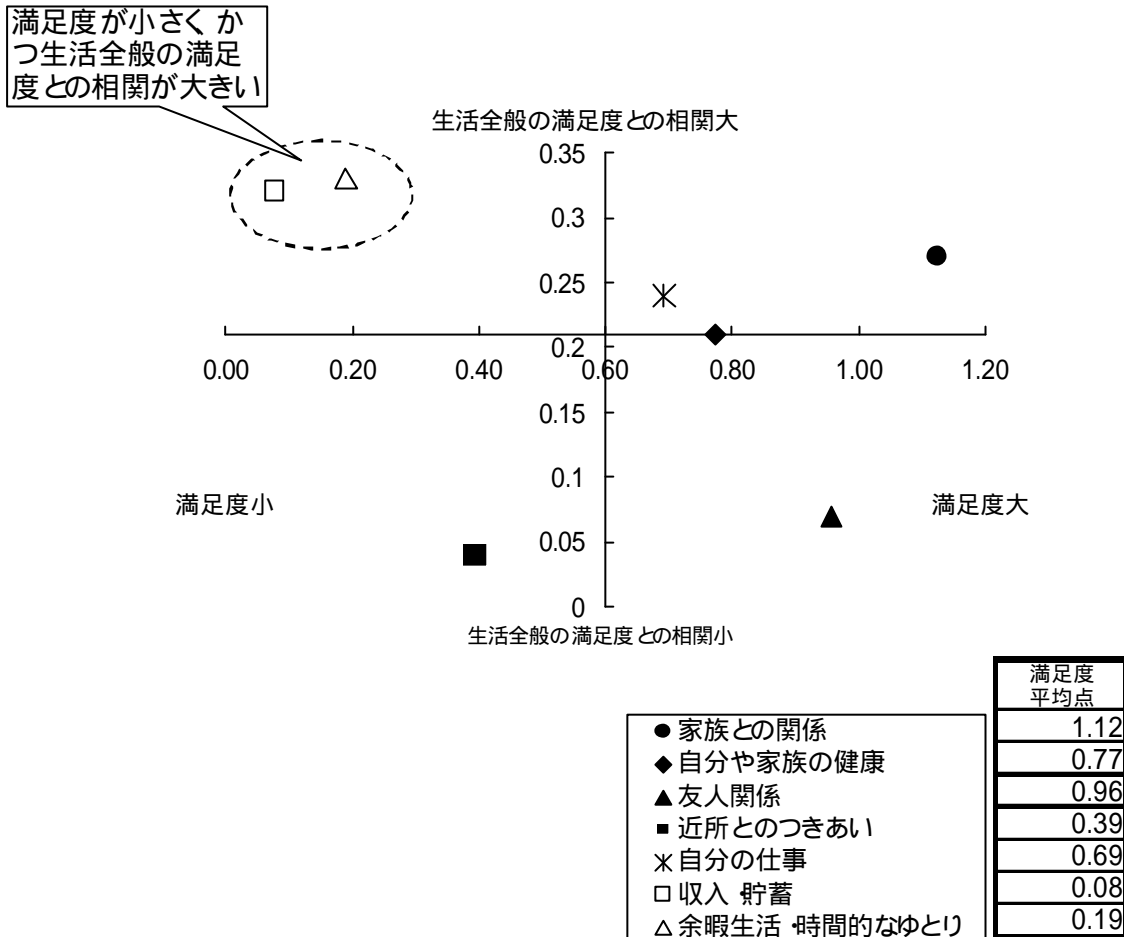


図3-44 各項目の満足度と生活全般における満足度の相関分布図

これより、満足度平均点の低い「収入・貯蓄」、「余暇生活・時間的なゆとり」、「近所とのつきあい」のうち、生活全般の満足度との相関の強い「収入・貯蓄」、「余暇生活・時間的なゆとり」の満足度を高めることで、生活全般の満足度を効果的に高めることができると予測されます。

満足度平均点；「満足」を2点、「まあ満足」を1点、「どちらともいえない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点として算出。

(11) 将来大切にしたいこと(問8)

～自分や家族がいちばん、余暇生活も大事～

将来、大切にしたいこと7項目について、優先度に応じた点数配分(合計100点)をしていただいたところ、全体では「自分や家族の健康」が平均26.1点で最高点となりました。続いて、「家族との関係」が20.0点で、上位2項目が家庭に関するものとなっています。3番目は、「余暇生活・時間的なゆとり」で14.5点でした。

逆に、最低点は「近所とのつきあい」5.8点でした。

この傾向は、男女別・職業別・永住希望の有無別でも、ほとんど変わりませんでした。

N=867

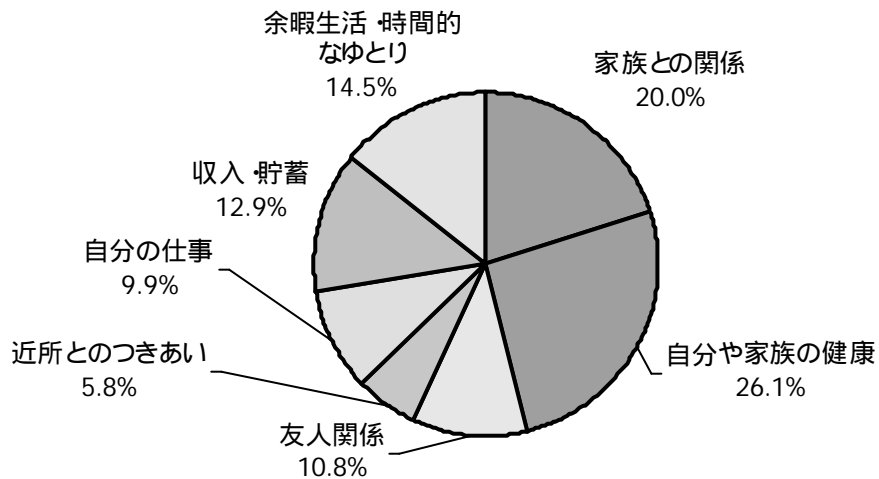


図3-45 将来の優先度

3-3 地域活動への参加

(1) 地域活動への参加経験、将来の参加意欲（問9）

～地域活動には半数以上が参加経験あり。参加経験ではサークル活動が35%～
～将来参加するなら「サークル活動」「防犯活動」～

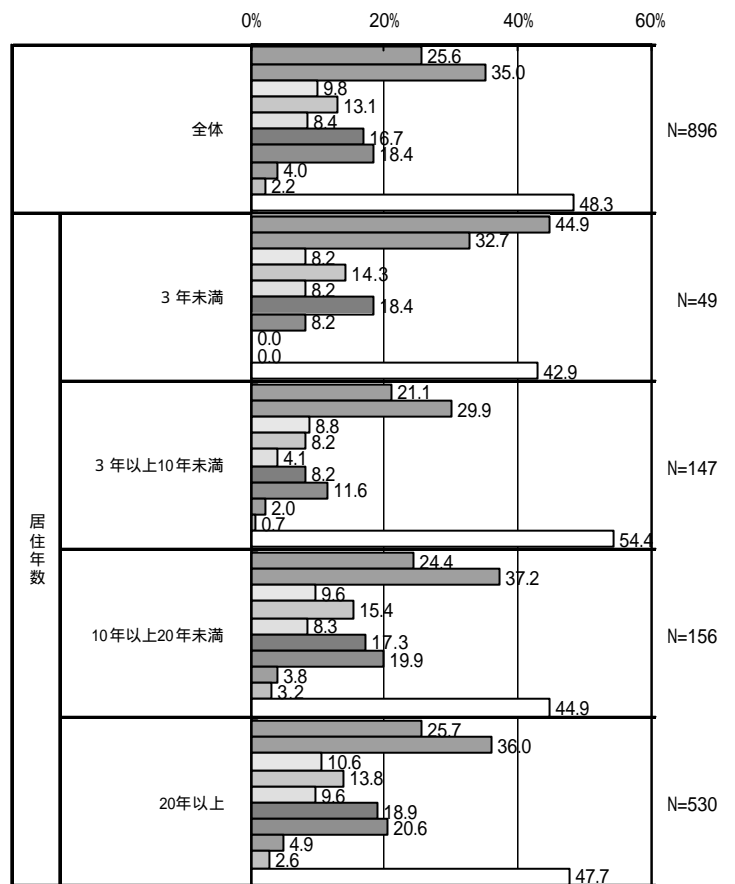
1. 地域活動への参加経験

地域活動への参加経験がある方は51.7%でした。

参加経験を居住年数別で見た場合、長く住んでいる方ほど「地域の公園や歩道の清掃などの美化活動」への参加率は高く、一方「自治会など地縁に基づく地域活動」は、市内居住年3年未満が最も参加率が高い傾向がみられます。

「地域の集会施設などの自主的管理運営」については、居住年数を問わず、消極的な傾向がみられました。

その他の活動については、居住年数との明確な関係はみられませんでした。



- 自治会など地縁に基づく地域活動
- 趣味やスポーツなどを中心としたサークル活動
- 近隣の人々で取り組む防犯活動
- 介護や子育てなどのボランティア活動
- 地域の共通問題を研究したり 解決に向けた取り組みを行う活動
- 地域の人々が知り合い、交流を広げる季節行事
- 地域の公園や歩道の清掃などの美化活動
- 地域の集会施設などの自主的管理運営
- その他
- 不明

図3-46 地域活動参加経験の有無

2. 将来の参加希望

将来参加したい地域活動は、「趣味やスポーツなどを中心としたサークル活動」50.8%が最も多く、次いで「近隣の人々で取り組む防犯活動」41.3%となっています。そのほかの活動は、おおむね30%前後の方が選択しています。

武蔵野市民全体を対象とした調査でも同じく「趣味・スポーツなどグループ活動の手助け」が1位(35%)という結果が出ています。

将来の地域活動への参加希望をみると、「趣味やスポーツなどを中心としたサークル活動」及び「近隣の人々で取り組む防犯活動」については40%以上が「参加したい」との回答となっています。

「市民意識調査（平成15年9月実施。無作為抽出3,000人対象）」

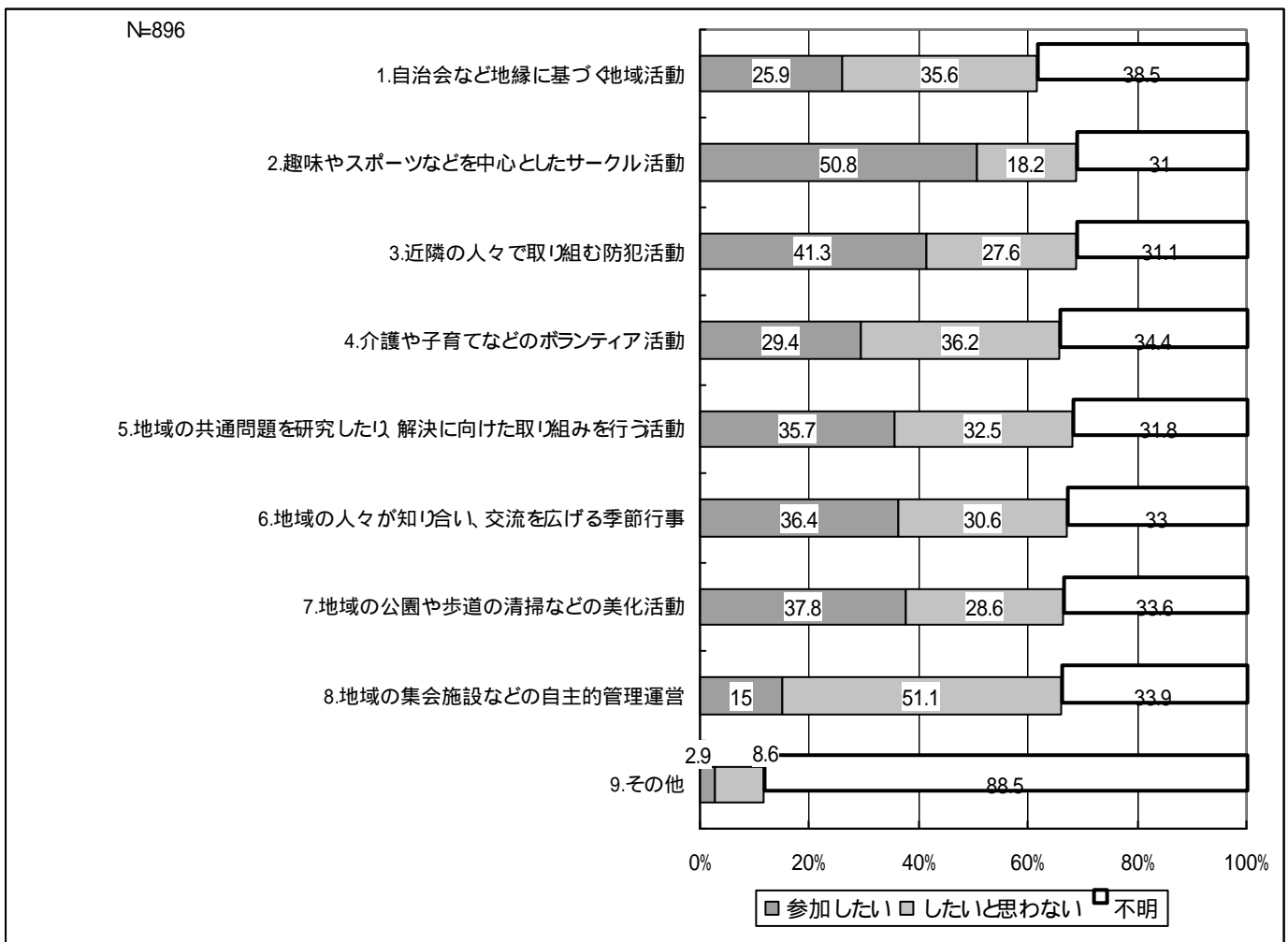


図3-47 地域活動への将来の参加希望

(2) 特技や技術を活かした地域活動への参加意欲（問 10）

～「将来、参加したい」が約5割、「すぐにでも」は1割届かず～

自分の特技や技術を活かした地域活動への参加意欲については、「将来、参加したい」方が52.3%と約半数でした。また、「すぐにでも参加したい」は8.4%でした。

市内への居住年数別にみると、居住年数3年未満及び3年以上10年未満で将来の参加意欲がわずかですが高くなっています。

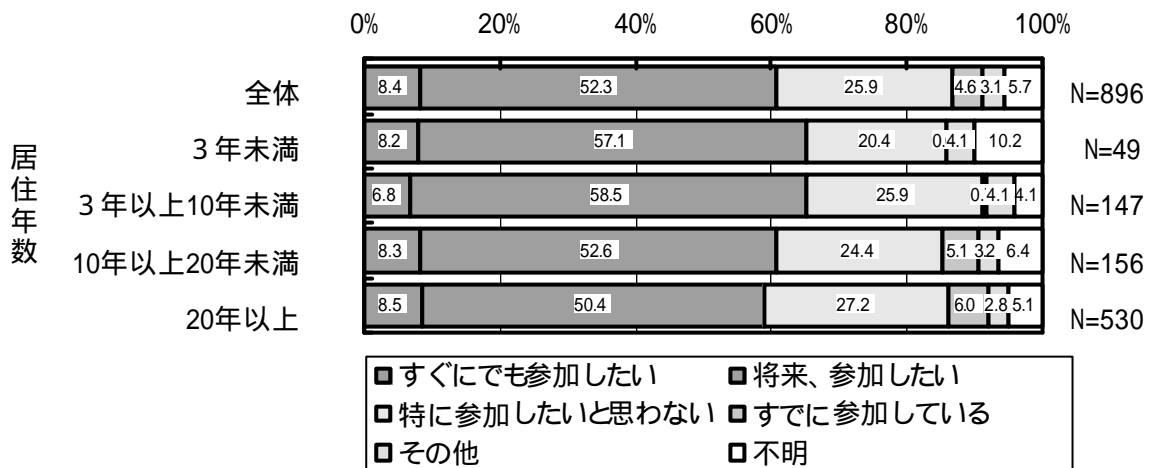


図3-48 市内居住年数別の参加意欲

市内への永住希望及び市政への関心の有無別にみると、「永住希望あり、かつ市政への関心がある」方では、将来の地域活動への参加意欲も57.1%と高くなっています。

「永住希望なし」の方では、将来の参加意欲も31.8%と少なくなっています。

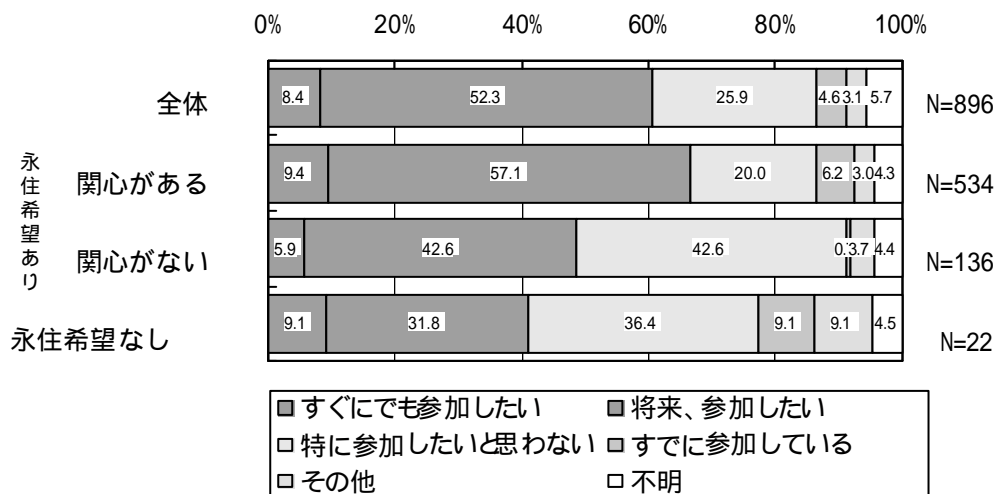


図3-49 永住希望別・市政への関心の有無別の参加意欲

(3) 特技・知識・技術(問11)

～特技はスポーツ、仕事関係のパソコン・事務など～

特技・知識・技術については、「スポーツ」が23.0%と最も多く、次いで「パソコン・ワープロ・インターネット」22.7%、「経理・簿記・人事管理・営業・接客」18.0%、「華道・茶道・書道・着付け」15.4%、「保健・食生活・料理・子育て・保育・教育」15.1%などとなっています。

これらを含め、選択率が10%を超えているのは9項目(不明は除く)もあり、団塊世代の特技・知識・技術は多岐にわたっていることがうかがえます。

一方、ひとつも選択されなかった方は23.7%と4人に1人の割合でした。

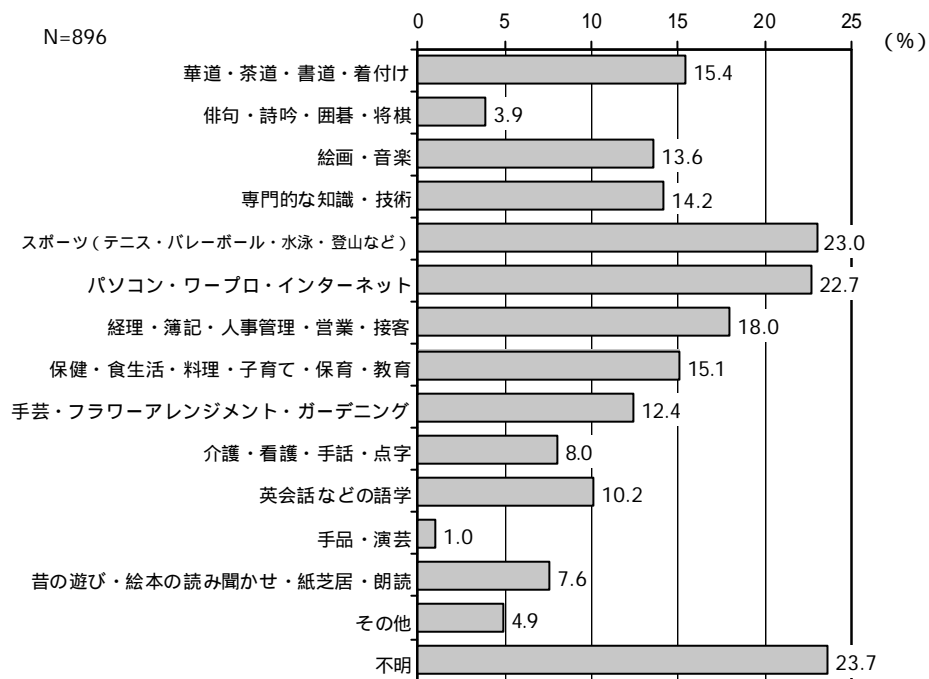


図3-50 特技・知識・技術

(4) 将来使いたいと思う身近な地域施設（問 12）

～文化教養講座、スポーツ・レクリエーション施設を使いたい～

将来使いたい身近な地域施設は、すべての施設が20%以上の方に選択されており、ニーズが多岐に渡っていることがわかりました。

中でも「読書や勉強をしたり、比較的高度な内容の文化教養講座が受けられる施設」47.5%、「中高年が楽しめるスポーツができる施設」46.2%、「趣味やレクリエーションができる施設」40.7%の人気の高くなっています。

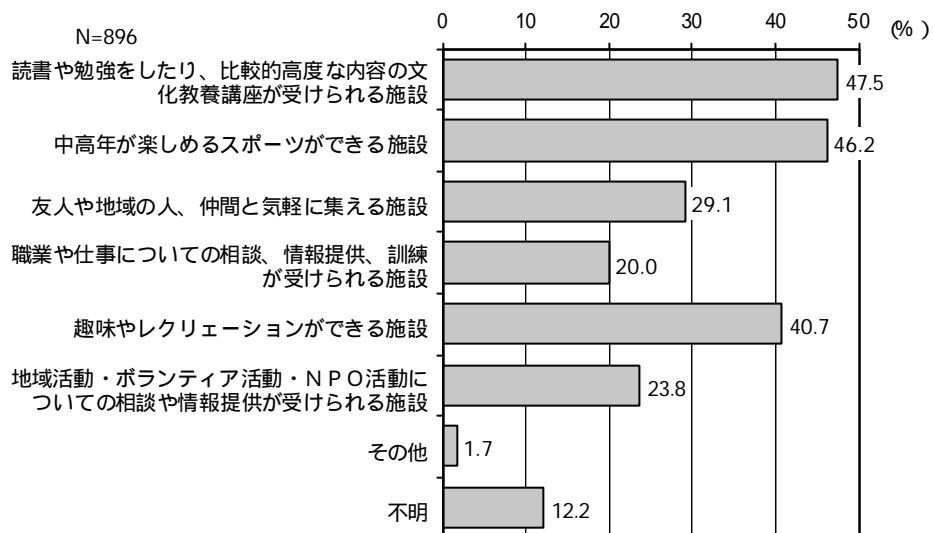


図 3 - 51 将来使いたい地域施設

(5) 「お父さんお帰りなさいパーティー」の認知度（問 13-1）

～「知っていた」は約2割～

武蔵野市民社会福祉協議会・ボランティアセンター武蔵野は、主に退職前後の男性を対象に、地域活動への参加を支援する試みとして、地元のボランティアグループやサークルを紹介する「お父さんお帰りなさいパーティー」を開催しています。

結果は、「知っていた」（「内容も含めて知っていた」、「名前は知っていた」の合計）方が19.3%、「まったく知らなかった」が72.8%となりました。

N=896

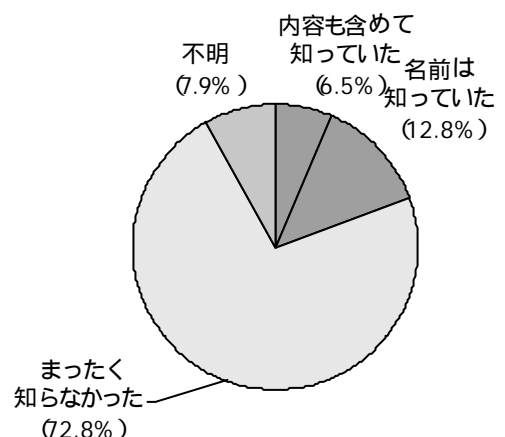


図 3 - 52 「お父さんお帰りなさいパーティー」の認知度

(6) 地域活動への参加を支援する催しへの参加意欲 (問 13-2)

～参加に前向きは約3割～

地域活動への参加を支援する催しへの参加意欲については、「参加したい」が10.5%、「どちらかといえば参加したい」が22.2%で、参加に対して前向きに考えている方は合わせて32.7%でした。

一方、「どちらともいえない」が36.8%と最も多くなっています。

N=896

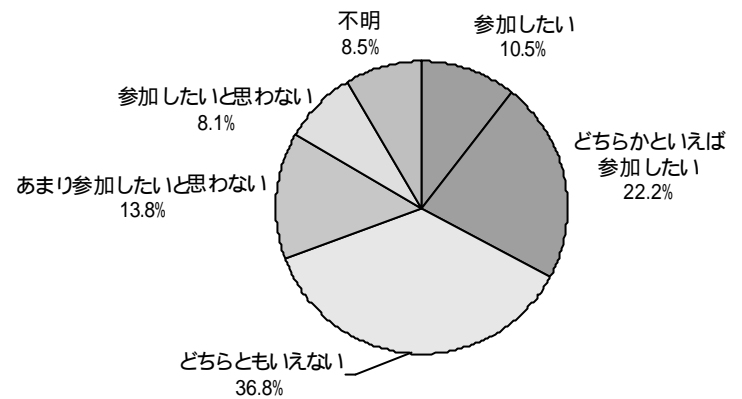


図3-53 地域活動への参加を支援する催しへの参加意欲

市内への居住年数別に参加意欲をみると、「3年未満」の参加意欲が高くなっています。

新しく武蔵野市に移ってきた方は、地域活動を通じてコミュニケーションを図ったり、地域のことを知りたいと感じていることが推測されます。

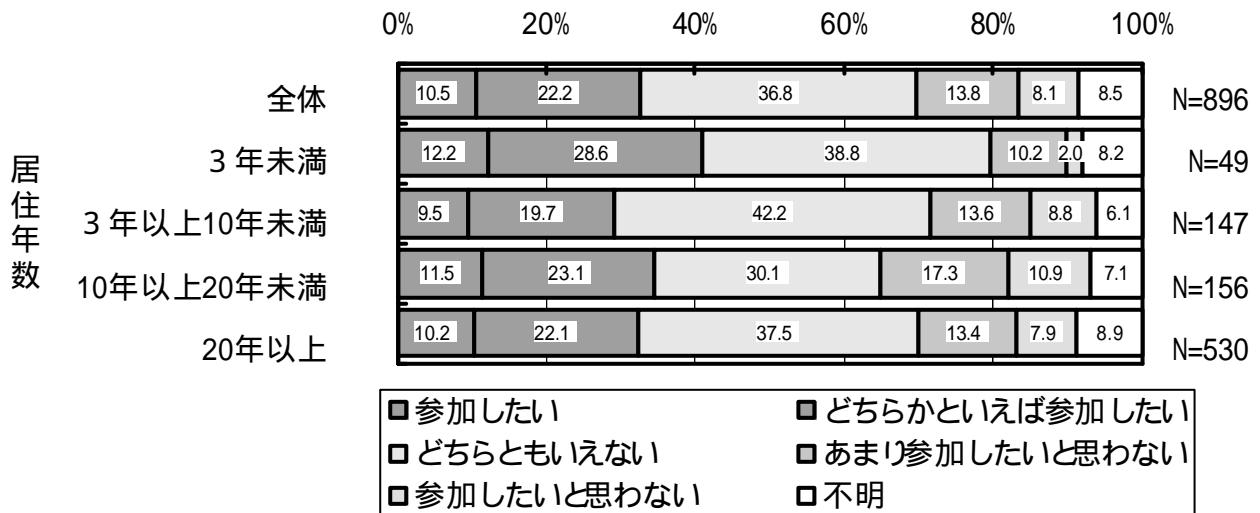


図3-54 市内居住年数別参加意欲

さらに、武蔵野市への永住希望、市政への関心の有無別に参加意欲をみると、やはり「永住希望あり、かつ市政に関心がある」という方の参加意欲が高くなっています。

「永住希望なし」では、「参加したい」方が 4.5%にとどまりました。

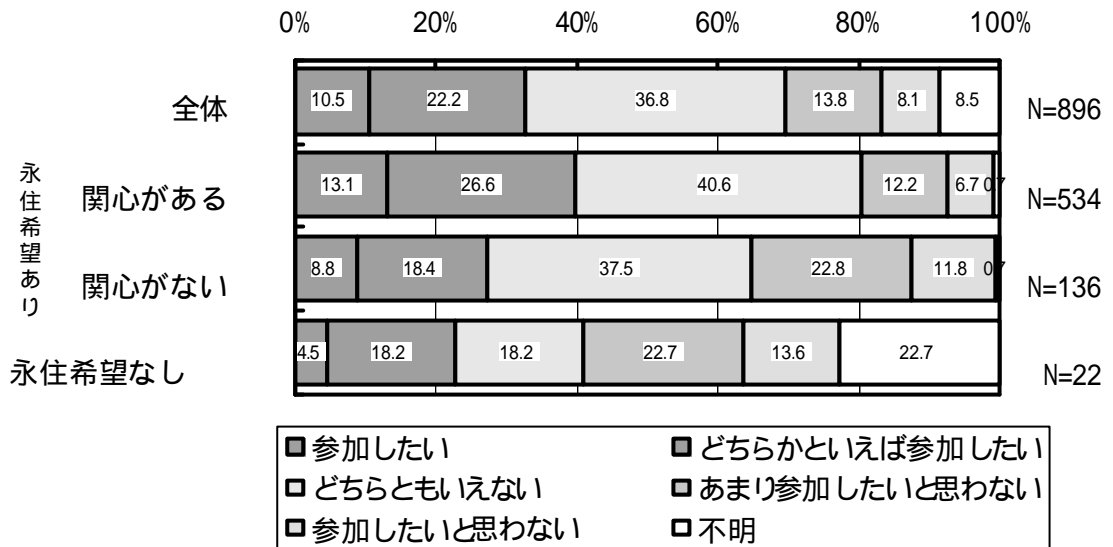


図 3 - 55 永住希望別、市政への関心度別参加意欲

「お父さんお帰りなさいパーティー」の認知度と催しへの参加意欲との関連をみると、やはりパーティーの「内容も含めて知っていた」方（58 人）の参加意欲が高くなっています。

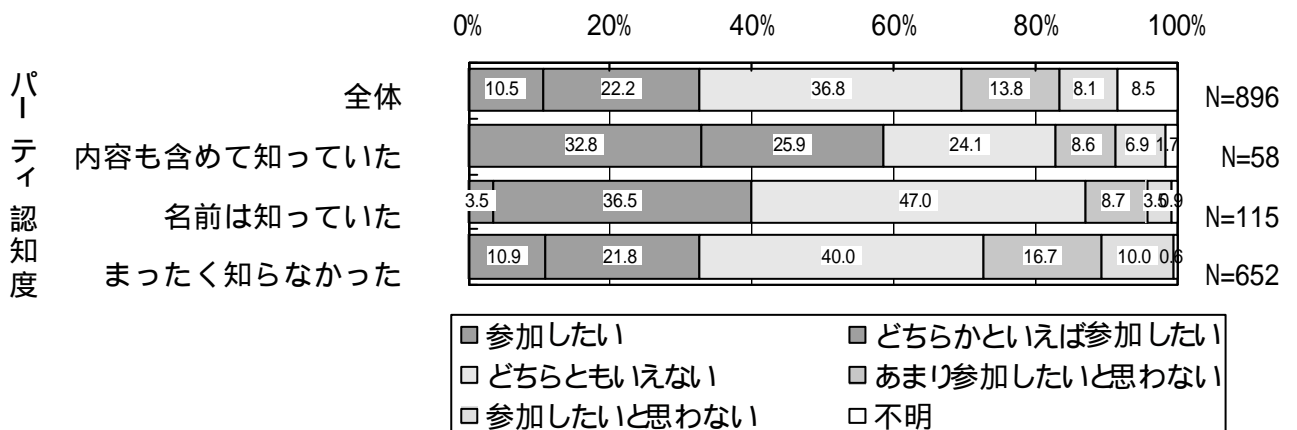


図 3 - 56 パーティーの認知度と催しへの参加意欲

3-4 武蔵野市政について

(1) 武蔵野市の市政への関心 (問 14)

～ 7割以上が関心あり～

武蔵野市の市政に関心がある方は、「とても関心がある」の14.8%と「関心がある」の56.5%を合わせて71.3%です。

一方、「あまり関心がない」は19.5%、「まったく関心がない」は0.9%でした。

N=896

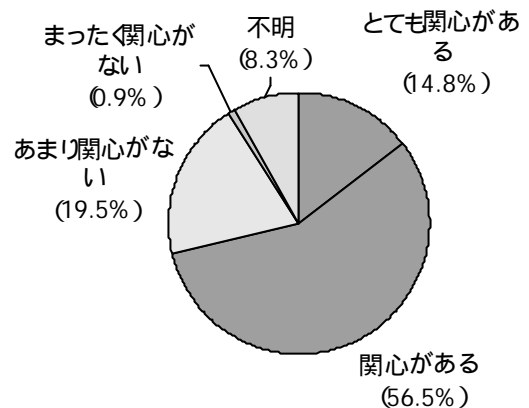


図 3 - 57 市政への関心度

市政への関心の有無については、市内への永住希望の有無により違いがみられます。

「永住希望あり」では市政への「関心がある」が73.4%ですが、「永住希望なし」では54.5%と、約20%の差がみられます。

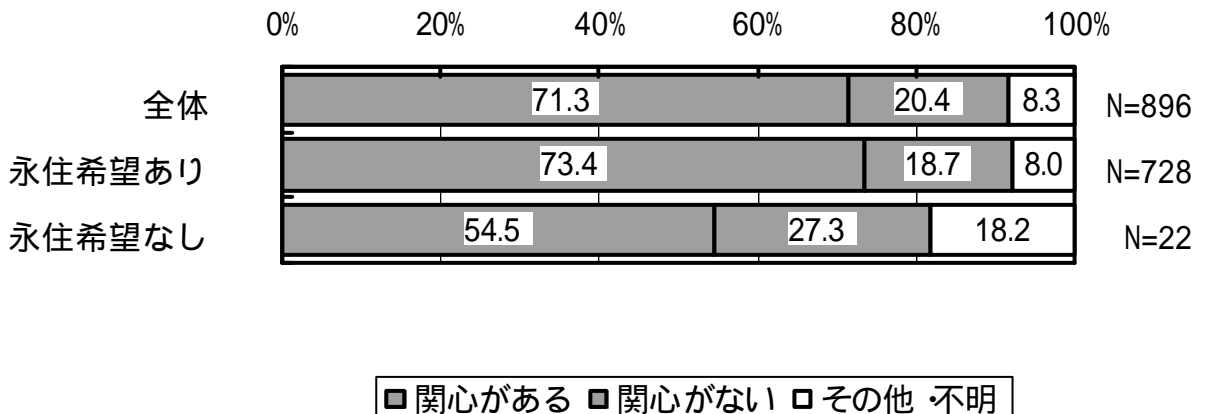


図 3 - 58 永住希望別の関心度

(2) 市政運営への参加意欲 (問 15)

～「関心のあるものには参加したい」が半数以上～

市政運営の参加意欲では、「関心のあるものには参加したい」が54.7%と半数を超えました。「積極的に参加したい」の6.1%と合わせると、全体の60.8%が市政運営への参加に前向きであることがわかります。

N=896

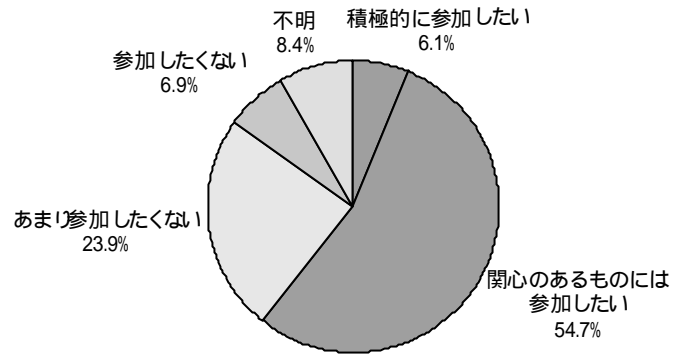


図3-59 市政運営への参加意欲

市政への関心度が高いほど、市政運営への参加意欲は高くなっています。

ただし、市政に「あまり関心がない」という方々の中にも、参加を前向きに考えている方が30.5%（「参加したい」1.7%、「関心のあるものには参加したい」28.8%の合計）います。

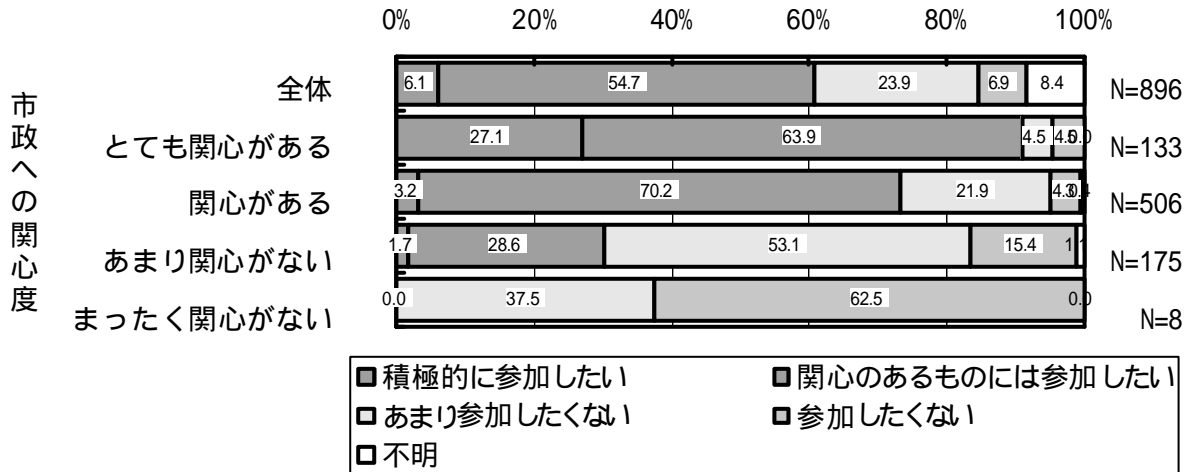


図3-60 市政への関心度別参加意欲

(3) 市民意見提示方法の認知度及び今後の利用意欲（問 16-1）

～「市長と語る会」、「市長への手紙」の認知度が高い～
～将来「利用したい」は、3～4割程度～

1. 意見提示方法の認知度

～男女別では女性の認知度が高い～
～パソコン、インターネットも認知度アップに貢献～

市民の意見提示方法の認知度で最も高かったのは「市長と語る会」52.9%、「市長への手紙」48.9%、「地元説明会」34.3%でした。

最も認知度の低い提示方法は、「各種計画策定時の中間とりまとめ報告などにおける意見募集」16.2%でした。

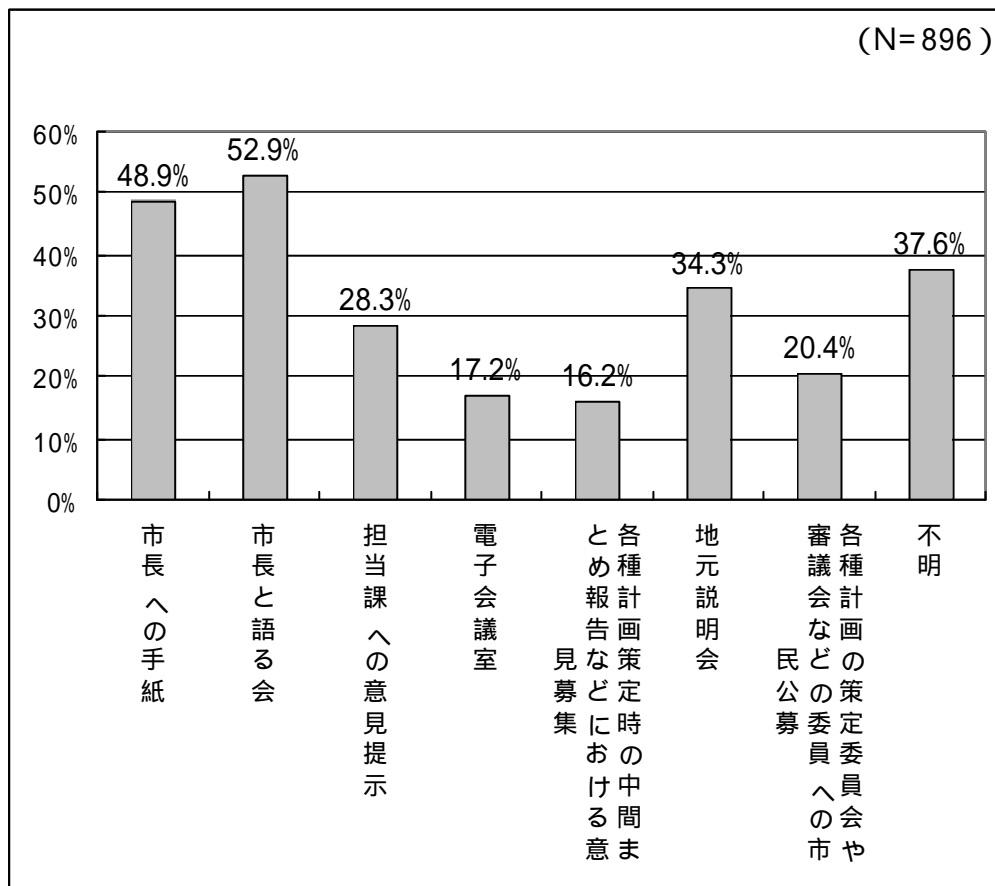


図3-61 市民意見提示方法の認知度

性別でみると、全体的に男性よりも女性が認知度が高く、特に「市長への手紙」、「市長と語る会」、「地元説明会」の認知度は、男性の認知度よりも10～15%程度も高くなっています。

携帯電話の所有別でみると、「所有している」方が「所有していない」方よりも認知度がわずかに高い傾向がみられます。

パソコンの利用状況でみると「よく使っている」、「たまに使っている」方（以上は、「パソコンを使っている方」）の認知度が、使っていない方よりも高い傾向がみられます。その差は携帯電話よりも大きくなっています。

インターネットの利用状況で見ても、パソコンの利用状況と同じような傾向を示しており、インターネットを使っている方（＝「よく使っている」、「たまに使っている」）では、使っていない方よりも認知度が高い傾向がみられます。

以上のとおり、最近普及している情報手段、特にパソコン、インターネット利用者は、市民意見提示方法の認知度が高い傾向にあります。

表3-1 市民意見提示方法の認知度（性別、携帯電話所有別、パソコン・インターネット利用状況別）

		(上段 実数値 下段 構成比)								
		市長への手紙(手紙・FAX・電子メールのいずれも可)	市長と語る会	担当課への意見提示(手紙・FAX・電話・電子メールのいずれも可)	電子会議室(武蔵野市ホームページ内にテーマごとに設置しています)	各種計画策定時の中間まとめ報告などにおける意見募集	地元説明会(道路や公共施設を建設する時などに開催します)	各種計画の策定委員会や審議会などの委員への市民公募	不明	合計
全体		438 48.9%	474 52.9%	254 28.3%	154 17.2%	145 16.2%	307 34.3%	183 20.4%	337 37.6%	896 100.0%
性別	男性	132 41.9%	143 45.4%	77 24.4%	54 17.1%	50 15.9%	93 29.5%	53 16.8%	137 43.5%	315 100.0%
	女性	205 57.9%	223 63.0%	118 33.3%	63 17.8%	63 17.8%	143 40.4%	87 24.6%	104 29.4%	354 100.0%
	不明	101 44.5%	108 47.6%	59 26.0%	37 16.3%	32 14.1%	71 31.3%	43 18.9%	96 42.3%	227 100.0%
携帯電話	はい	332 50.7%	355 54.2%	193 29.5%	114 17.4%	107 16.3%	229 35.0%	135 20.6%	233 35.6%	655 100.0%
	いいえ	102 44.5%	115 50.2%	59 25.8%	39 17.0%	37 16.2%	76 33.2%	47 20.5%	98 42.8%	229 100.0%
	不明	4 33.3%	4 33.3%	2 16.7%	1 8.3%	1 8.3%	2 16.7%	1 8.3%	6 50.0%	12 100.0%
パソコン	よく使っている	198 50.8%	205 52.6%	128 32.8%	81 20.8%	67 17.2%	133 34.1%	88 22.6%	147 37.7%	390 100.0%
	たまに使っている	116 54.0%	127 59.1%	58 27.0%	38 17.7%	35 16.3%	80 37.2%	46 21.4%	67 31.2%	215 100.0%
	ほとんど使っていない	61 49.2%	70 56.5%	31 25.0%	19 15.3%	22 17.7%	43 34.7%	25 20.2%	40 32.3%	124 100.0%
	使ったことがない	58 37.9%	66 43.1%	33 21.6%	15 9.8%	20 13.1%	48 31.4%	22 14.4%	76 49.7%	153 100.0%
	不明	5 35.7%	6 42.9%	4 28.6%	1 7.1%	1 7.1%	3 21.4%	2 14.3%	7 50.0%	14 100.0%
インターネット	よく使っている	160 51.1%	162 51.8%	104 33.2%	66 21.1%	49 15.7%	108 34.5%	65 20.8%	114 36.4%	313 100.0%
	たまに使っている	126 55.8%	139 61.5%	64 28.3%	38 16.8%	39 17.3%	84 37.2%	51 22.6%	71 31.4%	226 100.0%
	ほとんど使っていない	64 50.8%	74 58.7%	36 28.6%	24 19.0%	24 19.0%	47 37.3%	28 22.2%	36 28.6%	126 100.0%
	使ったことがない	82 38.1%	92 42.8%	46 21.4%	25 11.6%	32 14.9%	65 30.2%	37 17.2%	108 50.2%	215 100.0%
	不明	6 37.5%	7 43.8%	4 25.0%	1 6.3%	1 6.3%	3 18.8%	2 12.5%	8 50.0%	16 100.0%

2.利用・参加経験

～実際に利用・参加している方は2割程度(延べ196人)～

市民の意見提示方法の利用経験・参加率は「市長への手紙」6.1%、「地元説明会」5.6%などとなっています。

表 3-2 市民意見提示方法の利用・参加経験の状況

(上段:実数値 下段 構成比)

	市長への手紙	市長と語る会	担当課への意見提示	電子会議室	各種計画策定時の中間まとめ報告などにおける意見募集	地元説明会	各種計画の策定委員会や審議会などの委員への市民公募	不明	合計
全体	55 6.1%	39 4.4%	34 3.8%	1 0.1%	10 1.1%	50 5.6%	7 0.8%	762 85.0%	896 100.0%

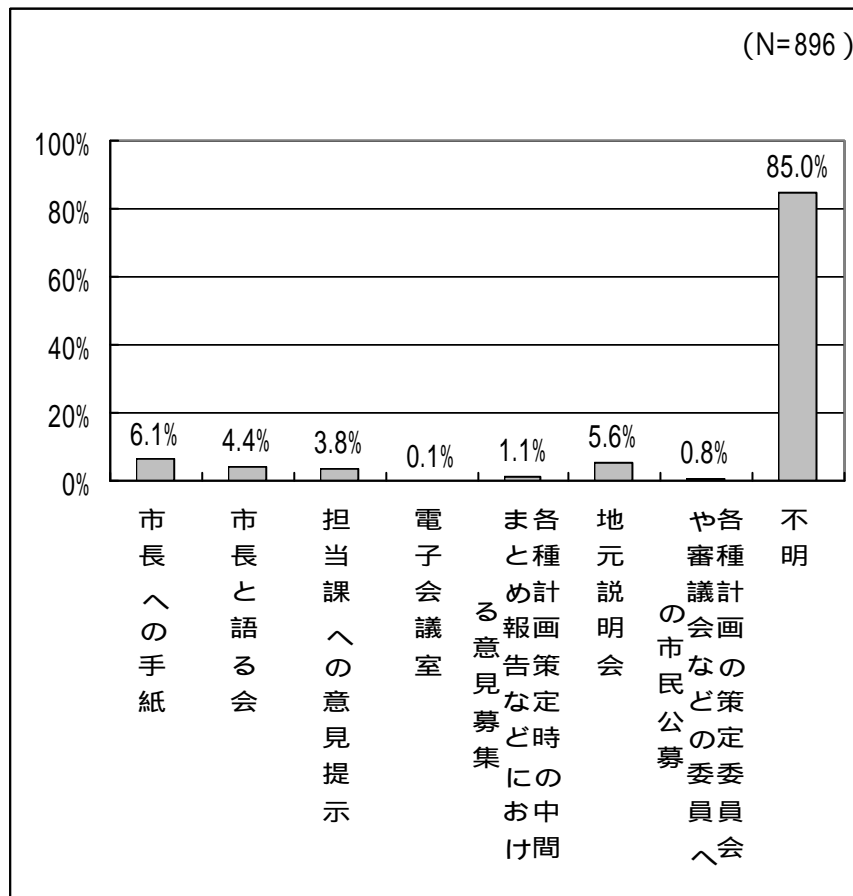


図 3-62 市民意見提示方法の利用・参加経験の状況

3. 将来の参加・利用について

～ 将来の参加・利用希望者は、3～4割～

市民意見提示方法の将来の参加・利用意欲は、図3-63に示すとおりです。

全体で参加・利用意欲をみると、「地元説明会」38.7%、「担当課への意見提示」38.3%が多く、またその他の方法についても、いずれも3割程度となっています。

現状と比較すると、「各種計画の策定委員会や審議会などの委員への市民公募」に参加したい方は大幅に増えていますが、参加したいと思わない方もほぼ同数となっています。

なお、「市長への手紙」、「担当課への意見提示」、「地元説明会」を除く意見提示方法では、「参加したいとは思わない」との消極的な意向も多くなっています。

さらに、無回答の方がいずれも3～4割と多く、判断しかねている方が少なくなっていくともわかります。

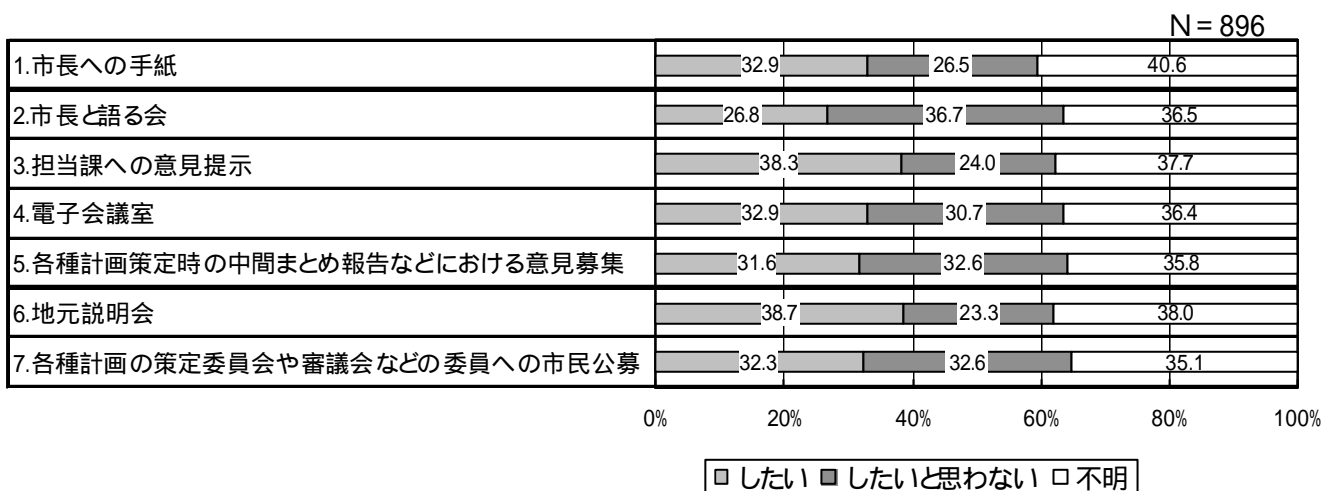


図3-63 市民意見提示方法の将来の参加・利用意欲

(4) 市民意見の市政への反映度に対する意識 (問 16-2)

～「活かされる機会がある」と感じている方が約半数～

市民の意見やニーズが市政運営に活かされる機会について、「十分あると思う」は 5.0%、「まあまああると思う」は 47.7%でした。合わせて半数以上の方が、市民意見が市政へ活かされる機会があると感じています。

また、「まったくないと思う」は 2.5%、「あまりないと思う」は 33.9%で、合わせて 36.4%の方が市民意見の活用が不十分と感じています。

N=896

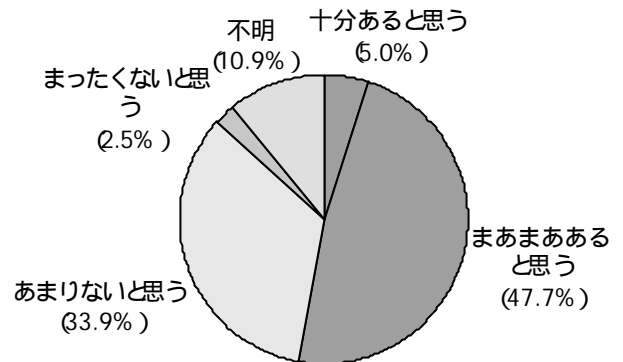


図 3 - 64 市民意見の市政への活用機会

(5) 機会が十分でないと思う理由、希望する意見の提示方法 (問 16-3)

～提示しても意見が反映されない、市の対応・情報公開が不十分など～

市民意見が市政に反映される機会について、「あまりないと思う」、「まったくないと思う」と感じる理由や、あったらよいと思う意見の提示方法について、178人の方々から回答をいただきました。それらの内容を分類すると次の表のとおりです。

表 3 - 3 自由回答の内容別分類表 (問 16-3)

区分	回答数
意見提示の機会がないと思う理由	104
意見を提示する暇がない	11
提示方法がわかりにくい・市のPR不足	16
意見が反映・活用されにくい	58
興味がない・市政に関心がない	11
その他	8
あったらよいと思う提示方法	23
各種アンケートの実施	5
FAX・インターネット・ホームページ等の活用	4
公共施設への意見箱の設置	4
その他	10
その他	64
市の対応が悪い	17
市の情報公開の不足	20
その他	27

(6) 武蔵野市の地域特性に対する意識 (問 17)

～「緑や水辺の豊かさ」は満足、「自転車のマナー」は不満～

武蔵野市の地域特性に対する意識で、「満足」、「まあ満足」を合わせた割合が最も高かったのは、「緑や水辺の豊かさ」60.8%でした。次いで、「高齢者福祉」48.2%、「市民の健康づくりへの取り組みやすさ」46.3%、「ごみの減量・リサイクル」45.9%などとなっており、環境、福祉関連の項目で満足度が高くなっています。

反対に、「不満」、「やや不満」を合わせた割合が最も高かったのは、「自転車のマナー」52.4%でした。次いで、「駅周辺の快適さ」37.0%となっています。

なお、「市の行財政改革」でも、不満(20.4%)が満足(13.9%)を上回っています。

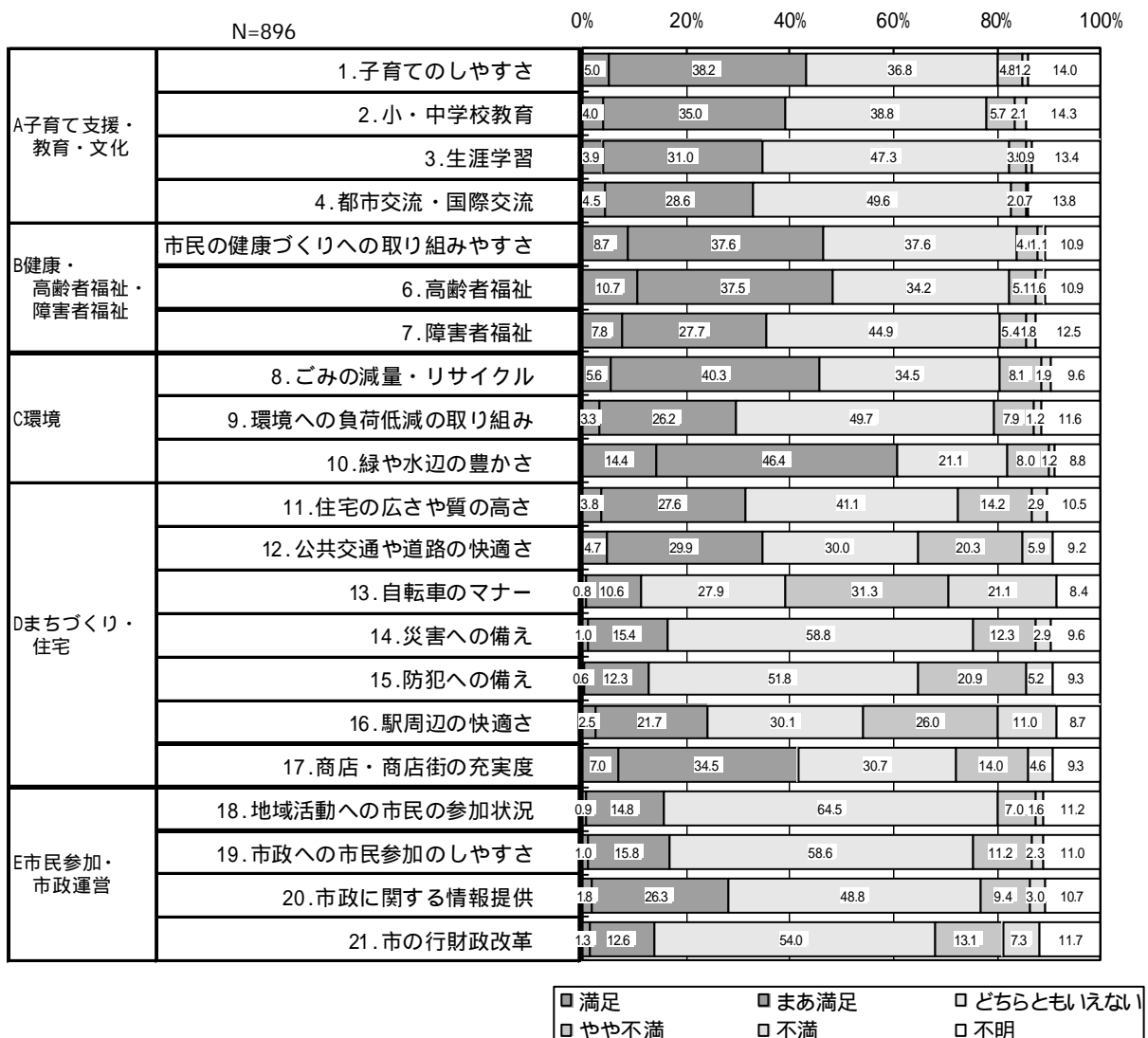


図 3 - 65 地域特性に対する意識

男女別に地域特性に対する意識をみると、男性では「子育てのしやすさ」、「小・中学校教育」といった子育て支援・教育・文化の項目で、女性よりも満足度が高くなっています。

女性では「市民の健康づくりへの取り組みやすさ」、「高齢者福祉」といった健康・高齢者・障害者福祉の項目で、満足度が高くなっています。また、「緑や水辺の豊かさ」、「市政に関する情報提供」における満足度が男性よりも高くなっているとともに、「自転車のマナー」における不満感も男性より高くなっています。

そのほかでは、男女間の差はほとんどなく、おおむね同じ傾向がみられます。

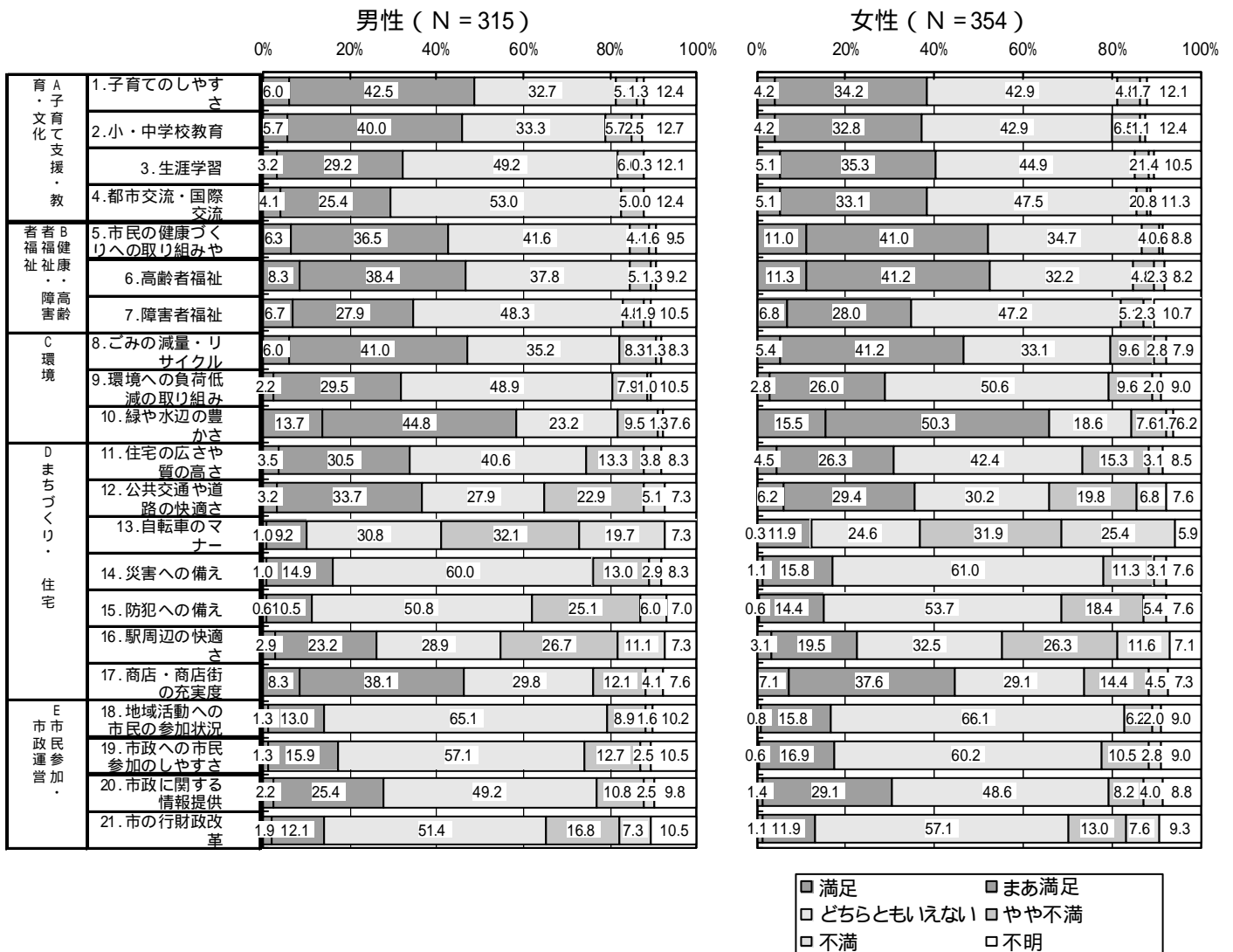


図 3 - 66 男女別地域特性に対する意識

(7) 武蔵野市の暮らしやすさ (問 18)

～「暮らしやすい」、「どちらかといえば暮らしやすい」が8割～

武蔵野市の暮らしやすさでは、「そう思う(暮らしやすい)」が35.4%、「どちらかといえばそう思う(暮らしやすい)」45.1%となっており、両者の割合を合わせると80.5%となります。

「そう思わない(暮らしにくい)」、「どちらかというとも思わない(暮らしにくい)」はそれぞれ、0.6%、2.3%で、ごくわずかとなっています。

N=896

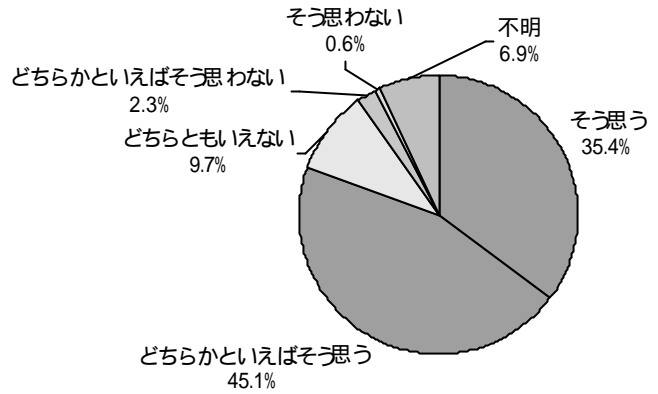


図3-67 武蔵野市の暮らしやすさ

市の暮らしやすさについては、市内居住年数により多少の差があり、市内居住20年以上で「そう思う(暮らしやすい)」、「どちらかといえばそう思う(暮らしやすい)」の割合が高くなっています。

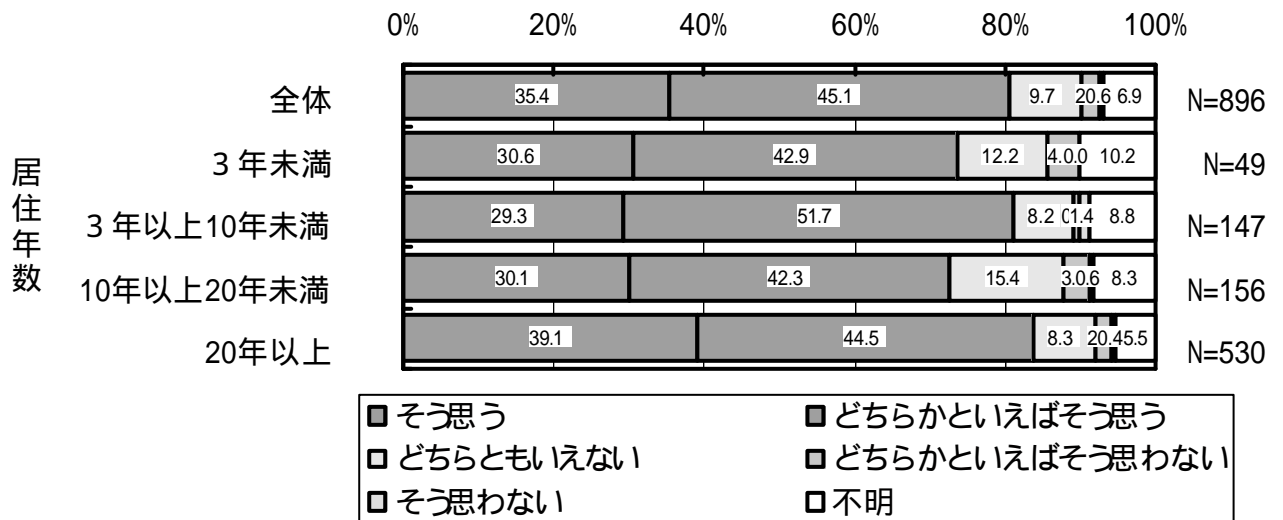


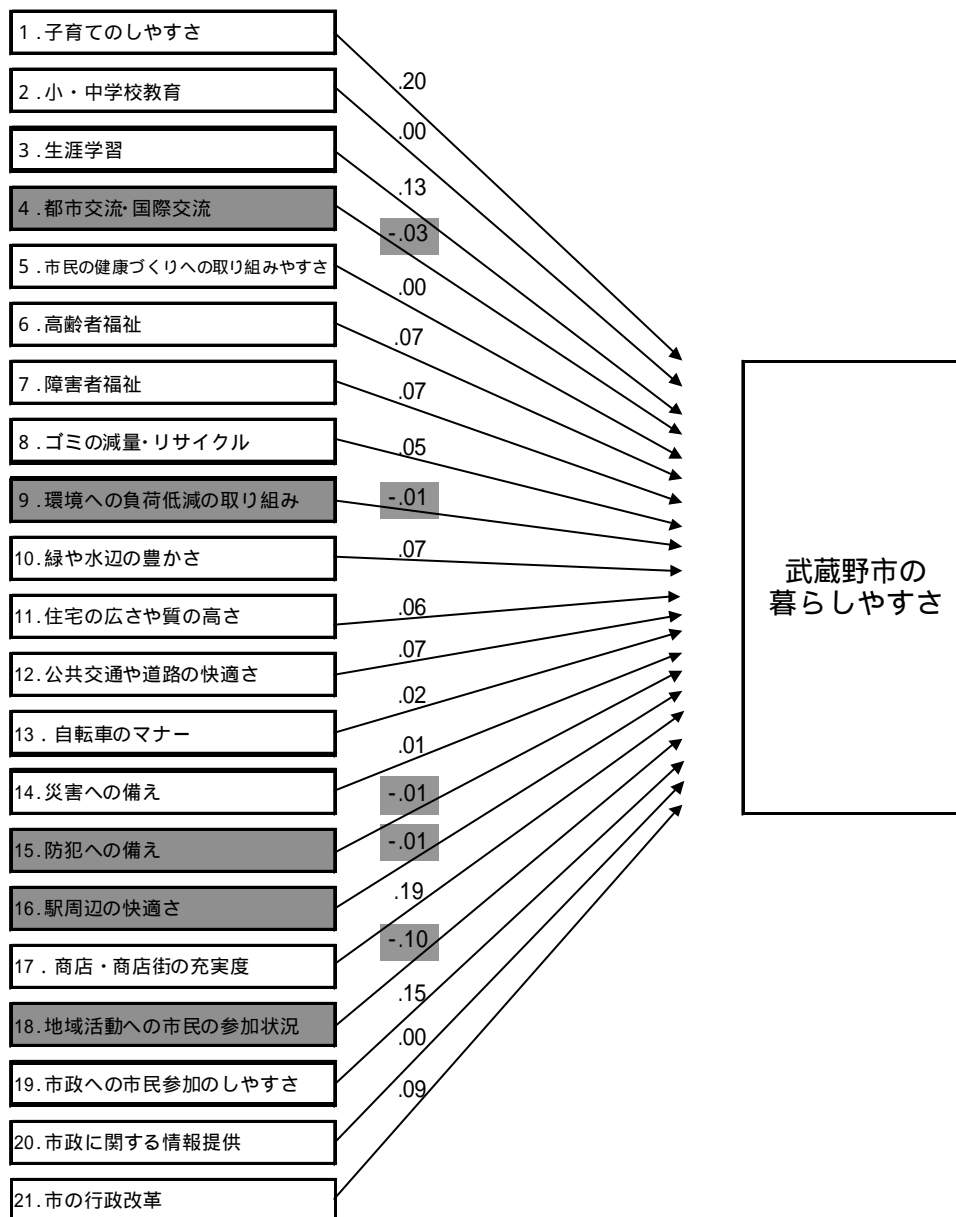
図3-68 市内居住年数別の暮らしやすさ

【参 考】

問 18 で尋ねた武蔵野市の暮らしやすさと、問 17 の地域特性における満足度の因果関係を分析しました。

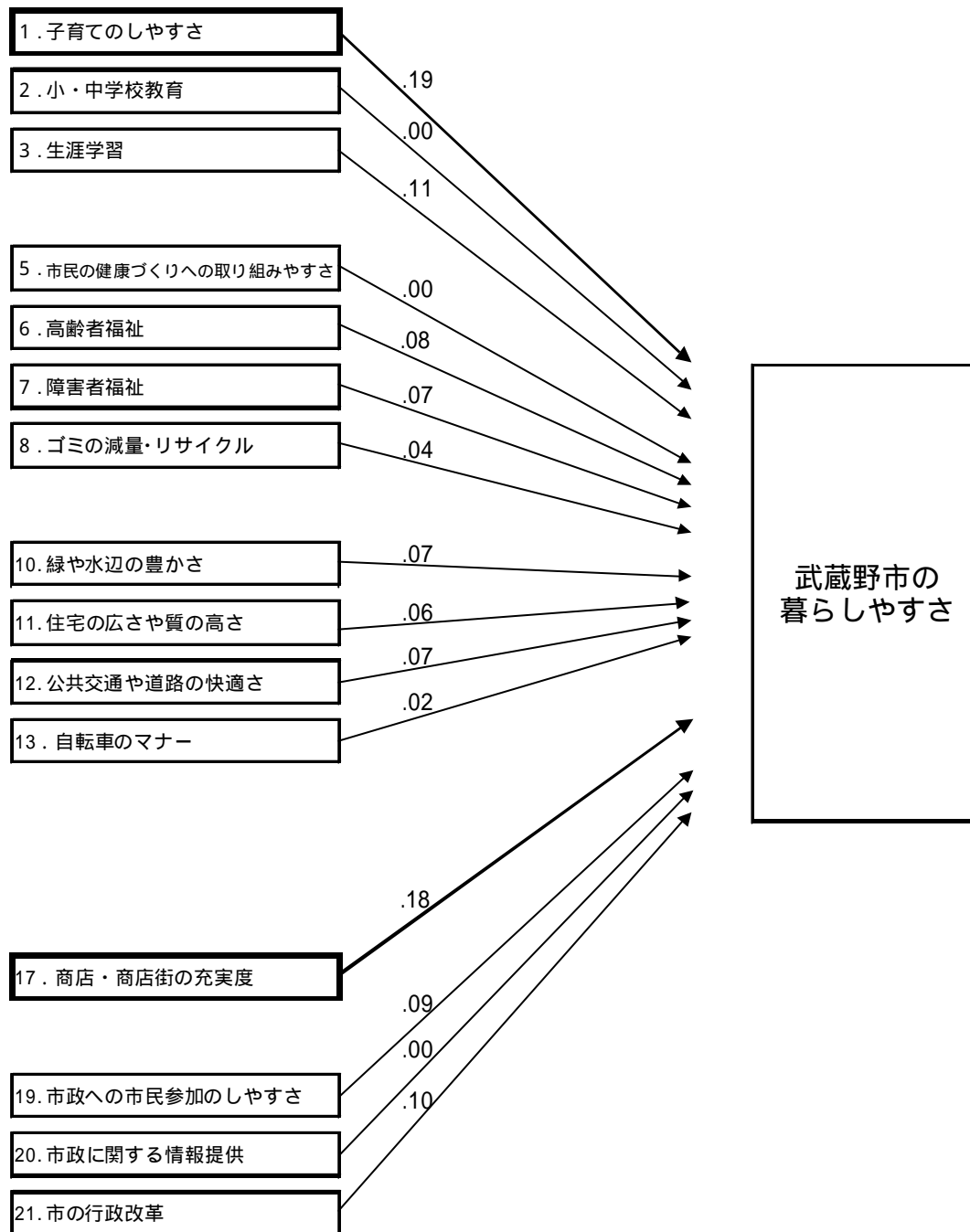
図 3 - 69 の分析結果では、地域特性における満足度のうち、「都市交通・国際交流」、「災害への備え」、「防犯への備え」、「駅周辺の快適さ」、「地域活動への市民の参加状況」で武蔵野市の暮らしやすさとの関係がマイナスとなり、これらを除いて図 3 - 70 のとおり再度分析を行いました。

その結果、武蔵野市の暮らしやすさは、「子育てのしやすさ」、「商店・商店街の充実度」の満足度との因果関係が比較的強いことがわかりました。



相関係数がマイナスの項目

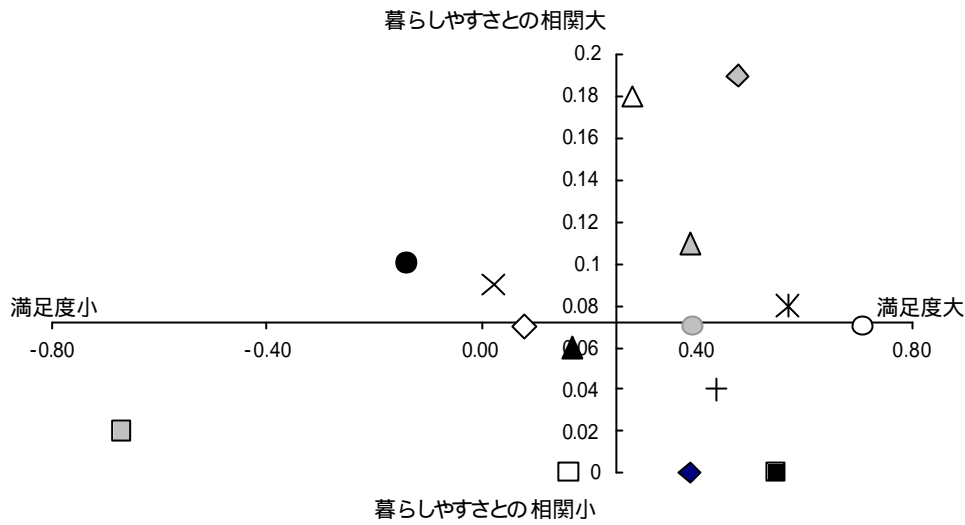
図 3 - 69 地域特性ごとの満足度と武蔵野市の暮らしやすさの相関（一次分析）



「14.災害の備え」は二次分析の結果、武蔵野市の暮らしやすさとの相関がマイナスとなったため、除外しました。

図3-70 地域特性ごとの満足度と武蔵野市の暮らしやすさの相関（二次分析）

1～21の地域特性における満足度を横軸、武蔵野市の暮らしやすさとの相関を縦軸にとると、分布図は以下のようになりました。



地域特性	満足度平均点
◇子育てのしやすさ	0.48
◆小・中学校教育	0.39
△生涯学習	0.39
■市民の健康づくりへの取り組みやすさ	0.55
✳高齢者福祉	0.57
●障害者福祉	0.39
+ごみの減量・リサイクル	0.44
○緑や水辺の豊かさ	0.71
▲住宅の広さや質の高さ	0.17
◇公共交通や道路の快適さ	0.08
□自転車のマナー	-0.67
△商店・商店街の充実	0.28
✕市政への市民参加のしやすさ	0.02
□市政に関する情報提供	0.16
●市の行財政改革	-0.14

満足度平均点；「満足」を2点、「まあ満足」を1点、「どちらともいえない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点として算出。

図3-71 地域特性の満足度と武蔵野市の暮らしやすさの相関分布図

「子育てのしやすさ」、「商店・商店街の充実」は、武蔵野市の暮らしやすさとの相関が高くなっています。今後、これらの項目について市民の満足度をより一層高めることで、効果的に武蔵野市の暮らしやすさを高めることができると予測されます。

(8) 武蔵野市への永住希望（問 19）

～「住み続けたい」が8割を超える～
 ～市内在住年数が長いほど永住志向に～

武蔵野市へ住み続けたいと「思う」方は54.9%で、「どちらかといえばそう思う」26.3%と合わせて、81.2%の方が、住み続けたいと思っています。

N=896

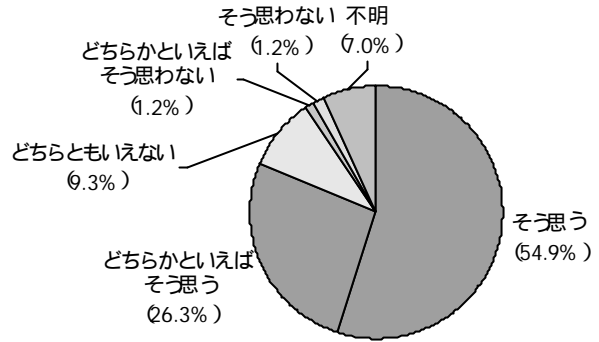


図3-72 武蔵野市への永住希望

市への永住希望は、市に暮らしやすいと思っているかどうかで大きく異なっています。

「暮らしやすいと思う」と思っている方では、「そう思う（住み続けたい）」が65.5%となっています。

これに対し、市の暮らしやすさについて「どちらともいえない」と思っている方や「そう思わない（暮らしにくい）」と思っている方では、永住希望者が半数以下となっています。

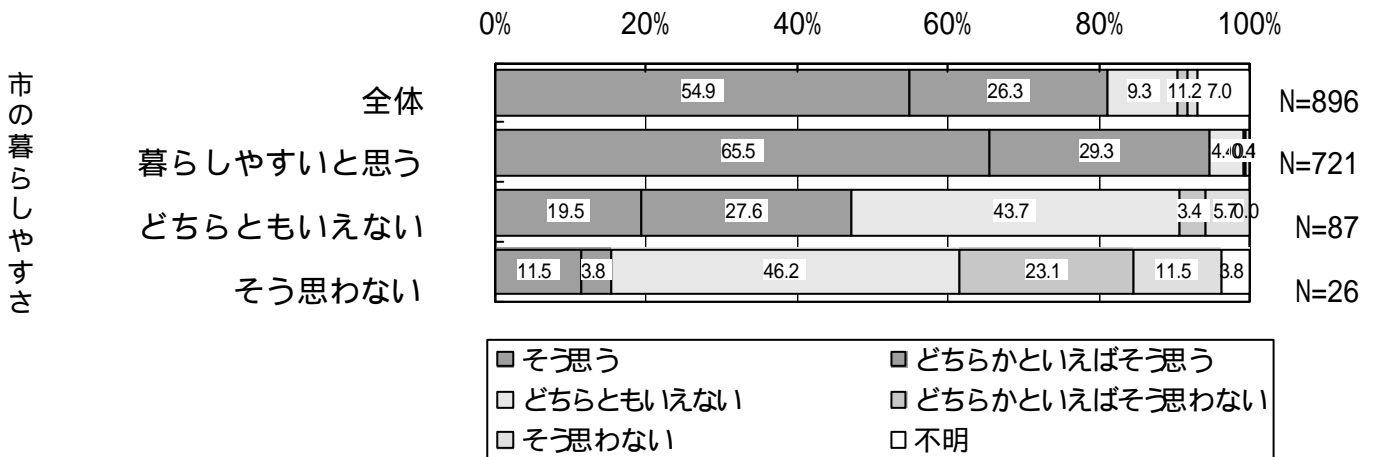


図3-73 市のくらしやすさと永住希望の関連

(9) 重点的に力を入れるべき施策分野（問 20）

～ 団塊世代は「健康・福祉」、「環境」などを重視～

市が重点的に力を入れるべき施策分野の配点をみると（5項目で100点満点）「健康・高齢者福祉・障害者福祉」が最も高く平均27.7点でした。次いで「環境」が平均24.1点で、以下、「子育て支援・教育・文化」18.7点、「まちづくり・住宅」16.5点、「市民参加・市政運営」13.0点の順となっています。

この傾向は、男女別・職業別・永住希望の有無別でも、ほとんど変わりませんでした。

N=814

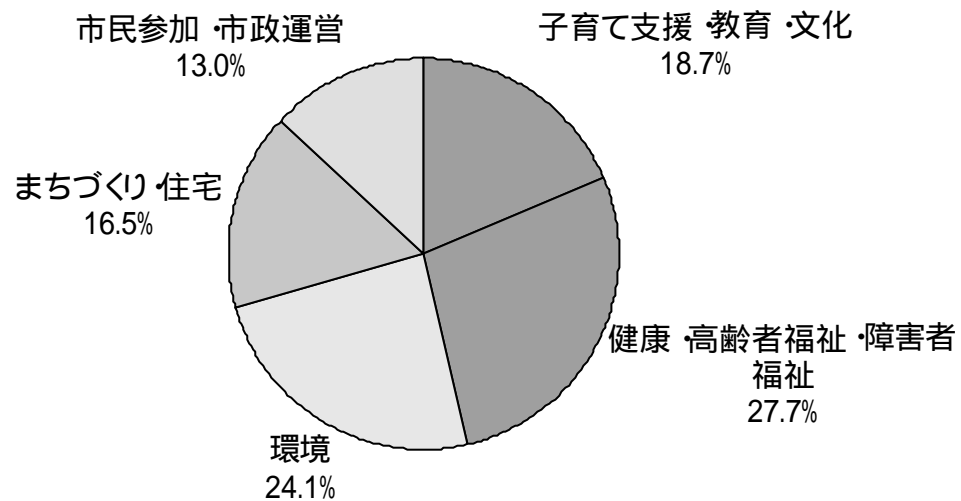


図3-74 施策分野の重点配分

(10) 市が優先的に進めるべき取り組み（問 21）

～ 施策を評価し改善したり、長期的視野で予算配分することが必要～

市が優先的に進めるべきであると団塊世代が考える取り組みとして、最も割合が高かったのは、「市が行った施策は、第三者を含めて評価・見直しを行い、改善につなげる」の47.8%でした。次いで、「長期的視野に立って、効果的な予算の配分や執行をする」45.0%となっています。

この設問では、「その他」を除くすべての選択肢で20%程度以上の割合となっていることから、どの施策も重要と考えられていることがうかがえます。

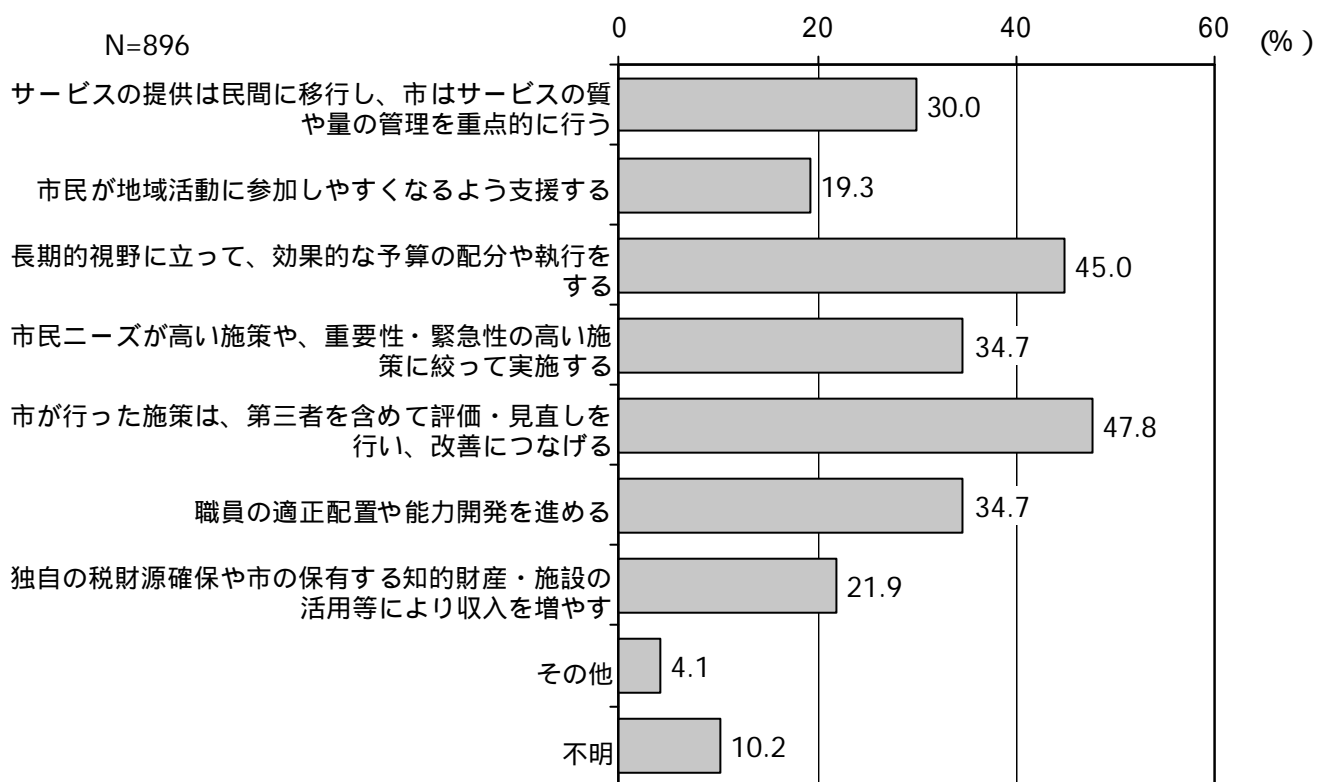


図 3 - 75 市が優先的に進める取り組み

(11) 市の取り組みで縮小した方がよい、やめた方がよいと思うこと(問22)

～まちづくり、市政など～

市の取り組みで縮小した方がよい、やめた方がよいと思うことについては、160人の方から回答をいただきました。

それらの内容を分類すると次の表のとおりです。

表 3-4 自由回答の内容別分類表(問22)

区 分	回答数
まちづくり	89
公共施設整備 維持管理	45
施設運営	14
交 通	6
教育・文化活動	12
福祉	8
その他	4
市 政	40
市政全般	11
行財政改革	29
その他	30
ごみ処理	10
その他	20
特になし・わからない	18

各項目の主な意見を以下に抜粋・掲載します。

1.まちづくり(89)

- ・道路の改修工事が多いように思う。必要性に疑問を感じる。
- ・道路上の工事(道路改修、上下水道、ガス・通信など)をもっと効率的にして施工して欲しい。
- ・公園について、管理をきちんとして欲しい。魅力的な整備をしないなら、これ以上小さな公園は要らない。
- ・これ以上大きな建物は要らない。予算の無駄遣いはやめて欲しい。
- ・市内にあらゆる施設を揃える必要はない。周辺市町村とも連携し、最小限の整備にとどめるべきである。
- ・新しく建物を建てるよりも、既存施設の有効活用を考えた方がよい。
- ・コミュニティセンターをもっと有効に活用すべき。

- ・公共施設(ハード)をつくるより、活動内容や運用方法などソフトの充実を。
- ・ムーバスは市民に均等なサービスを提供していない。
- ・行政サービス、財政が高齢者福祉に偏っていると思う。高齢者福祉にある程度の自己負担を求めても良いのではないか。
- ・介護・看護制度の充実を図るべきである。

2. 市政について(40)

- ・出版物が多すぎる。季刊誌・広報その他出版物は、内容の重複を避けて最小限にして欲しい。
- ・行財政の健全・効率化を図るため、事業・サービス内容の見直しをして欲しい。
- ・高齢者福祉や子育て支援に偏らない、均等な予算配分をして欲しい。
- ・市職員の整理(削減)、給与・業務内容の見直しを検討するべきである。

3. その他(30)

- ・ごみ処理の有料化は市民への負担となるので、やめて欲しい。
- ・公募による駐輪場の利用は、市民に平等でない。本当に必要な人や武蔵野市内在住者に優先的に駐輪ができるよう配慮して欲しい。

3-5 市のまちづくりに関する自由意見

武蔵野市の市政やまちづくりに対する自由意見（問24）

～まちづくり、市政、マナー・防犯など～

武蔵野市の市政やまちづくりに対しては、340人の方よりご意見をいただきました。それらの内容を分類すると次の表のとおりです。

表3-5 自由回答の内容別分類表（問24）

区 分	回答数
まちづくり	152
住環境整備	9
自然環境保全・景観等	26
生活基盤（インフラ）整備、交通安全対策	28
バリアフリー等への対応	10
公共施設の運営	21
交通利便性	13
交通安全対策	10
地域活動	17
雇用対策	7
その他	11
医療・福祉	32
高齢者対策	22
子育て支援、障害者対策	10
その他	8
教育・文化活動	27
市政	110
行政サービス、市政全般	34
行財政改革	31
情報公開	14
市民意見の提示・活用	8
市政への関心・参加	14
その他	9
マナー・防犯	102
違法駐車・駐輪	28
防犯・治安	24
ごみ処理	17
その他	33
その他	66
市の住みやすさ	21
その他	35
特になしわからない	10

各項目の主な意見を以下に抜粋・掲載します。

1.まちづくり（152）

<住環境整備>

- ・高齢者住宅、単身世帯住宅をつかって欲しい。
- ・若者が定住できる安価で魅力ある住環境の整備が必要。
- ・高齢者が生活しやすい環境をつかって欲しい。

<自然環境保全・景観等>

- ・緑と潤いのある自然環境を守って欲しい。また、緑化などによる緑の確保を。
- ・自動車の排気ガスによる大気汚染が心配。マイカー規制などの対策を。
- ・省エネ、省資源、クリーンエネルギーなど、環境問題に力を入れて欲しい。
- ・景観づくりの一環として、電線の地下埋設、電柱の撤去を望む。
- ・駅周辺をきれいにして欲しい。

<生活基盤（インフラ）整備、交通安全対策>

- ・駅周辺（三鷹駅北口、吉祥寺駅、武蔵境駅北口）の開発を進めて欲しい。
- ・公園施設（植栽など）をきめ細かく管理して欲しい。
- ・道路工事は、必要最低限に抑えて欲しい。
- ・安全な道路整備を推進して欲しい（細街路の拡幅、歩行者と自動車の分離）。
- ・通学路や駅前など、歩行者の多い道路について安全を確保して欲しい。

<バリアフリー等への対応>

- ・駅施設などにエスカレーター、エレベータを設置（完備）して欲しい。
- ・車椅子・老人の通行が苦にならない歩道の整備を望む。

<公共施設の運営>

- ・コミュニティセンター、テンミリオンハウスの有効活用を図るべきである。
- ・美術館、図書館の内容充実を。
- ・駐輪場の料金や利用システムについて改善するべきである。

<交通利便性>

- ・ムーバスや市営バスなどのサービス圏拡大（路線拡大）により、交通不便地域の解消を図って欲しい。

<地域活動>

- ・武蔵野市が好きになれるよう、子どもや若い世代を含めたイベントや活動を増やし、住民意識の向上を図って欲しい。
- ・年代に関係なく、ボランティア活動を充実させて欲しい。（有償も含めて）
- ・近所づきあいがなく、町内会もない。防犯、防災のためにも、近隣のコミュニティ形成の必要を感じる。市でネットワークづくりの先導をして欲しい。

<雇用対策>

- ・定年後も働き続けるために、高齢者の雇用対策を実行して欲しい。

<その他>

- ・新興住宅地や量販店の進出などにより、昔ながらの街並みがなくなってきた。昔からの商店街なども活性化を図って欲しい。

2.医療・福祉（40）

<高齢者対策>

- ・市は、高齢者支援への一層の配慮を。
- ・高齢者の医療施設を増やして欲しい。
- ・高齢者福祉事業の情報をわかりやすく提供して欲しい。
- ・親の介護で苦労している。介護施設を拡充するとともに介護方法の講座を開催して欲しい。
- ・高齢者がいきいきと住める市政、まちづくりを望む。

<子育て支援、障害者対策>

- ・武蔵野市から子どもが減少しないためにも、若い世代が安心して子どもを産み育てられるよう支援して欲しい。
- ・障害者への手当てを増やして欲しい。

3.教育・文化活動（27）

- ・中学校に学校給食を導入して欲しい。
- ・芸術活動など、市による文化事業の充実を望む。
- ・市内在住の文化的・知的水準の高い人材を市政や文化事業に活用して欲しい。
- ・次世代を担う子どもたちの教育及び教育環境の充実に力を入れて欲しい。

4.市 政（110）

<行政サービス、市政全般>

- ・高齢者や子どもに偏ることなく、すべての年代に手厚いサービスを。
- ・行政サービスにおける地域差は解消して欲しい。
- ・長期的な視野に立って施策を決定して欲しい。
- ・市民の声に応え、市民に開かれた市政をお願いしたい。
- ・土曜日、日曜日の市役所業務を実施して欲しい。

<行財政改革>

- ・市役所のスリム化、給与見直し、市議会議員の削減を望む。
- ・市職員一人ひとりの能力向上に努めるべきである。
- ・財政の健全化、税金使途の効率化を一層図って欲しい。無駄遣いは許されない。
- ・民間で出来ることは民間に任せてよい。
- ・「予算消化」はやめた方がよい。
- ・市政に対するチェック機能の強化が必要。

<情報公開>

- ・市政に関する情報公開を積極的に行うべきだ。
- ・調査結果などは、広報に載せたり、図書館で閲覧できたりするとよい。
- ・市議会や教育委員会の内容をもっと手軽に知りたい。

<市民意見の提示・活用>

- ・身近な市政とするために、市民の声をもっと採り入れて欲しい。

<市政への関心・参加>

- ・今までは仕事や子育てに追われ、なかなか関心が持てなかったが、今後（退職後）は市政に関心を持ちたいと思う。
- ・武蔵野市で生まれ育ったので、今後も市政には注目していきたい。
- ・このアンケートを通じて、自分が市について知らないことを認識した。

<その他>

- ・携帯電話を持っていない人や、インターネットを使えない人のことも考えて欲しい。
- ・市長の在任期間が長すぎる。

5. マナー、防犯（102）

<違法駐車・駐輪>

- ・駅周辺の違法駐車・駐輪、放置自転車は厳しく取り締まるべきである（何らかの規制、罰則も検討すべき）。また、駐輪場が足りないので整備して欲しい。
- ・違法駐輪が多く、歩行者・車椅子の通行に迷惑。

<防犯・治安>

- ・治安がよく安心して暮らせるようにして欲しい。
- ・防犯体制の強化が必要である。また、住民が自主的に防犯活動ができるよう、市もリードして欲しい。
- ・交番には、警察官が常駐して欲しい。
- ・夜間の公園に人がたむろしており、不安を感じる。

<ごみ処理>

- ・ごみの個別収集、有料化はよいことである。
- ・ごみの出し方についてルールが守られていない。
- ・ごみの散乱がひどいので、ごみ置き場を改良してもらいたい。

<その他>

- ・歩行禁煙など喫煙マナーの徹底のため、路上禁煙地区の設定やポイ捨て条例の制定を検討して欲しい。
- ・道路上に商品を並べたり、看板を出したりして営業している店を何とかして欲しい。
- ・ペットの飼い主のマナー（ふんの始末など）が欠如している。
- ・店の呼び込み等は不快である。

6. その他（66）

<市の住みやすさ>

- ・武蔵野市はとても住みやすく、満足している（交通利便性、福祉の充実、治安のよさ、自然環境などを理由として）。

【資料】 アンケート調査票 (省略)

* 別ファイルをご参照ください。

武蔵野市「団塊世代」市民アンケート調査報告書

発行 平成 16 年 3 月

武蔵野市 福祉保健部 生活福祉課

武蔵野市緑町 2 丁目 2 番 28 号

電話：0 4 2 2 - 6 0 - 1 8 4 8 (直通)

e-mail: sec-seifuku@city.musashino.tokyo.jp

この報告書は再生紙を利用しています。